萩尾望都

Hagio, moto

5月12日、福岡県大牟田市に生まれる。
別冊少女コミック連載の
「ポーの一族」シリーズで
爆発的人気を得て今日に至る。
1976年小学館漫画賞受賞。
名作「11人いる!」「スター・レッド」のほか、
最新作に「残酷な神が支配する」などがある。

カバー・イラスト……………萩尾望都
カバー・デザイン……………鈴木成一デザイン室

トーマの心臓

萩尾望都

Hagio, moto

小学館文庫

トーマの心臓

萩尾望都

小学館文庫
はA-3
¥676

トーマの心臓

萩尾望都

小学館文庫
はA-3
¥676

ISBN4-09-191013-0
C0179 ¥676E
定価：本体676円＋税

トーマの心臓

冬の終わりのその朝、1人の少年が死んだ。トーマ・ヴェルナー。そして、ユーリに残された1通の手紙。「これがぼくの愛、これがぼくの心臓の音」。信仰の暗い淵でもがくユーリ、父とユーリへの想いを秘めるオスカー、トーマに生き写しの転入生エーリク……。透明な季節を過ごすギムナジウムの少年たちに投げかけられた愛と試練と恩寵。今もなお光彩を放ち続ける萩尾望都初期の大傑作。

トーマの心臓

萩尾望都

目次

トーマの心臓 —— 3
エッセイ 大原まり子 —— 457

——ぼくは　ほぼ半年のあいだずっと考え続けていた
ぼくの生と死と　それからひとりの友人について——
その朝
トーマ・ヴェルナーは
郵便局で一通の
手紙を出した
まぢかに春
雪は水音をたてて
くつの下でとけた

ユーリ……ユリスモール！

ぼくは　ほぼ半年のあいだずっと考え続けていた
ぼくの生と死と　それからひとりの友人について

ぼくは成熟しただけの子どもだ　ということはじゅうぶんわかっているし
だから　この少年の時としての愛が
性もなく正体もわからないなにか透明なものへ向かって
投げだされるのだということも知っている

これは単純なカケなぞじゃない
それから　ぼくが彼を愛したことが問題なのじゃない
彼がぼくを愛さねばならないのだ
どうしても

今　彼は死んでいるも同然だ
そして彼を生かすために
ぼくはぼくのからだが打ちくずれるのなんか　なんとも思わない

人は二度死ぬという　まず自己の死　そしてのち　友人に忘れ去られることの死

それなら永遠に
ぼくには二度めの死はないのだ（彼は死んでもぼくを忘れまい）
そうして
ぼくはずっと生きている
彼の目の上に

トーマの心臓

キュッ
キュッ
ユーリだ
ユーリ!
ユーリ!
おはよう
おはようじゃないよ
聞いた?一大事!トーマが死んじゃったって
死んじゃった?
よーしよし泣くなよアンテ
泣くなよ
トーマ・ヴェルナー一学年下のかわいい子

先生は雪で足とられたんだろうって
おとついさ！おとつい土曜日の――
朝だよ
なんでまた……
ぼくらすごくショックだったぜえ　なんせ
陸橋陸橋陸橋から落ちてさ
復活祭の休日があけたばかりだろ
ほかにはなにごともなかった？
うんなにもみんな帰ってきたよ
そいで
トーマ・ヴェルナーはきみが好きだったんだよユーリ
あの茶番劇の結末はみんなも知ってると思ってたけどな！
……！

ちゃ……ちゃばん……だって……
…だってサ
ミサはいつもの時間？
うんそう
追悼だなじゃあとで
トーマは……！
よせよアンテ
ユーリにしちゃいいめいわくだぞ
アンテなぞ泣いてるわりには喜んでんじゃないの
じっさいライバルが消えてさ！
ユーリ
カチャ
あえてうれしいよところで聞いた？……
トーマだろ？ひどいさわぎだ
ドン！
やあオスカー
ん──机の上に
──いいものがきてるよ

かわいそうな
トーマ・ヴェルナー
死んじゃって
手紙?
フン
きのうきた
ぼくは学校にいたからね
……窓を閉めろよ 寒い!
バタン
消印あるだろ?
土曜の朝出したんだよ ——彼氏—— 事故のあった日だ
トーマの家 この市内にあるの知ってた?
いいや……

読むの？
いつもはやぶいてたじゃないか
もういない
彼…もういない
結局 トーマの最後の思考で最後のことばだ
だから読んでやらなけりゃ
代償は死か！
彼氏 自分がおとといに天国の門をくぐるなんて考えなかったろうにな
返事がほしいなんて書いてあったりしてさ……
ユリスモールへ
さいごに
スモールへ
さいごに
これがぼくの愛
これがぼくの心臓の音
きみにはわかっているはず
ユリスモール
さいごに
トーマ・ヴェルナー
一学年下のかわいい子
ユーリ
ユーリ
あの子
陸橋から
死んじゃった
落ちて
死んだ…

トーマ・ヴェルナーは ……… どんなふうに死んだんだ
……え!? ユーリ なんて声だい
そんなにおあつい手紙かい!
どんなふうに死んだんだ!
………
事故か!
どうした …… ユーリ
……うそ…だ……
こいつはきみあてのユーリ…
遺書だぜ ――
遺書

まっぴらだ!
……こんな……
ミサの時間だぞ
ああ
いくよ
ユーリ!
きみあての遺書だぜ
や
おはよう!
おっはよ!
おっはよっす

聞いた! トーマの事故
うん もう上級生も みんな 知ってるよ
ほんと
かわいそうだよね
すなおで いい子 だった のにね
運が なかったん だよ
シュロッターベッツ 高等中学 創立以来の 悲劇だって だれかが いってた
あの 陸橋 知ってる すごく 高いの
だよ おしい なあ いとしの フロイ ライン
リーピ リーペ リーベ
顔なんて くだけた ろうね
よせよ
雪ふって たんだろ
…ソー ゼツ…
ユーリ

悲しいことを お知らせ しなければ ならない

シッ
ほらね
シッ

中等科四年の（十三歳）トーマ・ヴェルナーくんがなくなった
おととい 土曜日に

レーム駅近くの陸橋の金網のやぶれ目から――
足をすべらして落ちたらしい――
……まったく不幸な事故であった
彼は わが シュロッターベッツの――
……よき生徒……
――このうえなく……
……ユリスモールへ　さいごに……

これが　ぼくの愛
――こんな話は
まえにも聞いたな
旧約聖書――だった
これがぼくの心臓の音
神さまへささげる羊のかわりに
愛する自分の息子の首を裂いて
祭壇にまつろうとした信仰深い男
きみには
わかっているはず
これは
いけにえか……？
――わかってるはず
ぼくへの…？……みずから命を絶って……？
ユーリ

………
ガタン!

……トーマ・ヴェルナーは自殺したんだ!
きみに遺書をのこしてね

どうする先生に司祭に友人に
彼の家族に知らせるかい

金網が破れてなくてもトーマは陸橋から落ちたんだと
………
やめろそんないい方

自殺の原因は……
黒い髪の上級生へのつのる恋心にたえきれず

おちつけよ

――きみはトーマが好きだった?
ほんのすこしでも?
いいや!

……いいや……
授業をうけるかい委員長
うけるよ
うけられるかい?
………
エスケープだこいよ
だめだよ!
まてよユーリ
なにも　じゃいうことはないんだな
ぼくのことだきみに関係ない!
……
なにが起こったのかまだわからないんだなんていえばいいんだ?
きみはぼくになにをいってくれるんだ?
トーマ・ヴェルナーは自殺したんだ!

いい天気だったね
昨日のお葬式

うん よく晴れてたね このごろめずらしく
花ばかりできれいだったね
彼 兄さんいたの
ふたりともシュロッターベッツの卒業生なんだよ
トーマのお母さんってトーマにそっくりでさ
声も似てたよ
やさしそうで
かわいそうだね ずっと泣いてた
ユリスモール きみ なんでお葬式にいかなかったの?
なんでって? 彼 学年がちがうだろ ぼくたちのクラスじゃない
あれ だって! 同じ学校だろ きみ クラスの委員だろ
それに きみ トーマを知ってたじゃない

——ぼくは彼が気にくわなかったし
ガタ！
残念だけど今でも気にくわないね！
白羽の矢だれにあたったと思う？
毎週土曜にトーマが招待うけてた上級生のヤコブ館のお茶会！
アンテだろ！
あーたり！あのこなまいきなガキ！
やっぱトーマが死んでアンテとくしてるよ！
なあ　ユーリはあの茶番劇のことまだおこってんのかな
さあ
ヤコブ館に対抗してわれわれもなんかやるか？
三月ウサギのお茶会ぐらいならできそうだな
フム
ルイス C キャロル
トーマなんぞに好きだっていわれたらウソでもなんでもうれしいけどな
もう死んじまったんだから許してやりゃいいのに

あれなら さいしょは ゲームだったん だろうさ
なんせ アンテと トーマ ふたりして
どっちがあの 黒い髪の おかたい 上級生を くどけるかって 始めたん だからな
クラス委員で 図書委員で 成績がトップで
品行方正 マイナス点なし スキャンダルなしの ユリスモールをね
あのふたり 仲がたいそう よかったし
そろって 上級生の お気にいり だった
あの子 なにかと 理由つけて つきまとって きた
へんな子だと 思ってたら
ユーリ

アンテとトーマがやってるカケのこと知ってる?

知ってるかもしれないけどなんせさ

学校中の生徒が注目してんだぜ きみがトーマにまいるか否か――

Und der wilde Knabe brach 's Röslein auf der Heiden Röslein

それはほんとに
茶番劇だったろうさ
きみにとっても
みんなにとっても
アンテに
とってもね
きみは
読まずに
捨てたけど
ユリスモール
内容は
さっしてたん
じゃない？
あのあと
トーマは
きみに
何通か
手紙を
よこしたろう
どうして
死にいたるほど
愛せる？
ぜったいに
かんたんな
ことじゃ
ない
トーマは
本気で
きみが好き
だったんだと
思うよ
ユリスモール
ユリスモール
これが
ぼくの愛
これがぼくの
心臓の音
きみには
わかっているはず、
ま……
だから
どうしろっ
てわけ
じゃない
彼のために
すこし
泣いてやっ
て——
忘れるん
だね
あとは
わから
ない……！

その種族はザクセンシュワーベンバイエルンフリーセン……

フランケンチューリンガーこれらで東フランク王国を形成しました

よろしい　あユリスモール
さて　あこれが事実上の国の誕生である

さて　あドイツという語源はどこからきたか？　あさてまたのちに——

キュ
キュ
キュッ

X＝2x(y＋z)＋z
Y＝2z(x＋……

……よくもつな……

ポン

しごくまじめに授業に出てるねこのごろきみはオスカー
なんです？

いやユリスモールだがね……
同室だろう……なにかあったのかね？
成績はいいんだが……このごろ

へえ？彼が？
このごろ？

……いや……わたしの

カンチがいかも……
からだでも悪いんじゃあと……
いや……呼びとめて悪かった

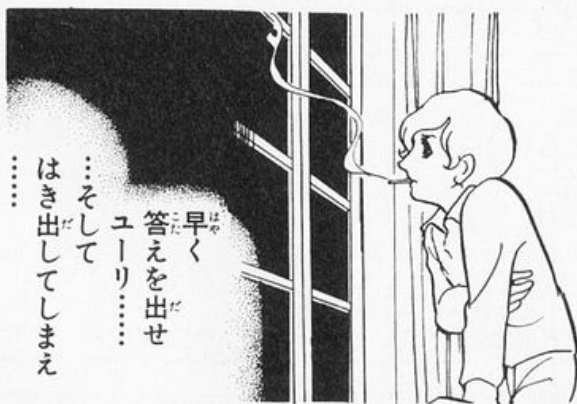
ホーマン先生がきみになにかいったろう

健康状態を聞いたよ それとレポートのできがよかったってさ
そいつはけっこう
それ数学かい

そうだよ
一本どう？

そんなもの
すう気は
ないよ
シュッ
必死だね

……

なにかで彼の
気にさわると
からだ中
から
青い火花が
散る
かたん！
……まったく

早く
答えを出せ
ユーリ……
…そして
はき出してしまえ
……

あっ

あ……
あ……!
ユーリ
カチ

なんでもない……夢を見たらしい
へえ

……ひどくおそろしい夢なんだろう
青い顔してる
なんの音だ!?
風だよ
何時?
三時まえ
いちばん人が死ぬ時間だな
どうねむれそうかい
……
消すぜ
だれかいる!
!
ユーリ?
……立ってる!
バカをいえ……
だれがどこにいるってんだ
いるんだ!
そらそこにドアの外に音が……

おちつけよ
ユーリ……
こっちを向け！
彼だ
彼がたってる
トーマが
トーマが
立ってる
！
ドアの
外に！
だれも
いないぜ

……

こいつも
夢か
ユーリ　もう
いいかげんに
しろ

なんだ……
トーマ・
ヴェルナーの
ことだ！
思いつめて
いるのは
責任感
からか!?
――愛された
ことに対する――

なにかいえ！

あ……

……!!

ユーリ！
おいっ！
あ……あぁ
あ
胸が重い！
手をどけろ
くる……しい
く…る……
息……
どうしたんだ
ユーリ　ユーリ！
つめたい……
……トーマ！
手をどけ……
……や
め…
……あ

まさか……

まさか……

こんなことぐらいで……
冗談じゃない
ユーリ
ユーリ
ユーリ！
ぼくが呼んでるのが聞こえないか！

……
だれだ?
……!
がたん!
きっ!
だれだ はいって こい
タオル!
え……?
タオルだ アンテ 早く!
バタン
は……

こ
これっ？
ほうるよ！

トンマ
しぼって
こい！

パサッ！

……

はあ……

……ユーリは
どうしたの
べつに！
……ただの
発作だよ！

じゃ……病気じゃない…ユーリさ医師を呼ばなくていいの？
ユーリが自分でなおすしかないのさ……こいつは
一級下のアンテ・ローエだったなすぐ上の部屋の
そ そうだよ
声がしたからなにかと思って
どのみちもう用はないよいって寝な
おやすみ
ドアをしめていけよ！
チッ……

なんだ まだなにか 用か?
見せ場は もうないぞ なにをしてるんだ そこで

な…に…も……
ただね…… ユーリが 病気だって ことさ

今夜のこと ふいちょうして まわるほど バカか おまえは アンテ
いいや
キッ

でもさ…… 約束の お礼ぐらい いいだろ……?

なにが ほしいんだ?

…… ユーリに やったみたいに

はあ アンテ おまえも 息苦しいのか
そうだよ

よし こいよ
……いやだ そこ 明るいから

あ……
グッ！

ほら終わりだ
いけ
………

バタン

………

アルコホル→アルコールのコト

コニャック→ブランディ

なぜ
愛したんだ……?
なにを
望んだんだ……?
ぼくになにが
できる
なぜ　トーマ
ぼくでなければ
ならない……?
なんて香りの
きつい花だろう
──熟しきって
甘く重い
からみついて
くる……
……

んっ……

今日は授業に
出るな
先生たちには
ぼくから
いっておく

……ああ
……なにも
したくない
いい傾向だ
一週間ほど
やりたいように
やるんだな

バイ

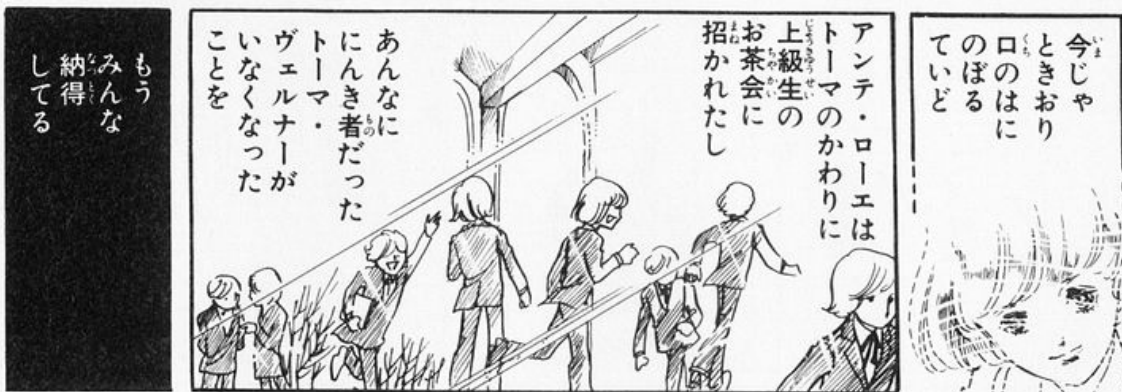
ガシャン!

クルッ!
!

もう日びは
とっくに
もどってる

かわいそうな
トーマ・
ヴェルナーが
事故で
(まっ ほんとは
自殺だが)
死んで
しまったのは
もう半月もまえ
過去のこと
なんだ

やあ
オスカー
おはよ
ユーリは?
彼
ちょっとね
偏頭痛

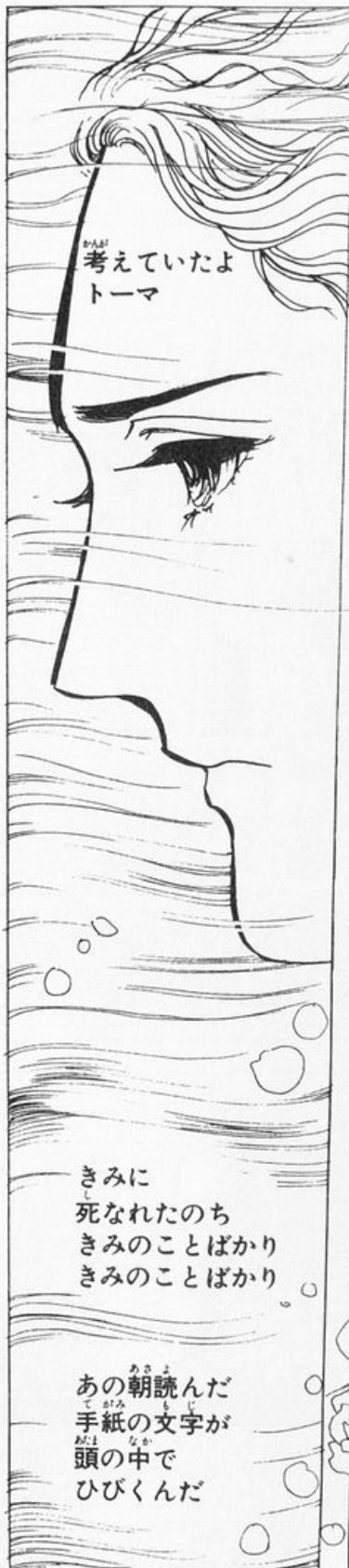
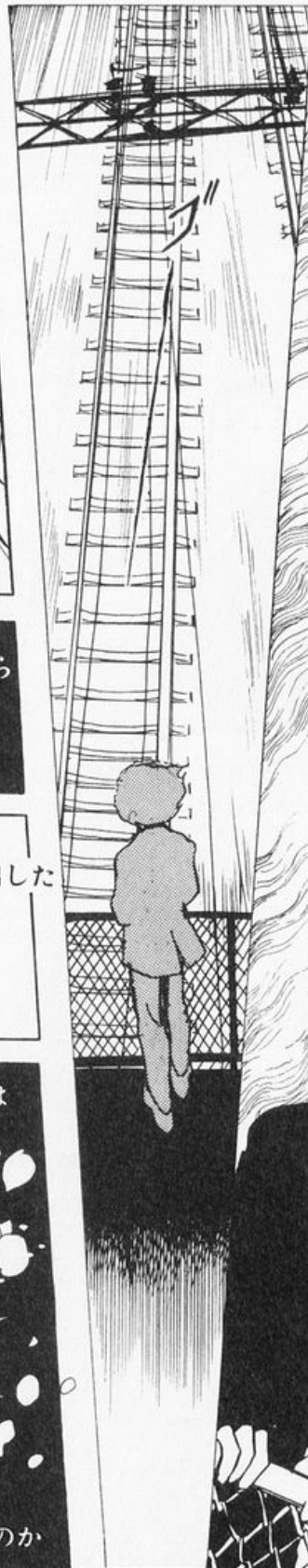
今じゃ
ときおり
口のはに
のぼる
ていど

アンテ・ローエは
トーマのかわりに
上級生の
お茶会に
招かれたし
あんなに
にんき者だった
トーマ・
ヴェルナーが
いなくなった
ことを

もう
みんな
納得
してる

みんな
忘れて
いく

……だから
ユーリも……

——忘れて
しまえ——!

数行の遺書……
トーマからの
死ぬまえに出したぼくへの手紙
バタン

プワァ
ギィ
この高い陸橋から
とびおりたのだ
ぼくの腕を
めがけて——
ぼくに
遺書を出した
あとで
そして　ぼくは
どうすれば
いいのだろう？
彼のあとを
追えとでもいうのか
考えていたよ
トーマ
きみに
死なれたのち
きみのことばかり
きみのことばかり
あの朝読んだ
手紙の文字が
頭の中で
ひびくんだ

〝ユリスモールへ
さいごに——〟
文面
覚えてしまった
〝これが
ぼくの愛〟
〝これがぼくの
心臓の音〟
〝心臓の音——〟
静かな道だ
やあ
トーマ
やってきたよ
ぼくだ
ぼくだ——
手紙を
ありがとう
——遺書を——
これがぼくの
返事だ!
きみなどに
支配されや
しない!

なにが真実かはぼくが自分できめる……！
それはすくなくともきみじゃない！
きみじゃない！—二度と——
—ぼくのまえに現れるな——トーマ・ヴェルナー！

……
トーマ ヴェルナー!?
……あ!

ーまてよ！
ガッー
………
きみ…
なんだい
ユーリ

ユーリ…？

ぼくを知ってるのか!?
へ……え？
へえまぐれあたりだ！
きみもシュロッターベッツの学生？

……！

…転入？
そう高等部の一年に
きみーも高等部？

どこからきた？

ケルン…さウェストファーレンの…
なんて名だ……？

……
気にいらないな！

なまえを聞いてるんだ
聞いて……ね
いい態度じゃないか！

…トーマ・ヴェルナーを知ってるか
!?
知らないね!すくなくともぼくの名まえじゃないそれがどうした!?
自殺した子だ
へぇ そうぼくにどんな関係がある?
まるでないさ
やたら顔がそっくりだっていう以外にはね
へっバカバカしい!

ユーリ?
へんなやつ!
なんだ?
あの目は……強引な
いきなり
呼びとめて
質問ぜめ
どだい
七月なんて
名まえのやつに
ろっくなやつ
いないんだ
気にくわ
ない
気にくわ
ない
親父づら
して
ユーリ・シドめ
あのヒゲの
ニヤケ男め
オーストリア
貴族の
末裔だとか
ママ・マリエを
だまして
マリエも
マリエだ
恋人をとって
ひとり息子を
こんな
いなかの
学校へ
おっぽって
後悔すんなよ
くそっ

ごめんよ！きみ なんだい 転入生？ なら 通用門は 左手に…
ごめん！
…ヴェルナー？
？
おい！
はん？
彼…
おい… 見ろよ
へえ…？
ふーん
転入生 かい？
だよ
なんだ ものめずら しそうに
転入生 らしいぜ！
あれ？
転入？
へったな くちぶえ！
見ろよ しかし どういう わけだ？
あいつ トーマの なんだ？
うり ふたつだ
トーマ？
あ
自殺した？

どこ見てる
気をつけろ
ドン!
アッ
しっけいだ
そっちこそ!
まてよ
転入生か?
聞きあきたよ
そのセリフは
悪かったな
校長室は
こっちだぜ
へ……え…
おっと
気にさわったら
しっけい
でも耳に
いれといたほうが
いいな　きみ…
ああ
つまり
自殺した
トーマなんとかに
似てるって!?

……
自殺？
トーマ・ヴェルナーは事故だよ
陸橋から落ちたのさ
――だれだい
そんな劇的でロマンチックでバッカバカしいこといったの！
……知るもんか！
ユーリってへんな子さ
ユーリ……
ユリスモール・バイハンか……ああ
……あいつはたしかにすこしおかしいよ
わかん…ないな
どうも…やだな
トーマ・ヴェルナーってなに者さ？
そうもぼくと似てた？
だから事故で死んでしまった子だよ
ウ……ン
まあ…その似てるがね
似たような顔のやつって世の中には多いんだぜ
げんにぼくだって
ぼくの死んだおっかさんとうりふたつなんだぜ
女顔だってさ
フフ
――ハン
きみ――
なんて名だ？

エーリク・フリューリンク…
じゃあな デア フリューリンク
きみはきっと この学校に ちょっとした センセーションを まきおこすぜ それはたしかだ
ヒマなやつも多いし トーマが死んだのは つい半月まえの ことだし
だけどきみは エーリク・フリューリンク 決してトーマ・ヴェルナーじゃない――
そう考えてれば いい――いってる ことがわかるか？
きみ…は なんだい
なんだ…って オスカーって もんだよ
ほら！ ノックして はいりたまえ
……それから
……ユーリに 近づくな… 殺されたって 知らないぞ
ギクン

ドアは
ノックして
はいりたまえ
！

きみは
だれだね？

……エーリク・フォン・フリューリンク
……なんて学校だ……！

エーリク……ああ……転入手続きはすんでる
そうかきみか——
よろしくわたしが校長のミュラーだ

きみ…の親族にヴェルナーという名はいるかね？エーリク？
なんて学校…！

ぼくの親族はマリエだけです！
トーマだのヴェルナーだの知っちゃいません！
トーマは……
……彼はいい生徒だったよ みんなに好かれてた
きみ…よりは一学年下だった 不幸な事故でもういないが
きみも早く学校になれてみんなに——
……この…
コホ
ユーリ・シド・シュヴァルツというきみの後見人ときみとの関係は？
ぼくは死んだ子のあとがまになる気はないです！
マリエの婚約者
ぼくは認めちゃいないけど
ま……きなさい 自習室だ
授業はもう終わってるから夕食までに制服に着がえて—
ユーリが仮病つかうわけないよ 許可なしに外出するわけもないよ
でも部屋にも食堂にも図書室にもどこにもいないんだぜ
きみたち静かに！
あ
あ！
あ！
わ！
シーン-----!
……
トーマ?
まさか
だれだ?
よろしい転入生を紹介……
エーリク・フリューリンク ケルン出身
特技フェンシング！
なんかもんくあるか！
まってたよ どこいってたんだ?
カチャ

エーリク・フリューリンクとどこであった?
キュー!
だれとって?
転入生だよ! トーマのこと話したろ
——自殺したってことまで——
エーリク・フリューリンク…
エーリクっていうのか
墓地へいったんだよ その帰りにあった
墓地!?
墓のまえで遺書をやぶいてきた

……
…ユーリ
夕食の鐘だよ
——いこう
ユーリ
ユーリ
それから?
あの
圧されたような
空気が
ユーリのまわりに
ない
どうしたんだ
なにを考えている
彼か——?
エーリクか——?
ユーリ
エーリクを
どうする気だ
彼はトーマじゃ
ないぞ!
ほら!
ほら
彼だよ!
今日
ケルンから
きた
転入生
へ——
高等部の
一年にはいったの
上級生たち
いってたろ

エーリク
こっち
彼？
そうだよ
アンテ
おっどろい
ちゃうよな
よっく似てる
……目の色と
髪がちがうよ
ありゃ
トーマじゃ
ないよ
トーマじゃ
ないよ…
トーマ
トーマ
頭にくる
この学校
ぼくの顔は
見せもんじゃ
ないぞ
ガタン
あ
墓地であった
気にくわない
やつ……！

同じクラス きみも
そういうこと らしいね
転入して以来 死んじまった 子のこと 聞きっぱなしさ
――
ところが こっちは まるで 知らないんだ ぜんぜん たい――
どんな子 だったのさ トーマって？
かわいかった からね―― ちやほやされて フロイラインて 呼ばれて けっこう 喜んでいたよ
フロイライン ……
――なんだ そいつ 女の子!?
みんなが そう呼んで たんだ
よせよ ユーリ

ユーリ いくらきみでも そんなないいかた ないだろう!
トーマは おとなしい いい子 だったよ!
きみが トーマを 気にいら なかったたって
気にいら なかった!?
ユーリを せめること ないじゃん
トーマは ほんとに フロイラインて 呼ばれてた じゃないか!
ヘルベルト きみだって そう呼んでた くせに!
ドッ
クククク
ユーリ いくら きみでも だってさ
きみは "いくら"ぐらい なの? ユーリ
彼は 委員長だよ おとなしく してろ 転入生
トントントン
ほ――
あれ! 指輪してんの きみ
さわんな
婚約指輪だよ
ほんと? だれと!
マリエ

マリエ？
だれさ
マイネ・ムテ
はずしたほうがいいぜ
そんなの！
きつくてもうはずれない
指切らなきゃ
指切れよ

ユーリ
きみトーマを気にいってなかったって？
なぜさ？

好きずきだろ
いちいちカンにさわるいいかたすんな
転入生！

転入生 転入生と気やすく呼ぶな
ぼくは委員長と話してんだ
そばかす！

…あのバカ

ところで聞こうと思ってたんだけどね
どっちがほんとなんだい
トーマ・ヴェルナーが死んでしまったのは――

事故だよ
でもきみは
さっき！
事故だよ　陸橋から
足をすべらせて――
あっそ！
てっきり殺人かと
思ってたんだ
きみが
つき落としたんじゃ
なかったの！
あ…っ
ヤッタッ
イテコマシ
タレッ
ユーリ

エーリク やめろ！
こっのぅ！ れーぎしらず！
あち
ガチャーン
わっ
なんだ？ なんだって
けんかだ
近よるな
わっ
やったなっ
あちーっ
アレ〜〜
あぶない ひっくりかえる
ぼくじゃないってば
やめて！
おろしたてのスーツどうしてくれるっ
ギャ
うんぎゃうすか
あぜん

おっと！
ガチ！
な…
なにやってんだ　やめろみんな！
きみたち！席を立たないで！
席を
ドチャ！
この！なんのうらみが
ピ
そこにいるのが悪い！
こらーっ！やめろったら！バカ！
……
……あ…
やめ…
パ
オスカー……あの……
……
人がおとなしくしてればこのうっ

人がどんな顔してようと知ったことかかってに…
……
あ……

ギクギク
あ……
カチャン
……!
いま席をたったものは全員夕食ぬきだ
シャワー室でからだを洗って服を着がえてベッドにいけ
かけ足ーー!!
おまえもだル・べべ!
ゴツ!
きみ!なんの権利があって
権利だって!
自分のしたこと見てみろ!
…!

ほー
オスカー・ライザーは授業はよくすっぽかすがこういうときの判断と処置は的確ですなあ
統率力がありますな
むこう半分全滅ですすな
アンテ・ローエきみも出ていきなさい
でもぼく席を立ってません!
しかしそれじゃ食事はできないよ
……ハイ
彼の父親ってのはどうしてるんでしょうね
あれから——もう五年になりますが
いちども…彼にあいにきませんね
いせいのいいのが転入してきたもんだ!
ふふっ!

五年まえ――
花ぐもりの空の下
小さい息子の
手を引いて
グスターフ・ライザー氏は
この
シュロッターベッツを
訪れてきた――
一年と半年ほど
まえに妻が
なくなってね
それは
知っていた
グスターフは
わたしの
大学時代の
旧友で――
あの青春のころには
美しいヘレーネを
競いあった
ものだった
そして
ヘレーネは
グスターフと
結婚した

どういおう彼がわたしの息子だと

いつ語ろう? わたしはヘレーネを愛しだからきみが生まれたと

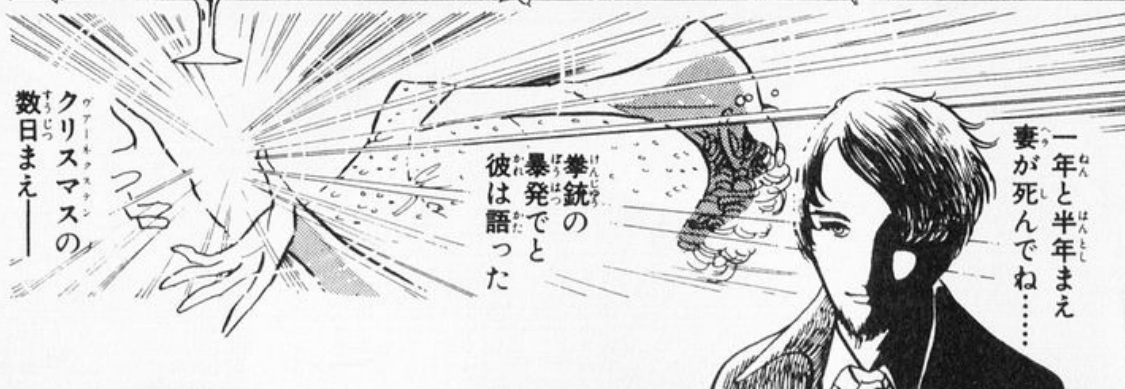
美しいヘラ――白い鳥のようなヘラ

まったくみこみがないというわけでもないの

ライザー夫妻には長いあいだ子どもができなかった

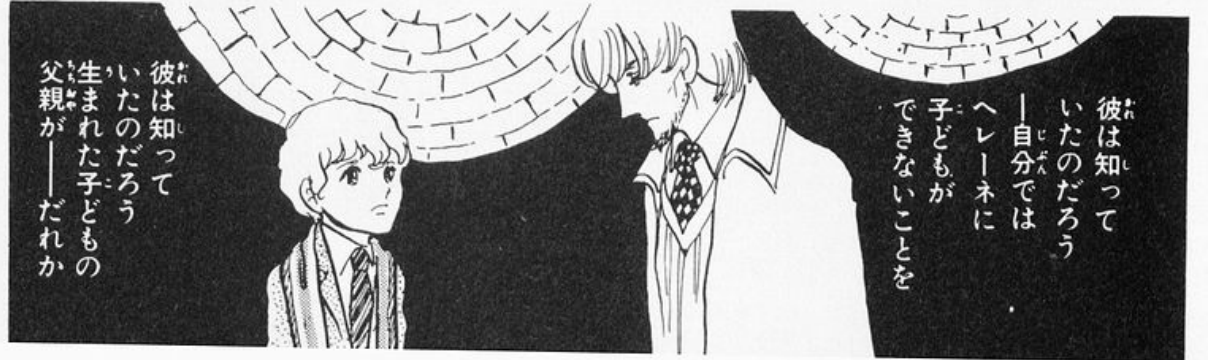
わたしは健康なのですもの人工的にだって

――おおグスターフを愛してる

でも子どもがほしいの―

一年と半年まえ妻が死んでね……

拳銃の暴発でと彼は語った

クリスマスの数日まえ――

――それで
このごろ目を
悪くしてね……
神経を
やられて
左目は
ほとんど
見えない
見えなくなるまえに
あこがれていた
南米へいって
写真をとってこようと
思ってね――
(彼はプロの写真家だった)
彼は数年来
いっそうやせ
ぶしょうそうにひげを
はやしていたが
わたしより十も若く見えた
こいつだが――
ヘラがいなくなってずっと
つれて旅行してたんで
ここ一年まったく
学校へいってない
たのむよ
帰ってくるまで
どう ヘラに
うりふたつ
だろう?
……
彼は知って
いたのだろう
―自分では
ヘレーネに
子どもが
できないことを
彼は知って
いたのだろう
生まれた子どもの
父親が――だれか

だからここへ
――わたしのところへ
息子をつれて
きたのだろう――
五年になる
南米か……
どうしてるか……
もう
もどって
こないのかもしれん
グスターフ
いつ
告げよう――？
オスカー おまえ
わたしは
おまえの…
父親
だと……

あの のっぽの
オスカーってのさ
同じ高等一年？
ほんとに

同じ学年だよ
旅行してたんで
おくれて入学
したんだって
だからひとつ
年上なんだ
けどね
いて
くそっ
思いっきり
ひっぱたいて
くれて……

エーリク
あいつには
たてつか
ないほうが
いいぜ
校長だって
一目
おいてん
だから
旧友の
ひとり息子
だってさ
ユーリと
同室で
ありゃ
いいよね
ふたり部屋で
ふたり部屋？
そんなのが
あるの

――ほら
見える？
あれが
ヨハネ館
中等の四年と
一年の宿舎
ユーリと
オスカーは
あの
ヨハネ館の
監督生な
わけ
生徒が舎監に？
へえ
だから
いくら・きみでも・・
ユーリって
わけか――
きみは
ね――・・・
エーリク きみ
山ぶどうの
房みたいな
耳のうしろの
このまき毛
のばしたらいい
ローレになるね
さわんな
パン！
着がえろよ！
すぐ消灯だぞ
きつい
転入生
トーマは
上品で
おとなしくて
お茶会の
常連だったけど
きみはどうかな
ブ～

ぼくはトーマなんてガキャ知らんっていってるだろう

夜中に大声出すなル・ベベ!

ル・ベベ
フランス語だよ

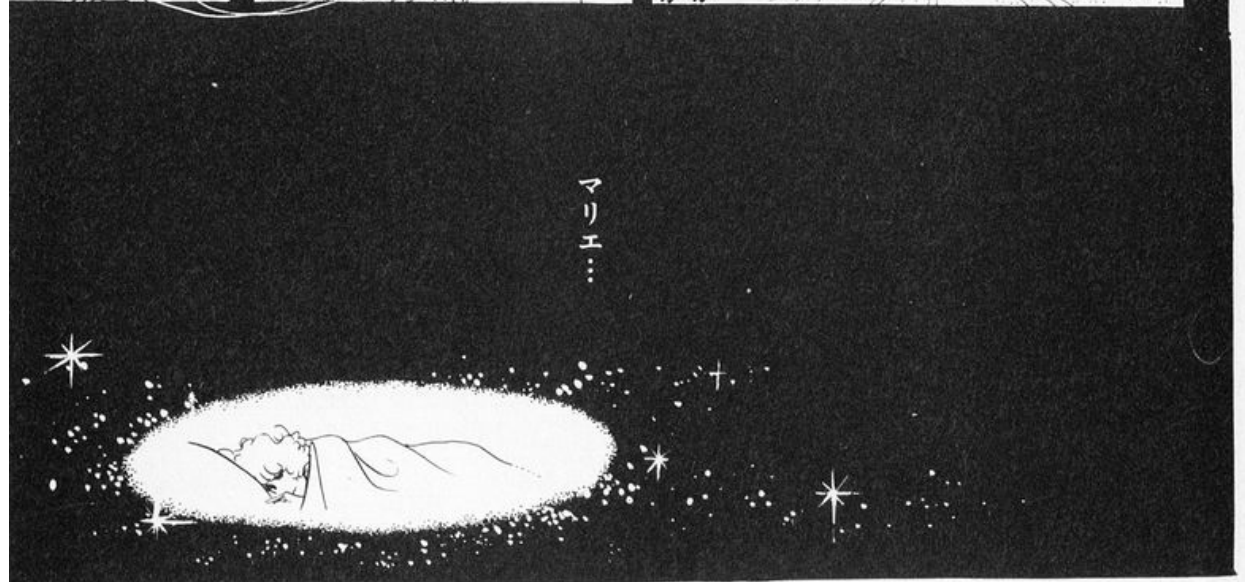
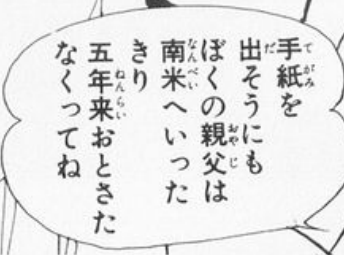
あ・か・ちゃ・ん
ハハ
オスカーがいってた

て・めえ
て・めえ?
その手はなんだぼくは班長だぞ!

だいたい学校ってなんだと思ってるんだ集団生活の根本的な規律と秩序は守るべきだそらその態度
さっさと着がえて!

リーベ!アーダム!そらイグーそこ早く洗面すませる

エーリク
きみ
寄宿生活って
初めて
なんだろ
とにかく
初めてだよ
宿舎も
学校も
聞いた？
彼氏ずっと
家庭教師
だったってさ
王室なみ
じゃんか
どこの
息子さ
学校？
学校には
いってた
だろ！
いや
マリエが
いかせて
くれなかったもの
教師がきてた
消灯だ
指輪なんて
はめてさ！
フゥ…
学校…か
いろんなやつが
いるもんだ
そうぞう
しくて
さわがしくて
熱っぽい場所
あいつなんて
なんだい
ぼくが死んだ
トーマって子に
似てて
彼がトーマを
気にいら
なかったって
ことだけで
いんけんな
目で見るし
いい
めいわくだよ
こっちは

学校なんて
用はないんだ
ぼくは
帰るんだから
すぐに
ぼくがいなくて
マリエが
しんぼう
できる
もんか
ぼくよりも
あんな
オーストリア男が
たいせつなもんか
じき手紙が
くるんだから
わたしのエーリク
帰ってきて
ママが悪かったわ
そうしたら
もうとんで
――マリエ
――帰るから
マリエ…

今日も一日終わり…と
点呼異常なし――だな
つっかれた寝よう寝よ！
悪いけどぼくはちょっと
家に手紙を書くから――
あかりつけててねむれる？
かまわないよ
そういえば――ここ二週ほどユーリは家に手紙を書いていないな
二週……
トーマ・ヴェルナーが死んでからずっとか
見ていい？
ピシ
――いいよべつに
きみはいつもぼくの手紙を見たがるね
ああ家族あての手紙って興味あるんだじつに
ぼくには家庭がないから
手紙を出そうにもぼくの親父は南米へいったきり五年来おとさたなくってね
――へんな話だな
たまたま監督生として同室になったオスカーに母親がいないし
ぼくには父がいない
双方ともになにかの時点でおたがいをうらやましいと思っている

学校まえの桜がじきに咲きそうです雪はもう雨にかわりました
お元気ですか手紙を出さなくてごめんなさい
数学は図形にはいりましたおもしろい教科です
妹のエリザベートのカゼなおりましたか
あの子もうすぐ誕生日八つですね
カードを送りますから
ユーリには親父さまがいないいんだっけ
おばあさまと母ぎみと妹あて女ばかしだな
それではまた愛をこめてユリスモール
いい手紙だねこれだけ?
そうだよ
エーリクにねー
かまうなよ

——かまっていないよ
そう？
ならいいけど——
——きみこそぼくにかまうな
!
ぼくはこれでも心配してんだぜきみのこと
心配なぞしなくていいよ
じゃ心配させるなそっちから！
真夜中にぶったおれるようなまねをしてかまうなもないだろう！
きみの精神が正常で健康ならこっちだってほっとくさ
きみがあのかんしゃく玉みたいな転校生とね
トーマを重ねてるってわかってるんだ
だから
ユーリ！
消灯時は過ぎてる手紙も書き終わったし
おやすみ
!
人が話してるさいちゅうに——
ぼくはねむいんだ
!
いんけんなやつめ！話ぐらい聞いたらどうだ！
話なぞない
じゃあなんだよその手紙
なにもないならトーマが自殺したとか転入生がきたとかでも堂どうと書いてみろ！元気だって？わざと——
かえせ人の——
!
ひきつった笑いのようなふかいキズあと——

……お
おどろいた？昔のキズだよ！
机に強く……ぶつけたんだ
ちぇっ……！
どうでもいいだろ！めずらしくもないそんなキズ！
ぼくはもう寝る！
人のせっかくの忠告をムゲにして……！
かってにしろしろ！
ああきみがそうバカじゃないことを祈るよ！
パチン
おやすみ！

そんなキズ めずらしくもない……
どのみち オスカーは 気にはしてないようだ
ぼくの狼狽をくみとって 気をまわしたにせよ……
学校じゃ くじいたり すりむいたりは 日常茶飯事なんだもの
だれだった？
ぶなの木に つなをはって ターザンのまねして ろっ骨三本に足を折ったやつ
……机に……ぶつけたか……
とっさに よく出たもんだ……
……
ウソつきめ……！ ユリスモール・バイハン……！
ウソつき？ だからどうだっていうんだ
今に始まったことじゃない
このキズ
こ…の…キズ
悪魔の証文 血判 呪文 ——
おお
永遠に消えない——

それでは
きみは――
――トーマ・ヴェルナ――
あっちへ
いってくれ
いけ
いってしまえ!
それではきみは
だれも愛して
いないの?
だれも
ほんとうのぼくを
知りさえ
しなければ
隠しとおして
生きていけるの
だから!
あ……あ……
あ……あ
あ……

ぼくは
賛美歌を歌い
神を語る
ふりをする
でもぼくはすでに
天使の羽を
もたない
ぼくは毎週
家へ愛をこめた
手紙をかく
ぼくは
学校では
信頼の厚い
委員長だ
でもぼくは
だれも
信じては
いない
愛しても
いない
だから
だれもぼくを
愛して
くれなくとも
いいのだ
信じて
くれなくとも
いいのだ
ふりをし
つくろい
えりを正し
なにくわぬ
顔をして
ぼくは
生きて
いけるの
だから……
だから……
ごめん
ごめん
ユーリ
ぼくは
知ってる
んだ
なにも
かも
なにもかも
そのキズが
──ヤケドの
あとが
いつついたか
なぜついたか
……
それが
そもそも
ぼくらふたりが
こんな部屋に
いるわけ
ぼくは──きみを
見張ってるんだ……

カチ!
カ————ン
キ————ン
カ————ン
シッ

エーリク ちゃん……
エーリクや …… 起きなさい 朝ですよ
朝よ エーリク 起きて…… お寝坊さん！
ん……
キスして マリエ 起きるから ……
くくっ
ワ——ッ
!!
キスして マリエ 起きるから
バターン!

カーンカーン！
カーンカーン！
やれ…やれ…
何時だ？うるさい鐘……
ふあー
ミサがあるのかな…？
お湯ーー！この学校お湯も出ないのか！
ポン！
べつによごれてない……
やめた

キョロ
キョロ
バターン！
Einigkeit und Recht und Freiheit
das deutsche Vaterland!!
ガタ
ガタ
ガタ
ガタ
バカ！遅刻か早くはいれ！
Danach lasst uns alle streben
brüderlich mit

Einigkeit und Recht und
ハロー ごきげんは? いせいのいい 転入生
ぼく ドアを まちがえた ようだ……
いいから 歌いなよ そこに本 あるだろ
Glückes
クスクス
クス
Blüh
ブリュー
in
イン
しっけい! 変声期まえ だったんだっけ 転入生
ここ 最上級生の席 なんだよ
バスにソプラノが まじってちゃまずい
Glückes
blühe
あんたも 最上級生?
さよう バッカスって んだ
バッカス! (酒神)
なんで 笑って んだ?
さあ— なまえが ぴったりだと 思ったんだろ
あれ エーリクだよ!
バッカスと いっしょだ
おまえ 気にいったぜ こんど お茶会に こないか?
お茶会?
上級生の ドアから 出てるぜ
いずれ おむかえに あがるよ 土曜の四時 じゃな!
バッカスと なに話して んだろ?
さあ?

なんと窓にすずなり
サルみたいだな制服着た
クスッ
──おはよ！
ニコッ！
おはよ
おはよ
おはよ
彼氏笑うと感じいいじゃん？
ほんとすなおに見えるよ
キスしてマリエウフン
よせヘルベルト！

ほ！委員長どのしつれい…！でも昨日とうってかわってどういうわけ？
トーマをふったこと後悔し始めた？
彼は昨日転入してきたばかりだよ
再三いっとくけどね！
ぼくはトーマとは
そりゃわかってるシッ
こっちゃこ！エーリク
けんかする気はないよヘルベルト
きみ自身転入生に自分らしくないことをいったと思ってるだろうから
これで動静がはっきりした
われらユリスモール親衛隊は全力をあげてきみをいやみなヘルベルトから守ることにする！

ぼかーね！とにかくユリスモール・バイハンが頭っから気にくわないんだ！
こっちが自己嫌悪におちいるようなものののいいかたってのをやつは心得てんだいんけんだよ！
じっさい！
じっさいまじったねえヘルベルト
エーリクをグループにいれたかったんじゃない？
よーっオスカー
——ん？
バッカス

おまえ休日どうしてたオレんちにもこずさ一本いいかい?
安眠のじゃまするな昨日寝てないんだ……

つきあい悪いなお茶会ぐらいたまにゃ顔出せ
ん?

ああ あんなおっもしろくもない

次回は転入生を招待した

エーリクを?
ふんむ

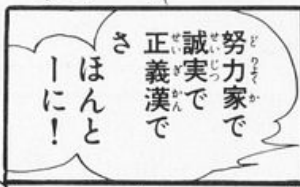
ありゃなんかすぐ赤くなるけどいい子じゃないかい

いい子か……

そこが問題
たしかにね――

バッカスがお茶にきみを?

わっ！すごいじゃない
ぼくたちのクラスからは初めてだよな？
すご……い？
なんでぼくなら……
そのまき毛がいいんだろうさ きみかわいいもの
かわいいい？
きみならね そのうち…だろうと思ってたよ！
トーマ・ヴェルナーがね まえはお茶会の常連だったんだ
空席をしめたのがアンテのバカ
アンテ
校長室にある新聞でも読んで話題を用意していたほうがいいぞ
でも校長室の新聞を読めるのはオスカーだけじゃないかい
ぼくがどうしたって？

そのアンテのバカにかわっていくの?
いかないよ!
フロイライン・トーマの代役で招待なんざまっぴらだ!
だれもそんなことはいってないじゃないか!
まてよエーリク
かわいいだって? 女の子じゃないんだぞこっちは
そりゃ顔がね似てることは認めるよでもね
てめーらはユリスモールの親衛隊だって? だいたいやつが初めにぼくを――
エーリク……
そりゃきみの誤解だよ…!
ユーリはとてもいい委員長だぜ!
努力家で誠実で正義漢でさほんとーに!
でも彼がトーマをきらってたのは事実だよ
同じ目でエーリクを見ないとはいえないぜ
うるさいな! おまえみたいにかわいい子ならだれでもいいのとはちがうんだ!
こいつらとつきあったってろくなこたあないぜエーリクバカでヤバンで大食いで
さわんな!!
おもちゃじゃないぞ!

エーリ…
……
しっけ…い
ヘルベルト
この八人の
科学レポート
作成の指導
したのきみ?

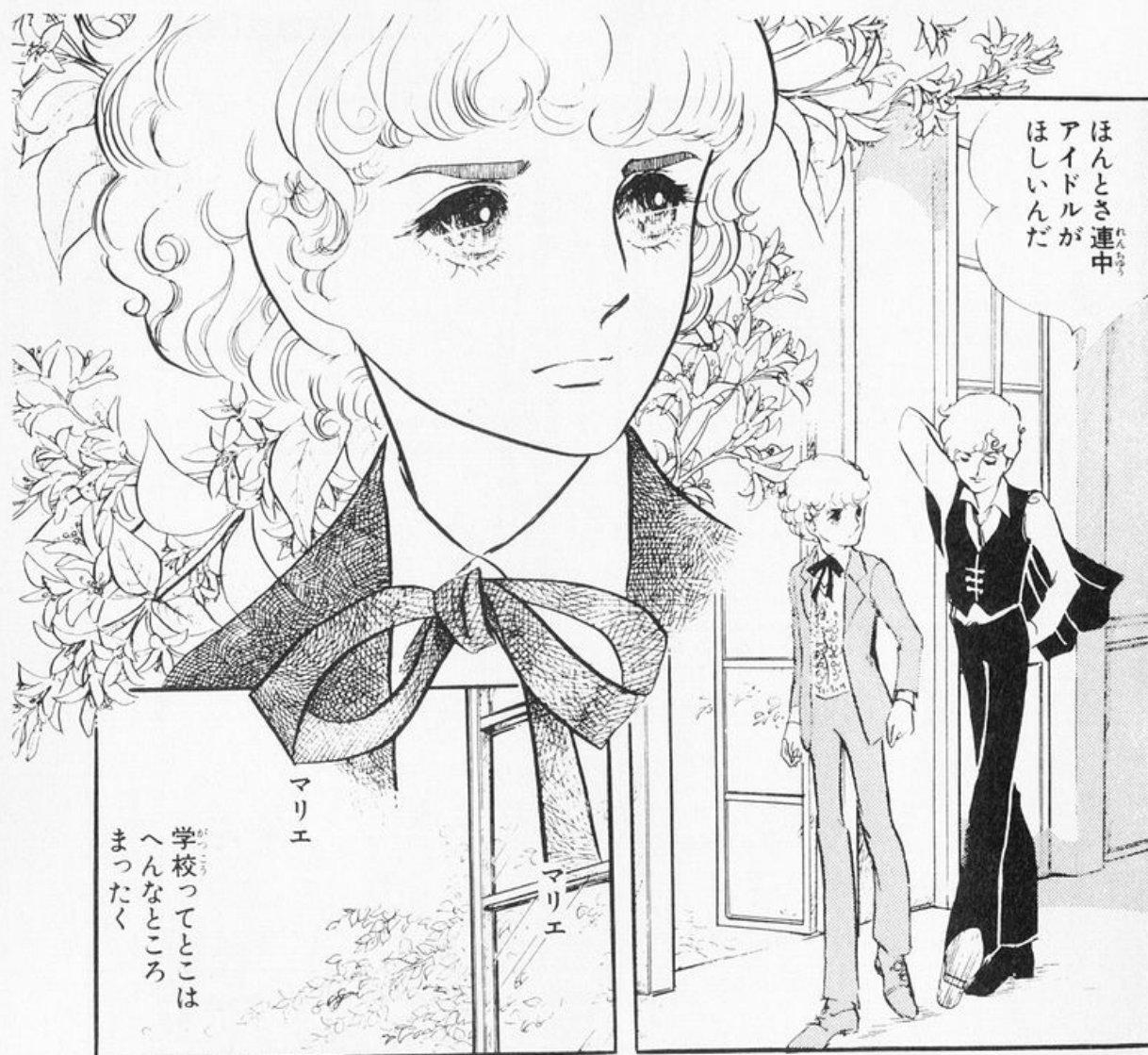
ん…あ
うちの
班だよ

八枚とも
基本公式を
応用してない
答えだけじゃ
提出できないよ
それから
つづりが
ちがってる
………

新聞を
読む?

必要ないよ!
連中
けんかのだしに
人をつかって——

じゃなくて
連中きみが
好きなのさ

ウソばっか

ほんとさ連中
アイドルが
ほしいんだ
マリエ
マリエ
学校ってとこは
へんなところ
まったく
丘の上の学校の
高い窓からは
町の屋根が
見えるのに
駅も道も
商店も
外出許可の
カードが
ないうちは
別世界
なんです
ぼくらは
似たように
話し走り笑い
似たような服を着た
顕微鏡の下の
同じ
単細胞生物みたい
長いろうか
階段 窓 窓 窓
教室――
まるでひとつぶの
しずくの中の
世界
マリエ……
なに
してる?
……
手紙を
まって
るん
だけど……

エーリク・フリューリンク！
エーリク・フリューリンク！
三度呼んだがね！
なぜベートーベンはハイリゲン・シュタットの遺書を書いたんだん？
午後の授業はとかく怠慢になりやすい！
ちゃんと聞いてたか？転入生？
……遺書
死のうと思って
それが答えかねきみの開いてるページはちがうよ！
なんだこの先生イヤミ
家庭教師なら即刻クビだぞ
好きな女にはふられるしヒスを起こすので友人はよりつかないし酒を飲みすぎて胃はいたむし
へつらうには自尊心が高すぎ近視で難聴でもうめちゃくちゃだったので
べ……ベートーベンを……ベートーベンを……

か…完全な解釈ではない……
……次へ進もうこのとき……ベートーベンの友人であったゲーテは…
ゲーテが友人？
ゲーテはベートーベンをごうまんないなかっぺといって彼のことではかんしゃくばかり起こしてるし――
エーリク・フリューリンク！
ままえへ出て！
手を出しなさい
手？
手を？
両手！水平に！
？
ぶつ気だ！

エーリク・フリュー……
ユーリ!
席にもどりたまえ 逆の権限は生徒にはない!
すみませんでした——ブッシュ先生
あ……は……
きみも席に——つ 次のページを

きみが悪いよ
エーリク

ブッシュ先生に
謝罪すべきは
きみのほうなんだ
すこしは
反省しろ
うるさいな
してるよ

ぼくがもし逆に
先生をたたいてたら
一大事になってたとは
知らなかったな
家じゃ
クビにして
すんでた
のに
……委員長
ぼくをかばって
くれたわけか

――誤解
してたのかも
しれない
親衛隊の
いってた
とおり

そうなん
だ…多少
気にくわない
けど
ほんとは
いいやつ
なのかも
な……
ここは
やっぱし……
ひとこと
あやまっとくか

でも……
なんていって
きり出
そう

ユーリ?
……!
あの……
……キズどう?
…べつにどうも……かわいたよ
さっき……さっきの時間ね

あ
ほどけてたのか
ダンケ……
そのうちきみを殺す
——ほんとうにこんどは完全に
ぼくのまえから消滅させる

殺す
こんどは
完全に
あいつ変だ!
優等生で委員長でめんどうみがよくて?
なにが! 人の首でもしめかねないいきおいじゃないか!
——あの日
初めて——
墓地で出あったときと同じ目をして——
きみはぼくを愛してるといったトーマ
そのために死ぬのだといった
そして思いしれとぼくにいった
——まっぴらだ
死の負債をせおって生きていくなんて——!

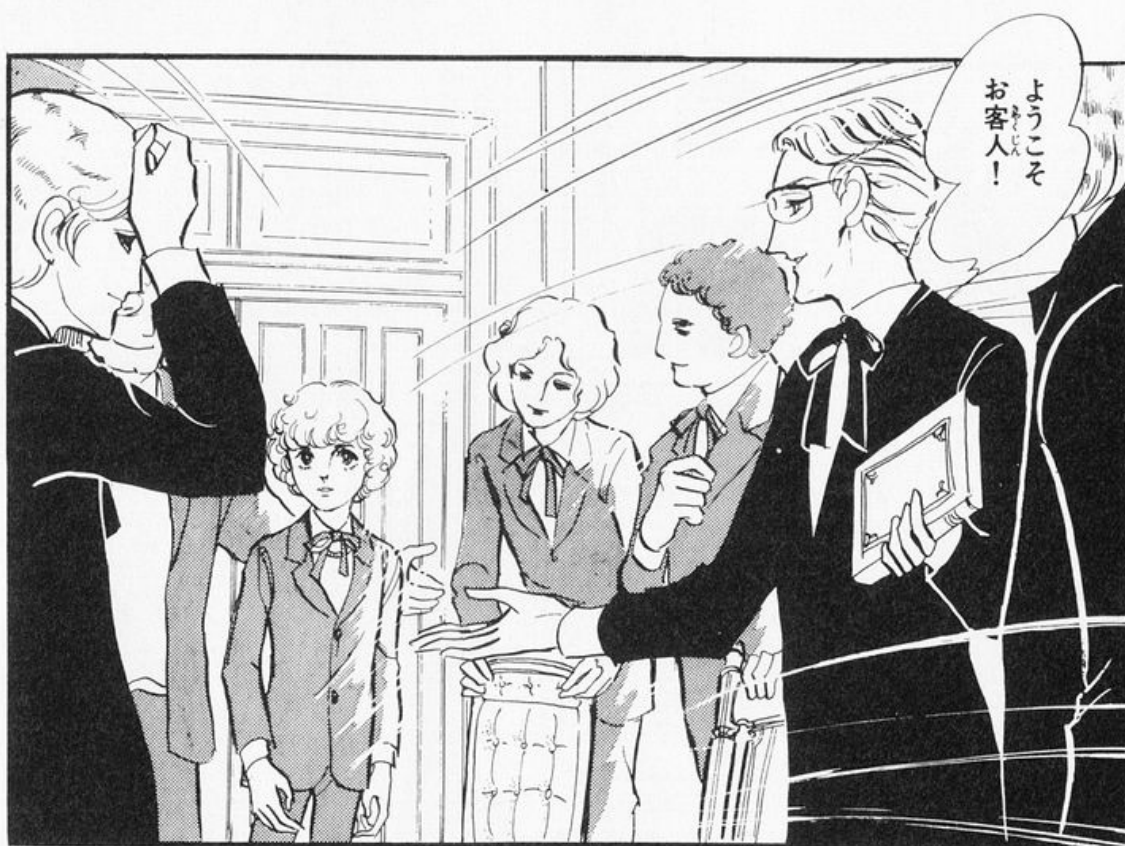
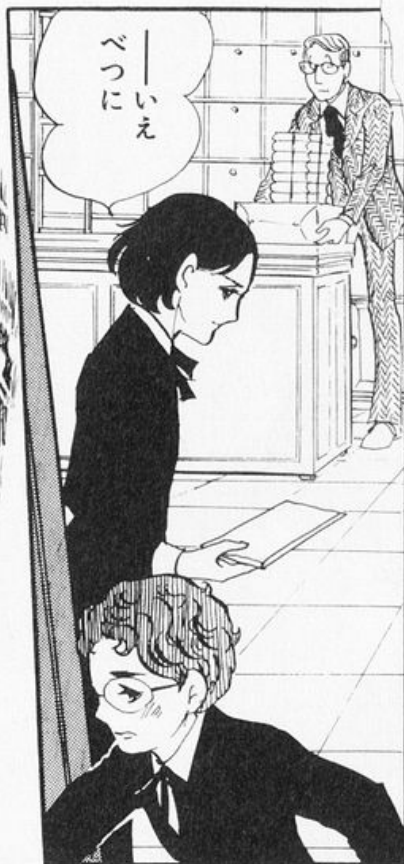
だからぼくは
きみの影を
抹殺しなければ
ならないのだ
ぼくがこのまま
生きながらえる
ためには
どうしても
…さいしょから
へんだっ
たんだ
この学校に
きたときから
トーマ・
ヴェルナーと
いう名が
ぼくのあとから
いつも
ついてきた
でもぼくは
なにひとつ
知りやしない
——どんな子
だった？
——そんなに
ぼくに似てた少年
そして
——
なにかが
あったんだ……
ユーリと
トーマのあいだに
いったい
トーマが
常連だったっていう
お茶会——
なにかすこしは
聞ける——かな

エーリク！外出許可とった？
土曜の午後だけだよおーっぴらに町へ出れんの
お茶会にいくんだ
あれ！いかないっていってたのに
ハローエーリク・フリューリンク
おむかえがきたよすこし早いけど
ニコ
ニコ
それともきみ外出したかったかな
興味ないよこんないなか町
ほまあいい
みんなきみがくるってんで喜んでるよ

ようこそ
お客人！

新書が
三十……
これを
分類して
カチャッ

……だれ……っ？

ここでなにをしてるんです
土・日の図書室への出いりは――
ああ禁止されてるっていうんだろ
なにもしてない今出てくよ
高等三年のホセだそれと一級下の………
その本は？
――おい盗っ人みたいに
――ここはおまえの図書室かよ
この時間の責任者はぼくです――無断で
つけあがんなよ！先公のお気にいり！

なにか
あったの
……
レドヴィ？
なんでも――
なんでも――
すみません
ユリスモール
許可なしに
はいって――
――いえ
べつに
お おくれて
すまん
ん どうした
べつに……
べつに……
べつに……
いったい
人間の一生に
どれぐらいの
約束が
されている
から――
また
日びを生きて
いくのだろうか
みんなは――
ミルク
どう？

ケルン…か
あそこは
いい町だよね
ラインだったか
あの川？
それできみは
母ぎみとずっと
ふたりぐらし
だったわけ？
とっかえ
ひっかえ
男がきたよ
は
たいていは
は…は
ろこつだね
表現が……
きみのママは
たいそう
もてたわけ
で　きみは
よろしくも
母ぎみと恋人に
気をきかして
転入して
きたわけ
……？
ギロ
さわんな！
おっと
しっけい
いいまき毛
だもんで
……
きついね
彼氏
けっこう
ふりまわ
されてるぜ
われわれ
あの
ル・ベベに
ま……
お砂糖
どう？
クスクス

トーマ・ヴェルナーがずっとこのお茶会の常連だったって聞いたけど？

そう入学したときからね

だいたいお茶会ってのは功労賞のようなもんでね

その週 特に自分や他人に対しよい規律をおこなったものを招待してたんだよ

そういった者がその週見あたらないときはかならずトーマを呼んだんだ

いい子だったよほんと

連中きみが好きなんだ

アイドルがほしいのさ

なんでそうユリスモールユリスモールと聞くんだい気になるの？
ぼくじゃないよ！
彼がからむんだ！
おかたいユーリにかまわれてるんだって？しあわせもの！
おやおや
まあ彼はすてきだよね南国の血がまざってるはずだよ
あの漆黒の髪ね…！
だから
トーマ・ヴェルナーですらおとせなかったてのに！
おとせなかった？
おかわりどう？
茶番劇……？
茶番劇の話まだ聞いてないだろう
いつだっけ
あそう昨年の秋だよ
ちょっとおもしろいことがあったんだ……

アンテとトーマがくんでねカケをやったんだよ
アンテ
強引にせまった場合――いったい
あの品行方正のユリスモールをおとせるか
ところがユーリはおちなかった
まずいことに
そのうちゲームだってことがばれて
……トーマはふられたんだなんていったっていってたっけ？ユーリは……
きみなんか知らない
そう一クラス全員のまえでそういったんだなきみなんか知らない
トーマはひとつこともいいかえせなかったそうだ
ほんとにひとつこともね

……
それから？
つめたいことば……

それから？べつにわれわれはトーマをなぐさめたのさ
決してきみに魅力がないわけじゃない

手を出した相手が悪かったあきらめろっていってね
!!

人にきたない顔を近づけるな!!
な……
なんのまねだ？
ぼくがなにをした？

ホー　キスひとつでまっかになってるぜ！いせいのいいわりには純情なの
こりゃママのキスしか知らない顔だ

ル・べべ教育の必要あり

親愛の情をさししめしたおかえしがきたない顔じゃこのさき生きていけないぞ
シャール
バカくだらんまねするな！お客だぞ！
さわ……るな……
エーリク!?
エーリッ!!

エーリク！
どうしたってんだ？
おい ゆすんない ほうがいい
ギク
図書室にいる 委員長をすぐ呼んでこい シャール 場合によっちゃ おまえは除名だ
脈は？
倍だ
頭動かすな かかえて ソファーに
ユリスモール…
！
エーリク……が…？

たおれた?
な…なぜか わかんな いんだけど いきなり 彼氏…… とにかく!
どこです?
ヤコブの 二階はしだよ お茶会 やってる
ヤコブ館の 二階…はし! ——あ——
あ・の・部屋 ——!
ユリス モール!?
……オスカーは?
オスカー? なんで? きみがきて くれりゃ いいんだ
事を 大きく したく ないんで…
バタン

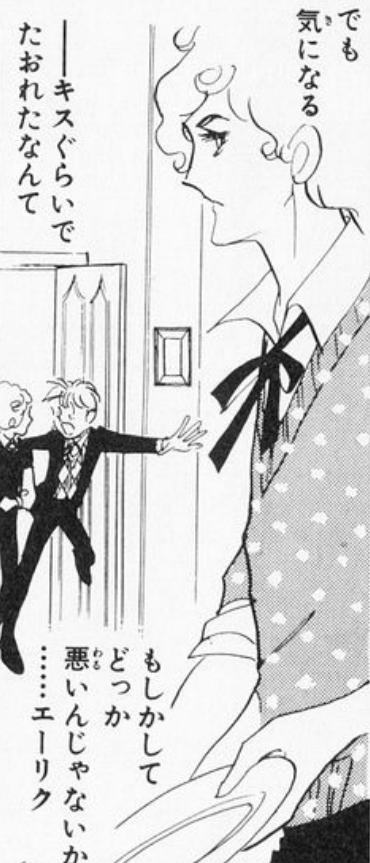
おいユーリ
本日の夕食…
——どうした？
たおれェ…？
エーリクが？
なぜきみが
いかな…
あ……
エーリクが
たおれた
ヤコブの
二階はしだ
いってくれ
ないか
ああ！いいよ
バッカスから
いぜん
お茶会の
お誘いも
あったことだし
ユーリ
食堂に
いってくれよ
夕食当番だろ
ヤコブ館
二階はし…か
いくらユーリでも
正気で二度と
あの部屋へ
はいれるほど
気丈じゃない
だろう——
おお
魔の部屋
いくら
ユーリでも
ドタン！

マリエ
マリエ
だれを世界中でいちばん愛してる？マイネ・ムテマリエ
おまえよエーリク
だれを世界中でいちばん愛してる？マイネ・ムテマリエ
おまえよエーリク
マリエ
マリエ
キスしないであの人だれキスしないで
マリエ知らない人とキスしないで世界中でいちばん愛してるっていったでしょ・
いったでしょマリエキスしないでほかの人といやだ
……
いやだいやだいやだ
……
エーリク

やあ…どう気ぶん…？
いや…あ
帰る…！
エーリク・フリューリンクほんとに……
…ほんとに悪かったって思ってるよ
てめーがわるい
もうこんなしつれいはさせないからまたぜひきてくれたまえ
いつでも歓迎するよ

どうしたんだ エーリク
キスされて ひっくりかえったって？
はねっかえりの きみにしちゃ えらく しおらしい じゃないか
なに 泣いてるんだ？
マリエ マリエ どうしたの 泣いてるの
……手紙が……
だって おまえは いつか いってしまうのでしょ
いかない いかない
だって 大きくなって いってしまうのでしょ
いかない マリエ
手紙が こないんだ マリエ……
まって……る…の に……
きみ転入して 何日めさ ぼくなどね 親父から 五年このかた 一通の手紙も もらって ないんだぜ！
五年…？も…？
──もっとも そばにべつの 親父さまが いることは いるけどね

さびしくないの?
……!
人がみんな自分と同じあまったれだと思うなよ ル・べべ
だって――ほんとうのお父さんだろう?
ほんとの親父以上にほんとの親父だったよ
ぼくは彼がほんとに大好きだった――だけどね ル・べべ
ル・べべ……
お父さん死んだの……?
うん たぶんね……
……

カチ
軽い貧血だったらしい……エーリク
そう ありがとう
でも気になる
──キスぐらいでたおれたなんて
お茶会でたおれたの？気ぶん悪くなったのかい？
もういいの？オスカーがわざわざむかえにきたんだって？
へーっオスカーが!?いいんだ！
戸口でつっ立たないでくれない!?ちょっと！
もしかしてどっか悪いんじゃないか……エーリク
おとおりくださいお茶会からはずされてお気のどくさまのアンテ！
バッカスはエーリクにいつでもまたこいっていったんだってさ！
ん！
なにさやつ結局上級生のいい子なんじゃないかまるっきりトーマのかわりさ！

トーマ！
トーマ……
ユリスモールとの茶番劇の一件ってのは知ったけど
ユーリのことだからバカにされたとさぞかしあと味は悪かったろうけど
トーマのかわり
トーマのかわり
殺す
それだけじゃない
茶番劇の一件……
それだけじゃない
なんで……ぼくが殺されるんだ
トーマのかわりに？

ワッ
着地失敗
アーダム！
あとで
やりなおし
オ〜ッ
次…
たっ
たった
バッカ だから
メガネはめて
とべって
いったろ
これ
ゆるいの！
れっ
ギッ

たおれただろ
どっか——
心臓でも
悪いのかと
思ってた
!

ガチャン
?
……!
きみだれ? ……ここでなにを…?
おーっと! こんどは逃がさないぞ レドヴィ 現行犯だ!
きみも見たろ 転入生!

現行犯
ぼくは……ぼくはなにも……
なにも？
見せてみろってんだ そっちの手！
グイ
いやっ
きみ！なにを！らんぼう……
まえから目をつけてたんだ こいつには…これはおまえの万年筆かい？
ほかにもまだあるはずだな？ レドヴィ
知ら…ない

ほーう！知らないってこたないいさ
すくなくともオレのをふくめて四つ以上の時計をかくしてるはずだ
オラいえってんだ！
知らな……ホセ
あ……つう
…はなせよ……
はなせよ
知らないっていってるだろ……
エーリク！
バタバタバタ
あれまだ着がえてないの？
おいなにごとだ？
ようホセ！三年が一年のロッカー室になんの用だい？
！

ワッ
エーリク！
あれ
レド
ヴィ…？
シッ
エー
リク！
――おんなじだ
――お茶会の
ときと
くそ！
レドヴィ
また逃がした
せっかく
しめあげて
たのに！
しめあげ
てた
だけか？
いっとくが
そいつには
指一本……
でなくても
下級生を
おっかけまわすの
よすんだな！
リーベ
服持って
きてくれ
ガチャ
やあ
とび箱
終わった？
ああ
………

また貧血だって？
いや

神経…？
エーリクが…？
ちょくちょく起こるんなら専門的な病院で検査したほうがいい

……自習の指導しなけりゃいけないからぼくは
ああぼくがみてるよ

先生
こいつは神経症の一種のようだねちょっとしたヒステリーというか

じゃたのむ……

ユーリ委員長
エーリクどうだった？

貧血だよ今日暑かったしとび箱やったろう
オスカーがついてるよ

彼氏いせいのいいわりにはからだ弱いのかね
いーないーなオスカーといっしょ
席についてて！

神経症
いわば心の病気
彼がなんで…？

ユリスモール
愛している
ユリスモール
愛してる

ああ……
そろそろ
夕食の時間だよ
よく眠れた？
エーリク
──ここ
医務室！

気ぶんは
まったく
どうしたっ
てのさ
へんな子
ホセに
しめあげ
られたのは
レドヴィで
きみじゃ
ないんだろ

……いやな
もの
見ちゃった
……

レドヴィかい？
あれはやつの
趣味さ
…知っ
てるの？

この学校じゃ
ぼくの耳に
はいってこない
ことなんてない
ほら
着て
起きれるだろ
急げばスープに
まにあう
パサ
……

……あの
下級生……
なんで…もの
とったり……
いろんな
生徒が
いるんだよ

……！

一番上の
ボタンが
……
エーリ……

なに…！
はなせよ…！
ル・ベベ
手紙はきた？
いとしい
マリエから
きみはマリエに
キスされてもいや？
…よけ…
よけいな……
しつれ
い…
さあ
どうしよう？
これで
わかった
こいつは
きみの
病気さ
そうだ
ろ？
病気なん
か…じゃ…
…！
ほっときゃ
いいだろ
人のこと
なんか……
パシ
すう？
たばこ
きらいだ
ぼくはたぶん
ほかの子より
すこしばっかり
年とってんのさ
でもちゃんと
まともだぜ
すくなくとも
キスされて
ぶったおれる
なんて
情緒欠陥な
とこはないね
まえ
に……
まえに
……
マリエ
が……
ぼくは
九つ
マリエとふたり
ライン河畔の家に
住んでいた
その朝
生まれて
すぐの
小犬が
死んだ
小さいものの死を
いたんで泣いたのは
ぼくよりマリエの
ほうだった
その日も
午後に
家庭教師がきた
教師はもの知りで
話じょうずで
教えることを
心得ていた
ぼくは勉学に
興味深かった

ぼくは
教師の出した
例題を終えた
どこかへ消えた
教師は
もどってこない
……
それに
のどがかわいた
マリエ
―と―
キス
―
抱きしめて
ぼくの
マリエを
ぼくの
ぼく
だけの
マリエ
いや!
マリエ
いや!
いや!
いや!
いや

マリエ
ああ
マリエ
ぼくを愛してるっていったのに…
世界中でいちばん
いちばん　いちばん
愛してるって
いったのに…
ぼくを
うらぎったんだ
ぼくを
うらぎったんだ
ぼくを

どうして
やろう?
死んでやろ
うか?
いっそ
死んだら
マリエは
泣くかしら
小犬の死で
すら
あんなに
泣いてた
マリエ
首を
しめたの
……?
自分で……?
でも
それじゃ……
死ねない
だろう……?

死ねるはず
だったんだよ
中途で
気を失いさえ
しなければ
……気を失って
手をはなしてしまった
目をさますと　もう
夜が明けかけてたよ
ベッドのそばの
カーテンが
びりびり……
苦しがって
ひきさいた
らしい……
マリエは
なんて?
マリエは
なにも
知らないよ
……
でも
それから…
なにかにつけて
思い起こ
される
つどに
もういちど
自分で首をしめて
死にかけたような
気ぶんになるの

死にかけた
気ぶんって？
息ができないんだ
のどが——
つまっちゃって…
意識をたもってると
冷やあせが出て
全身が
ふるえ出す
そういう状態から
逃げ出すため
てっとり早く
意識を消しちまうわけ

病院へは？

マリエが
つれていった
でも
そんな発作が
起こってたのは
それから
一年か二年ぐらいのあいだだけで……
あとはずっと
おさまってたんだ
ときどき息苦しくは
そりゃなったけど

じゃ
学校へきてから？
きっと……
学校は……
ぼくには
あわないんだ
こんなことほんとに
当分起こって
なかったもの

マリエのそばに
いれば安全？
それできみは
手紙を
まってる？
帰る
ために？

帰るよ
…マリエは
恋人と
いるんだろ
？

つづきゃしないよ!
またすぐあきるにきまってる!いつだってそうなんだから!
いつだっていつだって知らない人をつれてきちゃ恋人にしてんだそうして
いつもぼくに泣きついて次の日にはまたべつの
なぜほっとかないの?
きみだって今にかわいい女の子を好きになるよマリエ以上にそのうちに
なら…ない!マリエがいるもの
来年はどうするの?さ来年は?十年後は?
ル・べべ
よし!こんどの土曜日つきあえ!
そんなへんな発作なんかぶっとばせ!
オスカー
外出許可とって町へガールハントだ!
ほんとにいつまでも赤ン坊じゃマリエもかわいそうさ
いつか巣立ちがこなけりゃまたくるもんだよそれはわかってなきゃ

サッ
サッ
サッ
さよう
ガールハント
いい考え
だ
ふたりの
しょうとつ
をさけさせ
るためにも
女の子なんて
さして興味もなかったけど
オスカーが
ああいうもんで
外出することに
なった次の土曜日
なんだ
上着は
いらないんだよ
ブラウスの上に
直接
レインコートを
はおるんだ
まてよ
かりて
きてやる
外出にも
ルールが
あるの
レインコート
ぐらい
持ってるよ！
きみのは
ケープつきだから
だめだ
シュロッターベッツの
コートでなきゃ
かりるぜ
いい？
いいよ
でもきみには
小さめじゃない

ぼくじゃない
エーリクだ
あのマザ・コン
すこしばかし
ひっぱりまわし
てやろうと
思ってね
ほら
許可証
もらって
くるから
パ
うん
門で
まってて
うん…
ユリス…モール
ユーリの
服？
Julusmole
よくかして
くれたな
お互いがお互いにろくな印象
持ってないんだけどな

外に出るの?
そうだよ
オスカーと
……
ユーリ!
ユーリ…
…きみまえ
ぼくを
殺すって
いったね
そう?
いつ殺すの
いつでも
…へえ でも
うまくそれ
実行したら
殺人罪だぜ
きみ
殺・人・罪!

――知ってるよ
まゆひとつ動かさない
――へいぜんとしてなんだろう
なにか舞台の脚本でも読んでるみたいあんなしゃべりかたよくできる……
エーリク！
トーマ・ヴェルナーも彼が殺した…？
エーリク…許可証！
バシー！
門限六時！さあいこうぜどうした
う……うん

ノルト
バーデン
……！
西ドイツで
もっとも
美しい地方だと
ぼくは思うよ
市街を
はずれると
からす麦と
ぶどう畑
下れば
ハイデルベルグ
上れば
カールスルーエ
明びなる
風光にさそわれ
観光客なぞも
くるよ
丘の上には
くずれた
ローマ人の
城あと
ユース
ホステルが
ひとつ
ユース？
安く
とまれるんだ
旅行したこと
あるの？
旅は
いいぜ！
ある
マリエが
湖沼地帯など
好きだったんで
北部ヨーロッパ
ぜんぶまわった
……
金持ち
息子め
ラインにそって
ここいらは
けっこう歴史も
古いんだ
キャッ
シュロッター
ベッツの
オスカーだわ！
オスカー
!?
何週ぶりの
土曜日
かしら！
見てみて
すっごい
かわいい子

ハロー！
ハロー！
ハロー
ハロー
商業学校の女の子だよ ちょくちょく出あうんだ
あいさつしなよ どうした
キャーッ
クックックッ
や…や…や…
やあ
しっけいな…な…なの…！
そりゃきみ
まったく…まいいさ さいしょだし
カフェだ町にカフェは四つ
あまいもの好き？
どうした
お…カネ忘れてきた…
DAS CAFÉ

おごるよ！
さそったのは
こっちだから
どれにする？
ここパイが
おいしいんだ
ヌッ
………
きみ財産
あるの？
なんだって？
きみ…だって
お父さん
いないし…あ
弁護士が
いるの？
ヨハンナ
スピリッツの
パイふたつ！
アイヨ
ほら
券とって！
ぼくはね
一ペニヒだって
持ってや
しないの！
今のところ
無期限　無利息の
借金してんのさ
ミュラー校長に
わかった？
ねえ
あの子
ええ
あたしも
さっきから
先だって
事故で
なくなった
ヴェルナー氏の
息子さんに
そっくり……
目や髪の色は
ちがうけど
……や！
やあ
みんな！
あれーっ
エーリク！
オスカー！

ねえ
どうやって
エーリクを
つれ出したの
オスカー
いってくれ
たら
いっしょに
ああ
エーリクに
女の子と町を
見せにね
女の子ォ!?
お茶をのんで少女を
まっているわけかしら
この時間
いつもくる
かわいい子が
いるんだ
ああ ここ
たまり場なのか
土曜の午後には
赤いタイの生徒たちが
なまえまだ
知らない……
水色のリボン
いつも
つけてる
とっても
かわいい
女の子と
知りあいに
なって
どうするの
…?
どう?
どうって
その!
楽しいじゃ
ない
話をしたり
キス
したり
ワッ!!
………
それのどこが
おもしろいの……
まずね
好きになる
んだよ
だめ
だめ!
ル・ベベは
まだママの
スカートの
かげが
いいのさ!
なんだと
ぼくが
いっ…!
ウォッ
ホーン!
エーリク!

シュロッターベッツの生徒はカフェでけんかしたりしないの！
またな！
この赤いタイを町でしめてるあいだはねきみひとりの評価がシュロッターベッツ生徒全体の評価となる心すべし！
へえ今日はオスカーがひきまわしてんのか彼を
いいないいな
ああ 彼だいぶエーリク気にいってるみたいじゃない
でもほんとエーリクに女の子見せてどうすんの
彼氏女の子よりかわいいじゃん
…へっ！ オスカーも気がおおいやこんどはエーリクか…！
？
なあんだよアンテその意味ありげなセリフ
よせよ！ へんなでっちあげ おカワイあの女の子
ああほんとうさまえはユーリにべったりだったんだから
手が早いったら…！
ほーほーほーユーリってユリスモール委員長のこと？ トーマすら落とせなかったのに？ ハハーッ！
もうすこし真実味のある……
見たんだもの！
…なにをさ

……ここじゃいえないよ…
なにを見たんだってばアンテウソつく気だろう!
見たんだぼくあのふたりが――夜中の三時ごろ――
もっと小さな声で話せよなんだって?
ベッドでキスしてるのを――
ここへきてごらん!きて下をのぞいてごらん!
ねえエーリク
いつまでもマリエマリエっていってないで
好きな子見つけるのさ女の子でも親友でも
心をうちあけられる相手っての
きみにはいるのそんな好きな子?
……
いるよ!

キスしてみようか
気を失ったら
落ちるしかないいね
……
……いや……
——きみ
きみの父さんより
好きな人
ほかにいるって
いったね
それ ぼく?
じゃ
やめろよ
ぼく
茶番劇
やる気
ないぜ!
ユーリは
トーマ・
ヴェルナーを
殺したの?

オスカー
いって いいことと 悪いことって のが あるぜ!
ユリスモールは ぼくが気にいらないんだよ ぼくがトーマに似てるからさ
それに彼が いったんだ ぼくを殺すって!
トーマもきっと 殺されたんだ
…バカ いえよ いったい だれが……!
あれはやつが かってに 自殺……!
なにかぼくに かくしてる オスカー!
なんにも ない! トーマ・ヴェルナーは 事故で——
なんて いった? ——自殺?
なんでも ないよ……!
ユーリも まえに そんなこと いってた……
ウソだ かくし てる!

……バッカ……!
つっかかるからだ まっさかさまだぞ!
トーマの二の舞やらかす気かよ このバカやろう!
ギュッ!
あ……あ
あ……

まったく…ル・べべ…
きみは恋神の存在を信じる？
……
ぼくたちはトーマをフロイラインって呼んでいたけど
だれもがほんとうにトーマを好きだったんだよ
……なぜなら
あの子のなかにはアムールが住んでいたんだ
──それもきわめつけてきっと上等の
それはもうそれだけで
ふれた人間をしあわせな気持ちにせずにはおかないようななにかが

ぼくたちは
みんなで
あの小さな
トーマ・
ヴェルナーを
愛してたし
彼の
ためなら
なんでも
やったし
彼の
することは
みんな
許せたんだ
だれもが彼を
愛していた
だからだれも
トーマ・ヴェルナーを
殺したり
しなかったよ
彼は自殺
したのだけれど
なぜかは
知らない
……
自殺……
へん
だ……
へんだよ
……
息苦しく
ならな
かった
オスカーは
ぼくを
抱きしめて
キスした
ってのに
と
いうより
ぼくが
しがみついて
たのか
……マリエ…
手紙
なかなか
こない
……
やはり
恋しい
……

でも
学校にはずいぶん
なれてきた
なれて
みると
けっこう
楽しい
みんなと
笑ったり
論じたり
エーリク!
ほ
オスカー
だぜ
オスカーは好きだ
クラスにぼくを
なじませようと
めだたないけど
いろいろ気を
まわしているのに
このごろぼくは
気がついた
年上だけ
ある
……もとは
たしか
ホーマン先生の
部屋だったん
だろう? あれ
舎監生とは
いえ さあ
えらい
特権だよな
ふたり部屋
なんて
ふふ
どっちが
せまったん
だと思う?
オスカー
だろ!
あちこちで
うわさが
でも
ほんと
かい
くっ
くっ
立ち始め
てた
ユーリって聖堂の
絵のような顔
してるしねえ……

リーベ
ヘルベルト
ヘルベルト!
とり消せ とり消せ とり消せ
なにが このクソ
ユーリ!
スポーツなら 外でやってくれ ここは自習室だ
ヘッ ヘルベ……
はあ はあ
ヘルベルトが きみを ぶ ぶじょく…… オ オスカーと…オッ…
きみは 謹慎だリーベ 部屋にいって!
メガネは ここだよ ヘルベルト 班長として 自覚が たりないね きみは
ほーほー 自覚が… ではどう 弁明するの 委員長!
ぼくは うわさを 聞いたんだけどね!
きみと オスカーが キスしてたって!
どう 釈明 する!?

ぼくではなく
きみの問題だろう
うわさによって
きみがぼくを
否定にしろ
肯定にしろ
評価するのは
自由だ
じゃ
認めるの!
ザワ…
弁明する
必要はない
でも
ぼくの存在には
なんらかわる
ところはない
ぼくはぼくだ
うわさに
左右される
ほうが
バカだっ
ての!?
ごりっぱだよ
ああ きみは!
いつもいつも
こわきに
名簿を
たずさえて
おきれいな
シュロッター
ベッツの
見本ですって
顔して!
バーン!
……
なにが
おかしい!
クスッ
ぼくが気に
くわない
のはね―

きみが子どもみたいだからさ きかん気の
へえ！ じゃ きみはおとなかい きみは完璧なの！
よ…よくそれだけ人をバカにできるもんだな！
ヘルベルト
気にさわったらしっけい
！
ぼくが知りたいのはね！ 彼があそこであやまる理由だよ！
ヘルベルト

彼はおとななんだよ だから同じ年なんだぜ!
彼だけが特別なことあるもんか!
まるっきり人をばかにして……ガキみたいにあつかってくれて!
つめたい
つめたいさえざえとしている——ああこれ!
……これ!
ぶつかってないんだ友だちに……
いつも一歩はなれてるようだ
ユーリ?
高慢だよ
なんていったらいいのかな
彼 ものをわかってんじゃないよ
まるでわかってないんだーきっと! よく同じ部屋でくらせるね
……昔はああじゃなかった

入学時からのつきあいだから五年めにもうなるかな
彼は友人を愛するほんとうのいい委員長だったよ
——信じられないね！
ル・べべきみにはときどきぎょっとするよ
ヘルベルトはあれでけっこうユーリが好きなんだよ
彼はいつも手先であつかわれるんで頭にきてんだけど
でもユーリははためにはたいそうよくやってるように見えるだろう
その実なかがからっぽなんて……見ぬいたのきみぐらいなもんさね
いろいろつらいことがあるんだよ彼には
オスカー！オスカー！
校長先生がね…
きみを呼んでるよ！
わかった今いく
……

ぼくは彼が心を開くのをまってる
でもそれには時間が必要だ

……オスカー
きみのいってたきみの心をうちあけられる相手って……
ユリスモール……?

部屋がえですって?
―それはどういう

学校は教育の場だオスカー・ライザー
ぼくがなにをしました?
われわれは片目をつぶって見てるもののきみの行動はときどき度をこす

例のまったくバカバカしいうわさの件ですか!
なんで? 彼は優秀な委員長
ありゃ生まれつきですよかたいのなんの
死んだって社会や学校の規律にそむかない
きみはやわらかすぎる
きみはシモン館の六人部屋へいきなさい
ユーリはひとり?
そうだきみはたばこをすってるようだがユーリもすうのかね
エーリク・フリューリンクをいれた
こんどは……
エーリクにユーリを見張らせる気ですか!
見張る…! それはなんだね!?
ユーリはいい委員長だエーリクはけたはずれの生徒だから
彼の性格上よろしく指導していくと思うがね!

しつれい……！
いいすぎ…
ミュラー校長
おっしゃる
とおりです
オスカー・
ライザー…
きみはわたしの
敬愛していた
グスタ一フの
息子だ
きみが
一生徒のことで
なにを知っていようと
わたしはきみを
信じていていいね？
部屋がえだ
よろしく！
エーリク！
荷物
まとめろよ
きみは今夜から
舎監生の部屋だ
ユーリといっしょ！
殺される！
オスカー!?
あれ
オスカー？

こにくたらしい
アンテ・ローエが
いいふらした
うわさの真偽は
ともかくとして
オスカーはヨハネ館から
追い払われた
そしてあいたベッドは
ぼくに用意された
雨に頭を冷やされながら
それでも捨てゼリフなどはき
不安　不快　いらだたしさ
それから　それを逆手にとった
わずかの期待
（ひょっとしたら心のかよう
チャンスがあるかも）
でも歓迎されないことは
わかっていた

舎監生の部屋ってどこ？
あ そこ 階段あがって
ガタ ガタ
ここ？ おどり場の
ええ その部屋です
バタン
ああ どうぞ きみが新しい相部屋の

はいっていい？
オスカーから
聞いてたんじゃ
ないの
おたがいさまだよ！
こんなとこに
おしこめられるって
知ってたら
もっとおとなしく
してたよ
……きみとは
聞いてなかった
いい個室だね
シャワーつき
じゃない！
いつから
住んでんの！
ただ住んでるん
じゃない
舎監をやってる
きみにもちゃんと
仕事はして
もらう
あ
この部屋
お湯が出るの？

出るよ
お茶のむ？
パック
だけど
そりゃ
どうも
青酸カリ
…？
KCN
それは
オスカーの
お遊びだよ
ちゃんと
さとうが
はいっている
サラサラ
KCN
オスカーが
コニャックを
おいていった…
いれる？

カタ!
カチャ
ねえ きみ!
ぼくを殺すって
いってたけど……!
まさか
ねてるまにクビを
しめるとか
ナイフをつき
たてるとか
しないだろう!
頭のいいきみの
ことだもの
疑いの
かからないような
やりかた するん
じゃない?
同室になって
まさにチャンス
到来ってわけ
だけど……
きみが……
ぼくを殺しても
いいんだぜ
死にたいの?
なら 自殺したら?
てっとり早い!
そうできるんなら
とっくにそうしてる
ぼくはきみを
目前に見て
いたくない
ぼくは
トーマ・
ヴェルナーの
ことを
考えたくないし

きみは思い出させるいやだね

へえヘルベルトがいってたようにきみはおとなだよ
平気で人ひとり殺せるなんて！

ガタ
殺せるね何人でも

どっかの独裁者が喜びそう！
きみ天国にはいけないぜ！
カキ
神なんて信じてない

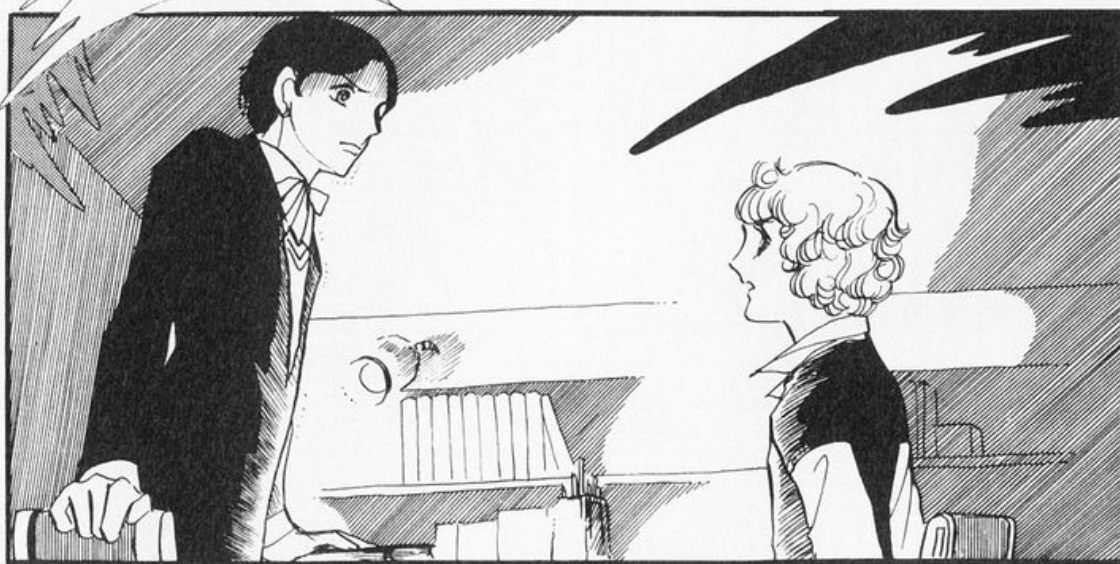
ユリスモール委員長さんそんなことをいっていいの？
日曜のミサではきみはいつも壇上で聖書を朗読してるじゃないかいたって信仰ぶかく！

エーリク……
…すこしだまっててくれないかきみはもののいいかたまでトーマに似てるよ
…ユーリきみさ

トーマ・ヴェルナーが好きだったんじゃないの
だってでなけりゃなぜそう彼のことが気にかかるのさ
ちがうね！
茶番劇でトーマにからかわれてなぜそう頭にきたの
好きだったからじゃない？
ちがう！ぼくはだれも愛しちゃいない！
ユーリ
もうだまっててくれないか！
ユーリ オスカーはねぼくに友だちをつくれっていったよ

心をうちあけられる相手ってのは必要なんだってオスカーは自分にはちゃんといるっていってたよきみにはいる?
べつに必要じゃない
そんな質問初めてだね
……ぼくはぼくのできる範囲で平等にみなに接しているよ
好意をもって?
義をつくして
きみは友だちが好きなのかって聞いてるんだよ
好きだよ
ウソつき!
……ぼくはね人から好かれるのなんかまっぴらだね!
……友情や好意や同情や……そんなものは

…めいわくだよ！
はーん…じゃきみの好きそうなこといってやるよ
ユリスモール・バイハン
ぼくはきみが大っきらい
きみみたいなウソつきは大っきらい！

…表向きは
りっぱな
委員長で
親衛隊の
リーベや
アーダムなんて
きみのことで
ヘルベルトと
けんかする
ぐらい
きみのこと
尊敬してんのに
その実ていさい
つくろって
きみは
みんなを
ごまかしてん
じゃないか!
きみが
こんなふうにして
こなければ　ぼくは
このままで
よかったんだ
ぼくはトーマに
告別し
いっさい忘れて
またまえの日びに
もどれたんだ
きみが…

現れさえしなければ—
ぼくはトーマ・ヴェルナーじゃないぜ!
きみは彼そのものさ!
それではきみは—
だれも愛していないの—?
ガチャ!

昔は彼
ああじゃなかった
友人を愛するいい
ほんとうの委員長だったよ
ユリスモール
でも それで
生きて
いけるの？
これからも
ずっと？
……ひとり
で…？

サー
サー

サー
サー
サー

神さま 神さま
御手はあまりに遠い
部屋がえがあったんだって？
見ろよエーリクのふてた顔！
でもユーリはごきげんなんじゃない？
かわいいのといっしょでさ♡
オスカーは？

ぼくがなんだって？

ま…舎監の仕事ってのもたいへんだよな——
ユーリはエーリクのおもりにも手をやくだろな——

……フン！

こうなったのももとはといえば
あんのドちくしょうアンテ・ローエめどこへいった！

宿題自習室でかたづける？アンテ
うんすぐいくよ

楽しそうだな

よう！
話つけようじゃないか アンテ
オスカー……

…オスカー……
なに……
なんの話
下級生を
なぐるのは
趣味じゃないが
ザ
おまえの
根性のためにも
二・三発
くらわしたほうが
よかろうと
思ってな！
オスカーが
いけないんだ
いけないんだ
ぼくの気持ち
なんか
知りゃしない
んだから！
ああ
知りゃしないね！
きさまは――
ぼくが
なにをしたのさ
ユーリはエーリクが
好きなんだよ
視線がいつも
追いかけてるもの
結局
こうなる
ことに
なってたんだ
あの
ふたり
だからふたりが
同じ部屋になって
なにが悪いの
ぼくが
トーマをつついて
ユーリをくどけって
いった時から――
パ
オスカー

おまえ……まえにトーマ・ヴェルナーとくんで――
どっちがユリスモールを落とせるかってカケをやったことがあったな…え
……ぼくは――ぼくはきみが好きだったんだもの
おまえが――しくんだのか!?
トーマをつついて…って
あの茶番劇――おまえがそもそもの……
ユーリとオレを引きはなすためにか!?
すてきだね彼せまったら三日で落ちるかな
だめだよ彼まじめだから
それにオスカーといつもいっしょだもの
ためしてみない?トーマ
ねえためしてみない?トーマ……
ぼくはずっときみが好きだったんだものどうしてわかんないの

それでどんなにユーリが悩んでー
きみはいつもユーリ！ユーリ！ユーリ！

ギク

死んじまえ！ユリスモールなんか！

オスカー
……

オスカー！ふりむいて…！
ふりむいてくれるだけでいいんだオスカー！

きみがだれを好きでもかまわないから
ふりむいてオスカー！
……
あ

アンテが好きだったのは……ぼくか………
それで彼ユーリとぼくの仲がうるさくて
トーマをつついて……
トーマは死に
そしてユーリは
ぼくはだめか
ユーリぼくではだめか……
それぞれの思いは胸の奥に秘められる
まだ透きとおった少年の日に
あこがれは―やさしく恋はためらいがちにおずおずと訪れをつげる
すぎてゆく早春つかのまの
忘れがたい日び……

あ!?
すぐ起きて着がえないとミサに遅刻だよエーリク
同じ部屋のよしみでたたき起こしてくれたって……
いちおう二度呼んだことは呼んだ
お先に
エーリク ミサ こなかったね!
ふぁ〜
あれからまたねなおした
ユリスモールが壇上で福音書よんだんだよ よかったよ!
地学のノートを提出して
エーリク きみは?
忘れた!
では明日まで
宿題なんかやるひまあるもんか 大っきらいなやつといっしょの部屋で毎日重苦しいったら
ワァ
この時間はテストだ! 今週やったわがドイツの文豪ヘルマン・ヘッセについて!
エーリク・フリューリンク よそ見をしない!
ドキ

できた？ できた？
ブッシュ先生点からいからなー！
ダダダダ
なにかというと頭にくるなあの目！
いったいぼくにどうしろってんだ
ほんとこっちがぶっ殺したくなってくる！
教師のムチ持って四十年！
生徒ひとりに手をやく年でもない 今さら…
詩人になりたい さもなくば生きていたくないとヘッセはいったが
小説家として名をなして八十五歳まで生きた
しつこく
若いころは学校は退学
本屋につとめりゃ三日で逃げ出す
ホートー息子
ヘッセについてエーリク・フリューリンク
あのやろ
どうですか このごろ生徒たちは
あの転入生 いささか問題ですな！

だいたい
生徒に舎監を
やらせることじたい
問題です！
生徒はみな
六人部屋に
ほうりこんどきゃ
よろしい！
しかし
なかなか
カンのいい
子ですよ
授業内容から
一歩はなれたとこに
いつも興味の対象を
もってきますがね
ホー

知らんでいいこと
まで知ってる！
あの子が
ヘッセと
ベートーベンを
なんと評価したか
ごぞんじですか
あれは家庭教師の
受け売りですかね！

ユリスモールが
よく指導しますよ

先生

ユリスモールは
あれから
あなたの
ところへ
きましたか？
いえ
キズが治癒して
からは
一度も

まだ
えりをいつでも
きっちりと
とめていますが

いずれ時が
解決するで
しょう

ヨハネ館の舎監生
南の国の花の香りのする
もっともまっすぐに道を歩んでほしい生徒なのだが
オスカーとひきはなしたのはいささかまずかったかな……
それまで
わーっふってきた!
時間には早いがこれでおわる
ボールを体育館にはこんで!
わ!
ふいうちとはひきょうなり
高貴なる騎士はいざやおどり出ん
パカ!
姫!おすくいにまいりましたぞ!
では
では姫より勝利のさかずきを得てみよ勇者ども!
わあ
わっエーリック!
わっタンマタンマタンマ姫!
戦場にあってはタンマもへったくれもなーい!

姫を相手に剣士数名がうち死に！
なにをやっているんだ
そのかまえじゃないだろ手！右！左！ひじの位置がちがう！足！引く！
カン
カン
パン
だめだあの姫てんで強いや！
ザ
ユーリやれよ！
そうだやれよ委員長！
剣士代表やれよ！
ワー
ピー
Hilfe!
まいった
きみ強いの？

オー
がんばれ
ユーリ！
ファイト！
…ためしたら？
姫ぎみ！
負けるな
こいつは……

こいつは
たしかだ本気出さないと負けるぞ
おうやる！
いい勝負じゃん！
ユーリを相手に……！
こ…こんなやつに
負け…るかだれが！
ユーリ相手に……
ふたりとも……
キャップが飛んだそれまでだやめろーっ

あ…!

ごめん
切っ……？
バシ！
ガチャ!!
なんでもないよ！いってくれ
ユーリ
おっどろいた！ル・ベベが一本！
わっユーリ負かすなんざ……すごいや
ユーリ！ユーリ！ケガしたんじゃないの　クビに
ケガ？
なんでもな…い！
でもユリスモールクビにあったの――
なんでもない！

なんでもないって——
へえ 委員長一本とられてムキになって!
そのキズあとオスカーのキスマークじゃないの!
ただのアザだよ
見せてやれよユーリ!
ヘルベルト!
いいたいこといわせておく気か!

……なんでもないってことを見せてやればいいんだ
ただの——ただの昔のヤケドのあとだって！
オ……知っている——？
？
ヤケドのあとう？
悪いけど……先に失礼するよ部屋に……
か…え…
…わ…

どうしたんだ? あんなユーリ 初めてだぜ!
ル・べべに 負けたのがさ ショックだったのかもさァ
そうだよ あれ 悪けりゃ 死ぬとこ…!
もしか…したら
とんでもない 悪いことを したんじゃ ないだろうか
ヘルベルトが悪い! キスマークなんて いうからだ!
あんなキズを 気にしてる わけじゃ ないだろ 彼?
……
ユーリは朝はいつも 先に起きてるし 夜はぼくのほうが さっさと先に ねちゃうしで
考えてみれば はだを見せて 着がえるとこなんて いっぺんも 見てなかったんだ
そう やって 彼なりに
毎日気を つかって いたの だと したら——

——おお

神さま
おお神さま
神さま!

いっそ…その
ハサミで
そこにある
白いハサミで
えぐりとって
——しまえ
このキズあと

どうしたのさ
クビの下のキズ…
かたん
ガタン！
きゃ……

かみ……
さ…ま？
………
きみは
信じてる
の…？

きみはすくいなんてものを
どんな時でも？
ほんとうに？
はな…

はなせよ…！
ほんとうに？

ほんとうに？エーリク？
信じてるよ！

ぼくがこの手をはなすことも？

きみ 今ぼくを殺せたのにきみのほうがぼくよりもすこし機敏だから
たやすく逆手をとってぎゃくにぼくのノドにこれをつきさせたのに

………

ぼくはだれも殺したりしない…！

これはゲームじゃないよぼくが中途で気をかえただけだ今回は…

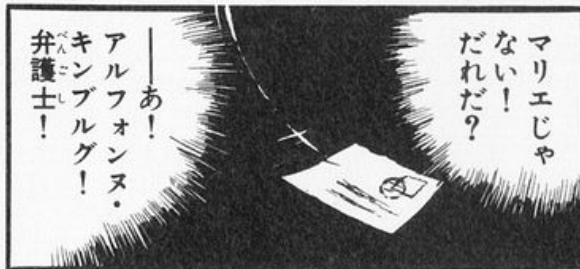
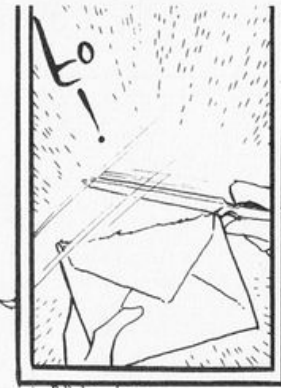
――ぼくは自分で死のうと思ったことはあるよでも本気でだれかが死ねばいいって思ったことは一度だってないよ！
き きみが

きみがそうしたいなら
かってにそうすればいい
い…今だって
ぼくは無防備だし
抵抗なんか
しない！
キリストの
せりふだ
ユダに
いった
「おまえはいって
すべきことを
すればいい」
ユーリ
！
ユーリ
？

さあ
いけよ!
いけ…!
草笛を
吹いて
あの日も
あの日も
あの日も

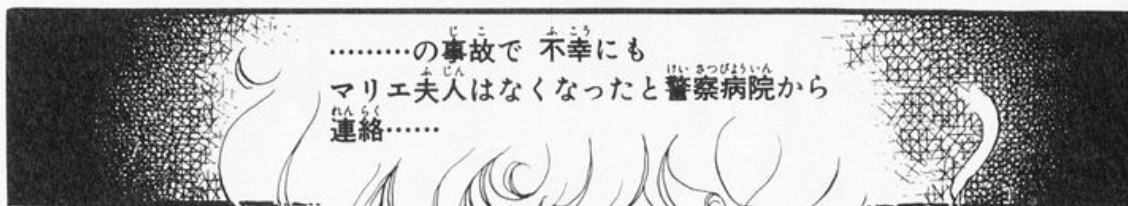
どうして彼はあそこにいたのだろう
語る目をして
—神さま—
あなたはごぞんじでしたか
—ぼくが
—彼を—ずっと愛していたこと—を
何度も何度もうち消しながら
自分自身すらごまかしながら
それでも心の中にはいりこんでくる影に
むしろ恐怖すらおぼえながら—
愛して
いたこと…

ユーリ！
ユーリ
委員長！
ねえ
周期律表の
暗記法ってのなにか
あったろう
知ってる
なに？
テスト？
そうなんだ！
急に明日！
ひどいよな
ホーマン
先生がさ
エーリク
用心して！
はじをちゃんと
持って そら
エー
リク！
エーリク！
わっ
この始末
エーリク！
ガッチャーン
なん
だよ
いったい！
ほうき
だれか
ほうき！

部屋かえてもらおう!
ごめんだ!もう一秒だってあんな二重人格のそばにいるの!
エーリク・フリューリンク!
エーリク!郵便受けに手紙がきてましたから
オスカーをたたき出してぼくのベッドを
…?
部屋へいれておきましたよ!
手…紙!
ありがとう!
手紙がきた!
マリエ!

ピー！
おお マリエ！
待ちに待った
手紙？
帰ってこいって？
さみしいって？
「エーリク・フリューリンクへ。
もっと早く知らせようと
思ったのだが わたしなりの
判断で 日時をおくことにした」

「心をおちつけて
聞いてほしい」
？
…マリエじゃ
ない……

マリエじゃ
ない！
だれだ？
──あ！
アルフォンヌ・
キンブルグ！
弁護士！

あの
でぶっちょの
弁護士！
かっ
人を喜ば
せとい
て！

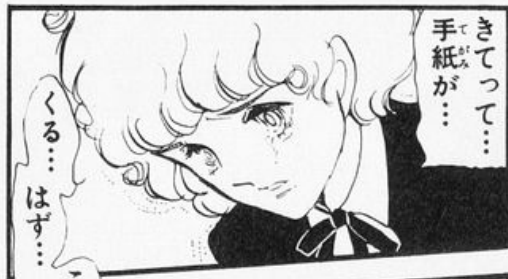
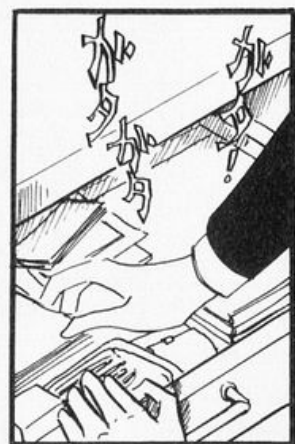
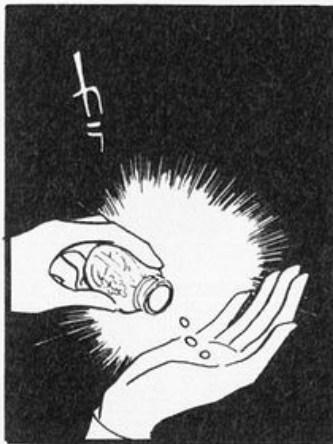
なんていって
きたんだ？
なんか
くどくど
マリエの
弁護士に
用なんか
な……

………の事故で 不幸にも
マリエ夫人はなくなったと警察病院から
連絡……
おお
エーリク
世界中で
いちばん
愛しててよ
愛しててよ
愛し──

―こんな―
バカな――バカな――
マリエ…こんな手紙を待っていたんじゃない――
マリエが―死んだ―こんな手紙を待っていたんじゃない
コトン

…帰って……
きてって…手紙が…
くる…はず…
こんな…
エーリク?
…あ…い……
愛してるからかえ…
エーリ…!
ひど…
ひどい…ひ…かってに……
どうしたんだ?………エーリク?
死んで…かってに…死んじゃって…
ぼくにだま…
だまって…だまって……だまって
エーリク!

う…
い…や

ガタッ!
ガタガタ
ガタ
カラ
ん
なに……
……これ
すいみん薬
軽いやつ
まえ
先生から
もらった
残り
……量?

なんだって…？
──殺せ殺せ
殺せ──
コーロー
致死量……あるの？
母親が事故…で？原因はこれか
──セ…
──よほど母親を愛していたんだろうに──
かわいそうに──
婚約指輪だよ

その手をひっこめろ
ユリスモール・バイハン!
いったいどういうわけだ?
そうもやさしく髪にふれて
同情か?かわいそう?
ではさきほどのキスはなんだ?
あれも同情か?
そのおぞましい自分の手をさっさとひっこめろ ユーリ!
そして すぐ立って部屋を出ていけ
いったいおまえは自分に人が愛せると思ってるのか?
悪魔にその身を売ったくせに——
もう天使の羽もないくせに——
ユリスモール
人を愛するその資格がおまえにあるのか?
ユリスモール!

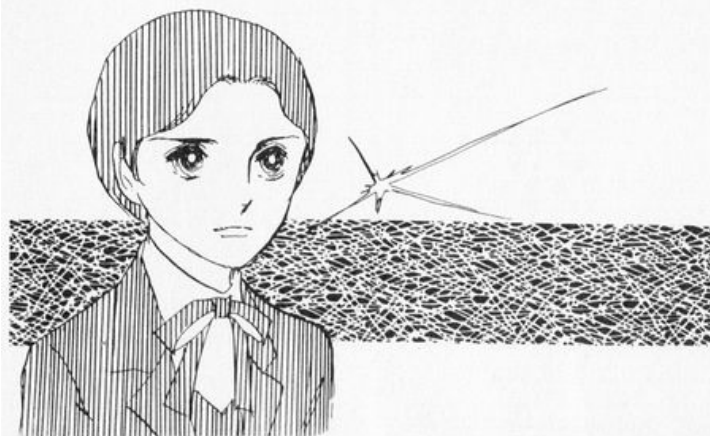
ユリスモール かね？
ええ
夜分 失礼します エーリクに 手紙がきて 彼の 母親が——
ギィ
手紙？
オスカー
アルフォンヌ・キンブルグ 弁護士から なら わたしにも きた
もう少し しさいを しらせて ある…
二週間まえ キンブルグ氏は 事故のしらせを 受けるとすぐ パリまでいって
——事故は パリ郊外で 起こったそうだ—
シュヴァルツ氏を 見舞った…彼は片足 切断…したらしい
二週間もまえ！ ずっとエーリクは 手紙を 待ってた のに——
マリエ 夫人は…
車といっしょに 燃えたそうだ ……

なか…なか
いえない
ものだ
たとえもし
わたしが
母親の死を
わたしの息子に
話す立場に
たたされたら
やはり
日を
おくだろう
明日話そう
明日話そうと
思いながら
たぶんね

ぼくの親父は
ある日
銃声のひびいた
一分後に
こういいましたよ
あの部屋で
ママが死んでる
はいるんじゃない

時がたてば
……いえるものだ
たいていの
ことは
エーリク
自身も……
この数日は
つらいと
思うが
学友として
よく
力になって
ほしい
かわいそうに
つらいなんてもんじゃ
ないだろう…どうする
あした…ぼくから
クラスのみんなに
話します

彼がみなしごになったと―?
シュヴァルツ氏がいる…義理の父親の
片足の?
オスカー
校長室でなにをしてたんだ?
新聞を読んでいたよいつものことさなぜ?
特権だよ
あまり生徒たちにはよく思われていないよ
校長先生がいささかきみに甘すぎることに対してはね
ぼくは待ってるのさ あの校長が―
今に――ぼくを養子にほしいっていい出すのをね
ぼくたちはさしむかいで新聞を読むのさ学校のことや話しながら少しのあいだ
ずっとだまってる時もある
まさか?
ほんと
いくらきみが親友の息子だからって―
そううまくはいかないだろう?

ご心配ありがとう
でもどんなゲームでもね
ジョーカーを持ってるほうが勝ちだよ！つまり切りふだ！
一手かならず先んずることができる
持ってるの？
ロイヤルストレートフラッシュこの手負けなし！
ポーカーフェイスだ
ポーカーフェイスはどっちだい
ぼくよりかわいそうな
かわいそうなエーリクのことでも心配したら委員長！

どうしたんだ
……やけに とげとげしかった さっきのオスカー

彼女は オレに キスした キス キスして

キスして いったさようなら さようなら さようならと
それでオレは 銃をとりだし うしろ姿に バン！と一発

はいるんじゃない あの部屋で ママが 死んでる
うしろ姿に バン！と一発

そこに いるのは だれだっ 消えねえと はったおすぞ！

オ――

ぶっそうだ

失敬―― アンテかと 思った あんたなら いいよ

アンテも いたよ いれちがいで 逃げた
あのヤロー

人のあと追っかけてんだあのガキ
きみをすうはいしてんだよ神さまみたいに
アンテ!
もういっちまったようだな
エーリクのおっ母さまなくなったよ
だからきげんが悪いのか?
うん…エーリクに同情してすこし気ぶんが悪いのとね……
もうひとつは…
トーマ・ヴェルナーに負けそうなんだ……
ユーリの頭から彼を消せないんだ……
ぼくは ユーリの手のうちはみんな見ぬいててなにもかも知ってるのに
——ぼくがいちばんユーリを理解できるのに
ジョーカーも持たずなにも知らない彼に負けそうなんだ——

あ…
机でねむってしまったのか…
エーリク
コートがない！
気づかなかった
いつ出ていったんだ!?

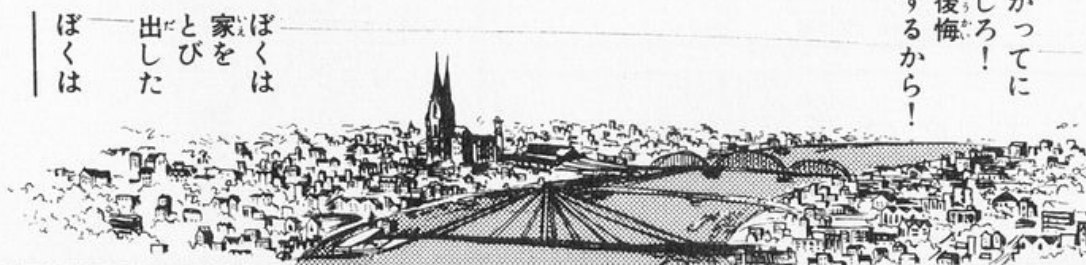
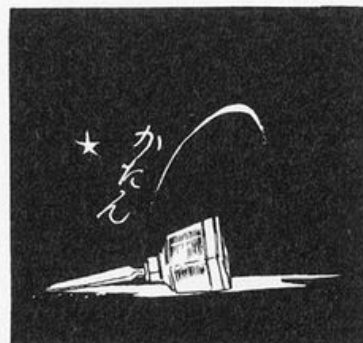
駅に問い合わせたがはっきりしない
多分 早朝の通勤客にまぎれたんだろう
夜中とか人けのない時間なら駅で目についたろうから――
キンブルグ弁護士にしらせねば――
ケルンへいったんだなたぶん――
パリは？
義理の親父んとこに用はないよ 彼はいつも帰りたがってた
ガヤガヤ
オハヨ
オハヨ
オハヨ
どうする？
この駅はとっくに過ぎてますよ 追加料金を坊っちゃん
いくら？
どちらまで？
ケルン
ガッ
……無断外出だ つれもどそう……

マリエ
らんまんの花 光の中のマリエ 美しい人
たえまない恋人たちの訪れ 悲しいことは なにもかも きらいだった人
―あれは 初秋だった か―
おばあさまの お墓のまえで 泣いていた マリエ
おばあさまは なくなった の エーリク 天国へ いって しまったの エーリク
もう 名まえも 呼んで くれない
いつも いっしょに いたのに
わたし ひとりぼっち だわ……
当時ぼくにも 死というものは わかったのだ それがどうして そんなに 悲しいことなのか 思い出に泣くには 幼すぎはしたが
ひとりじゃ ないでしょ ぼくがいるよ ママ
―でも おまえもいつか わたしを おいていくわ
大きく なって 恋をして 子どもはみんな そうなんだから
そして わたしは またひとり ぼっち
おいてか ないよ 大きく ならない ……
名まえを 呼ぶよ マリエって おばあさまが 呼んでた みたいに ねえ ひとりじゃ ないでしょ 泣かないで
そばに いるよ
どこへも いかない……
マリエ ママ マリエ
それは さいしょの 誓いだった
らんまんの花 光の中の 美しい人
くりかえす甘い 恋の遊び みんなわたしが 好きなのと 笑ってたマリエ

わがままで
泣きムシで強情で
小さな少女のような
ところもあったマリエ
いつでも
恋人と
ケンカ別れ
別れては
泣き暮らし
いつも
そばにいて
泣いてる
マリエの髪を
なでて
あげなければ
ぼくはどこへも
いかないからと
いって
だからぼくは
おお
旅に出ましょう
エーリク
湖は好きよ
あの色がいいわ
トランクを
用意して
あれは持った
これはいれた
なんて
騒動なの
旅先でマリエは
ユーリ・シド・
シュヴァルツ氏と
出あった
彼は
ボーデン湖畔の
古びたホテルの
持ち主だった
毎夏湖畔を
訪れるごとに
進展していく
恋愛図
シドめ
マリエのケルンでの
プレイガール
ぶりを見たら
アゴをはずすぞ

去年の夏だった
よりをもどそうと
マリエを追ってきた
恋人─ぼくの
フェンシング教師
だったっけ─と
湖畔でもろに
対決
ジャーン！
ぜんぶ
バレた
ざまあ
みろ
ところが
彼氏あきらめ
なかった
ホテルをたたみ
ケルンへ
飛んできた
雪まみれになって
サンタのように
イブに現れた
かよいづめで
くどきにくどき
ついにこの春
…結婚しようと
思うのだが……
賛成して
くれるね？
マリエと？
冗談じゃ
ないよ！
おやおや
わたしは
いたって
まじめだ
よ───
なんて
いおうと
だめ！
恋愛なんて
つづきっこ
ないんだ
みんな
同じだよ
男の人って！
バカ
おっしゃい
わかった
ような
口きいて
も少し
すなおに
なったら
バーロ
バーロー
なにが
すなおに
なれだと
おまえに
いったい
マリエが
わかるか
ヒゲヅラ
マリエと
口を
きかぬこと
三日
うっ
うっ
うっ
ついに
マリエが
おれる

とてもだめよ――
わたしが結婚したら
あの子 きっと
死んじゃうわ
あの子 時どき
ふつうじゃ
なくなるのよ
ユーリ
あの子は
わたしが
いなけりゃ
だめなのよ

―☆
なんたる!
"わたしが
いなけりゃ
だめなのよ"?
だめなのは
マリエじゃないか
いつも泣きついて
くるのは
そっちじゃないか―なんと!
かってに
すりゃ
いい
だろう!

かってに
しろ!
後悔
するから!
ぼくは
家を
とび
出した
ぼくは
ぼっちゃん
ぼっちゃん
ケルン
ですよ
終点
ですよ
あ
ありがと
長旅
でしたね
おつかれさま
ぼく
は―

キキュ!

はい ここですかい チップふくめて 八マルク まいど!

カチーン

学校にいくってエーリク？
そうだよ
あなたがたのじゃまはしないから
好きにしたら！
元気でいてね
夏にはまたいっしょよ
トランクは？
おお なんてさわぎなの
いいことだ
きみはマリエといるより
ずっとたくさんのことを学校で学ぶだろう
ママをわかってね
愛してるわ
笑ってよ
キスさせてくれないの？
かたん

どうして
結婚に
反対なんて
したのだろう
マリエが
そうと
のぞむなら
なんだって
許せた
はずなんだ
それなのに
ぼくが
我をはって
ぼくだけの
わがままで
マリエを
しばりつけて
たんだ
マリエを
必要としたのは
ぼくのほうじゃないか
あんなに
手紙を待ってたのは
自分だったじゃ
ないか
だれが
ぼくの髪を
なでてくれる？
だれが
世界中で
いちばん
ぼくを
愛して
くれる？
マリエ
マリエ
マリエ
マリエ
マリエ
マリ
だれが
ぼくの名を
呼んで
くれる？
こうなった
今となっては

チン
おはよう 昨夜はねむれた？
今何時？
ぼく？ ぼくはエーリク
うん ぼくもあなたを知らない
でたらめに番号まわしたんだ遊びさ
あなたふきげんだね ちゃんと相手してくれる人もいるよ
ママ？ ママはいない 死んだの パリで 二週間まえ……
じゃ さよなら ……
シュー
コポコポコポ

ここをあけて
くれないかね
エーリク
おはよ……
キンブルグさん
おはよう
昨夜この家に
あかりを
見たんで
帰ってきたのは
知ってたよ
そのまえに
学校から
きみが
無断外出したと
電話があってね
ケルンに
きたと
知らせ
といたよ
無断外出じゃ
ないよ
学校　もう
やめるんだ
お茶どうぞ
やめる？
やめてどう
するね
どうもしない
ぼくここに
─いる
エーリク
この家には
もう住めないよ
この家は売りに出されてる
マリエ夫人は　夫君の家に
移るつもりでいたからね

どういうこと！
—ぼくの権利は——
いっさいない
遺産として
この家をいま
相続するには
きみは若すぎる
だいたいが
ひとり暮らし
なぞ
できはせんよ
ぼくは
この家で生まれて
この家で育ったんだ
これは
ぼくの家だ！
他人のあなたに
なにがいえるの
この家は
マリエとぼくの——
マリエと
ぼくの——
きみが
生まれたのは
ここじゃない
ハンブルグだ
きみの父上は
いま再婚して
そこに
住んでいるが
ぼくの？
……の？
どうしたんだね
マリエ夫人は では
なにも話してないんだね
きみのお父さんだよ
きみが生まれて
一年後に
ふたりは離婚した
ケルンは マリエ夫人の
実家なんだよ

だって…マリエは…
マリエはなにも
話さないから
…ぼくは

いちおう 連絡を
とってるよ
弁護士の
わたしの苦労も
さっしてほしいね

きみはまだ子どもで
保護者が必要な身だ
いずれ
シュヴァルツ氏か
ブラウン氏—
きみの父上だが
ふたりのうち
どちらかが

きみを引きとる
だろう

ふたりのうち
どちら
かが——

ベルの音だ
だれか
きたよう
だな

きみは?
エーリク
の?

ええ——
シュロッターベッツから
彼を迎えに
きました

エーリク！
きみの
クラス
メイトだよ
ちょうど
よかった
じゃないか
でてけーっ！
なにしにきた！
エーリク！

あきれたね！
なんというヒステリーだ
せっかくきてくれた
友だちに対して！

ケガは
ないかね！
いえ

あれは
マリエ夫人の
お気にいりの
ポットだったよ！
いくらだったか
おぼえているよ
わたしは！
きみはまだ
一ペニヒだって
自分で働いて
得たことも
ないくせに
人の作ったものを
たんなる気まぐれで
ぶちこわすなぞ
もってのほかだ！

よろしい
さあ
帰りなさい
学校へ！
あとは
いっさい
わたしに
まかせて

きみは
教育を
受けなきゃ
ならん！

……

——不安で不幸な朝——
オスカーは
学校にいるよ
きみのことを
心配していた
それ——
なに？
詩集だよ
……
時間つぶし

息づまる！
あの委員長
世界のおわりがきても
委員長ヅラしてんだ
――淡たんと詩集でも読んで――
帰りたくない
パタ
学校に帰って
―それから？
なんになるんだ
――でもそこしか
いくとこが
ないなんて！
……それでも
迎えにきて
くれたんだ……
わざわざ
夜行で――
……心配……した
のかな……彼も……

あと五分で終点！ギーゼンですよ
終点！ギーゼン！
ギーゼン？
カールスルーエいきにのったはずだって？
いや これはカールスルーエなぞにはいきません お気のどくさま
さあ おりておりて終点！ 終点！
……
ここがギーゼン？ こんなとこ知らないぜ！
ぼくも初めてだ …コブレンツでこの車両切りかえたらしいな
でもここからフランクフルト方面いきの列車が出てるだろう
聞いてくる
さい先悪いな……
ポン！
や！ どうしたんだい 巻き毛のぼーや まいご…？
ん…？
ピ！
おい！ このタイ…まさかシュロッターベッツ!?
？
そうだよ… どうして？
エーリク
ちょうどいいよ その列車すぐ出発だ フランクフルトいき急行……

サイフリート!
……ほ
…おひさしぶり……
……ユー…
ユーリ?
……
──楽しい晩だったな!ユリスモール!

ユーリ
今のやつ
知ってるの?
知ってるの?
今の
シュロッターベッツの
卒業生?
むこうは
きみを―
プライベートだ
きみの問題じゃない!

小降りの雨にまじってフランクフルトに着くともう五時をまわっていた
三時間待ちだよ
どういうことさ
貨物の脱線事故でカールスルーエいきが遅れてるんだよ……もっと遅れるかもしれない
はん
学校と家に電話をかけてきた
家?
ウィースバーデンにぼくの家がある

一泊して
学校にもどろう
そのほうがいい
十五分後に
列車が出るよ
——一時間で着く

いかないよ

ほかに方法がない
もう電話をかけてきたから母が待ってるし——
いかないっていってるだろ!

—なぜ?

——きみが気にくわない!

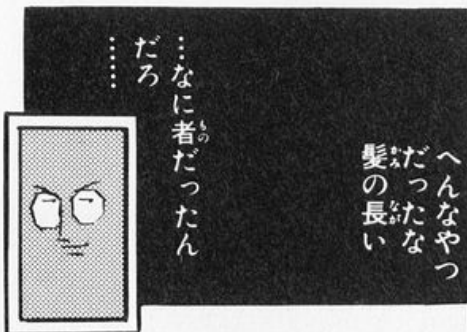
…さっきどなったことなら…悪かったよ
ぼくはきみが喪中だってこと忘れてたんだ……
それに……ちょっとかっときたもんでね

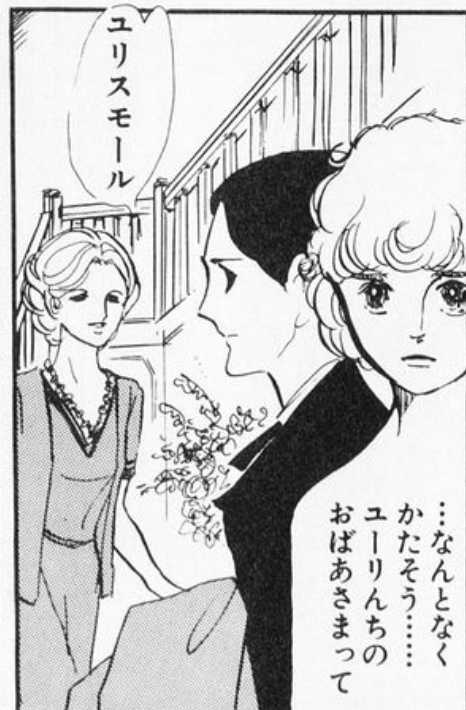
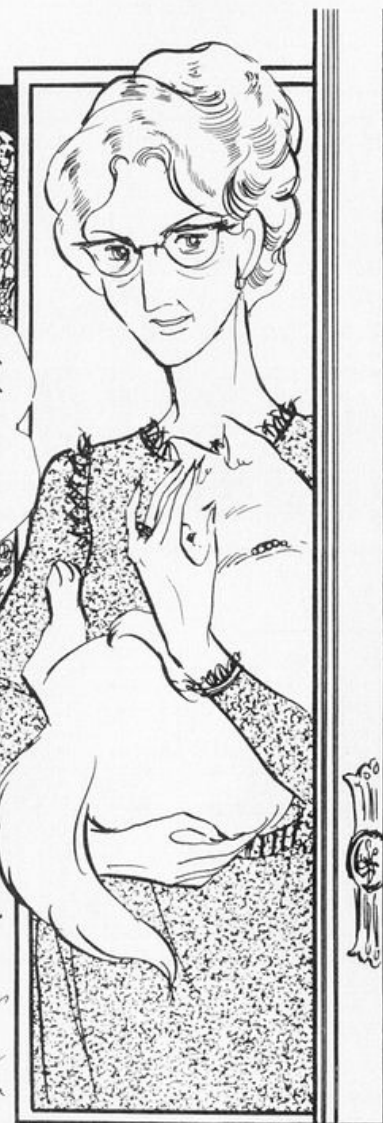
ぼくの家にきてくれないかエーリク

ウィースバーデンは
晴れていた
星が—落ちて
きそうなほど

バスがこず
駅から
歩かねば
ならなかった
街の灯はゆれて
近づいたり
遠ざかったり
した

——この日——

ぼくには
ユーリがさっぱり
わからなかった
ひどく
いんぎん無礼に
ふるまってる
かと思えば
髪を
さかだてる
ほど
おこったり
山ほど努力して
まざりっけなしの
好意をしめそうとする

結局——彼は いい
委員長なのか
ろくでなし
なのか
器用なのか
不器用なのか
へんなやつ
だったな
髪の長い
…なに者だったん
だろ
……

おお
お帰り
ユリスモール
遅いこと
ただいま
おばあさま……
夜分に失礼
します
どうぞ
エーリク
チロ
彼が―電話で
話しておいた……
ええ
わかって
ますよ まあ
おはいり
なさい
ユリスモール
…なんとなく
かたそう……
ユーリんちの
おばあさまって
ただいま
母さま
お帰り

さあさ
ケルンから
ギーゼンまわり
ではつかれたこと
でしょう
チーズと
クラッカーが
それと
コーヒーとね
めしあがれ
いただこうよ
エリザベートは
ねむって
ますよ
明日になさいね
あの子には
不摂生は
させてません
からね
どう？
ユリスモールは
学校でよく
やってます
かしらね？
きみの部屋を
用意するよ
あ
うん
……
ほほ！
てれやさん
だこと
ね

おやすみなさい おばあさま

チロ

なかなかかわいい子じゃないの ねえシェリー おうちもよさそうだし 茶色の目…… 茶色の巻き毛…… ねえ シェリー すこし無作法だけど
あんな子がうちの子ならよいのにね!
あ…ぼく コートをどこにおいたっけ
玄関?
そうだ 取ってくる

おお 黒い髪なんて!
ユリスモールはますます あのアラブ人に似てくるじゃないの

わたくしの夫はドイツ人でしたわ お母さま

混血の
黒い髪のね！
おまえは
ろくな男と
結婚しなかった
わたくしの
夫は
ギリシア系
でしたわ！
どこも
同じだよ
南は！

だいたい
非常識にも
夜中に とつぜん
帰ってきて
列車を
まちがえた？
などと
しゃあしゃあと
どこぞで
遊んででも
きたんじゃないの

！
お母
さま
わたくしの息子は
むだな遊びに
時間を使うほど
バカじゃありません

おお
事業に失敗し
山ほど
借金を
かかえて
死んじまった
おまえの夫と
同じバカさ
息子はさっさと
イタリー女に
でも
くれておやり
まったく
黒い髪に
ろくな男は
いない
あの人は
運がなかった
だけですわ
お母さま――

それに
エリザベートは？
あの人の
娘ですのよ

おお シェリー
エリザベートは
いい子！
あの子は金髪

金髪で青い目でわたしによく似て！あの子はきっすいのドイツ人
コートはみつかった？
ダダ
ここきみんち？ここきみの家族!?
？…そうだよ
あれ あれ ほんとにきみのおばあさん!?
きみ――いつもあんなこといわれてるの!?
…エーリク？
うせやがれクソババア！
エーリク！
なにをさわいでるの
やすまなかったのユリスモールや
明日は早いというのに

ん…ま
ん…ま
エーリ
……！
—すみま
せん
おばあ
さま…！

わ わたしには
わかってましたよ
ユリスモールが
あの子が
つれて
きそうな
友だちは！
元気が
いいこと
ワナ
ジロ！

いつもの
ことだよ
きみが
おこることは
ないさ

いつも
ああ!?
やだね！
家飛び
出すよ！
ぼくは
—

おばあさまは
両親の結婚に
反対だったんだ…で
父に似てるぼくが
お気に
めさない
—でも

母もぼくも
あのかたには
ずいぶん世話に
なってるから
なんの
世話さ！
きみ なんで
がまん
してんの！
きみも
クソババアって
どなりゃ
いいじゃん！
それでは
問題の
解決に
ならない
たとえば
ぼくが
おとなに
なって
成功して
おばあさまに
負ってもらった
父の
負債を
ぜんぶ
返すとか
すれば
あのかたの
みかたも
かわるさ
そして ぼくは
かならず成功する
つもりだから
この北国での
南国に対するどんな
偏見の目にも
ただ時を待っていれば
いいのさ
だれでも
偏見…！
だれが…！
ザクセン
シュワーベン
バイエルン
フリーセン
フランケン
チューリンガー
ドイツ国の
基となった
六つの種族
そこに
ぼくの父は
いなかった
父の死後初めて
対面した彼女の
ぼくを見た目…！

南国――
まばゆい花と夏
朽ちた臭気とぬるい水
怠惰 あこがれと侮蔑……
ぼくは…小さなころからわりと単純でね
あまり悪いことを知らずに育った
つまりぼくはたいそういい子だったんだよ…
だからそういった目に対してね
なんで!? ぼくの教師なんてモロッコからもスペインからもきていたよ
より いい子であるために
より よい ドイツ人であるために
努力してきたわけだ……
自分の人生に汚点をつくるまいと
なんであろうと光の方向に歩こうと
博学で機知に富み正直な――
手にいれる
……
…ユ……
尊敬される――完全な人間――たぶん父のように
そう ぼくの理想
きみのパジャマここだよ
新しいやつだ
おやすみ
キ

ユリスモールって
聖堂の絵のような
顔してるよ
だれがいったっけ?
イタリア・ルネッサンスの
天使たち――
ぼくは
異邦人じゃない
ユリスモールの気持ちは
わからない

完全な人間てどんな人間だろう
マリエ
彼はさびしくはないのだろうか
理想ばかり追っかけて—それはよいけど
家へ帰ってもなんだかひとりで虚勢をはって……
家でひとりで……
マリエ
ひとりでユリスモール…
ユリスモール
ユリスモール！
ユーリ！ユーリ！
ひとりで
ユーリ…！
ユーリ
ユーリ！

夜中だよ！
どうしたんだ？

ぼく―ぼくは
きみが―ユーリ
泣いてるんじゃ
ないかと
思ったんだ

泣いてるのは
そっちだよ
なんの用？
気分でも
悪いの？
ふ

チョコレート
のむ？

フランクフルトの
雨だ　追いついて
きた
す

ごめん……
ひとりで
いるの
さび…しくっ
て……
さびしくて
昼まは
平気だっ
たのに…

ぼくなら
死んだって
人まえで
いえない
ような
ことばだ

泣いたり
笑ったり
おこったり
彼の
感情は
すなおで
ぜいたくだ
まるで
なにも知らない
小さな子どもの
ように——
なんの
てらいも
ない……
なくして
しまった
小さな
子ども
きみ ぼくが
夜中に
こうしているの
…めいわく？
いいや
きみ ぼくが
きらい？
頭にきてる？
トーマに
似てるから？
今はそんなこと
考えてないよ…
きみは
お母さんを
なくした
ばかりだし……
きみ
同情されるの
きらいだって
いってたけど
ぼくは
好きだよ
だって
そういう感情って
とても
やさしいもの
昨日は…ずっと
ひとりでいたんだ
マリ マリエの
部屋で

いろんなのが おいてあるの …ガウンや…
マニキュアや… ピン……
朝になって 知らない人に 電話した……
ぼく…マリエが とても 好きだったよ
ごめん…… ポット ぶつけて
もういいよ ……
今だけ 天使のふりを しよう 彼は かわいそうな 子どもなの だもの
今 だけ
泣いているのは トーマ…? きみ…? エーリク…?

あれ……！

きみ　どこで
ねたの？
きみの部屋
客用寝室
だよ

ごめんーベッド
ぼくとっちゃっ
てー
いいよ
下に朝食の用意
できてるから
……

やだな
……！
まだ目
赤い……
ユーリったら
あっきれた
ろうな

……

マリエ……！

マリエ
今日
学校へ
帰るんだ
もう
ぶざまにも
泣いたり
しないよ

おばあさまは？
まだ おやすみよ お部屋に カギが かかってたわ
エリザベートの朝食？はこぶよ 知ってる？ あの子
ええ それで起きたがってたけど まだ熱っぽいのよ
あ ミルクも お願いね
妹って病気？
時どきね
エリザベート
ユーリ！
ユーリ！ 昨日きたの？ 遅く？
そうだよ ちゃんと食べてる？
ぼくの友だちだよ エーリク
……

あたし あなた
知ってるわ……
ご本で見たわ
本？
先週
教会から
いただいて
きたの
見て
お水
のんでる
とこよ
ああ
洗礼を
うける
キリストの
図だよ
どれが
ぼく？
待ってね
これが
あたしよ
それは
ハトだよ
ハトなの
これが
あなたよ
ほんとだ
これが
ユーリよ
似てるよ
ユーリ
この
天使
これが
マ……
おやすみ…
エリザベート
あ

今度はいつ帰ってくるの？日曜日？
もっと先だよ
さよなら
さようなら
さようなら
さよなら
さよなら
さよなら
かわいい……
あんな妹何人いてもいいいな
あ…！
なに……
指輪が動くんだ
はずせる？
ち
わあとがついてる
どれ

でも
よかったよ
指がやせたんだよ
成長期でも
あるし
このまま
とれない
よりはね

ん……

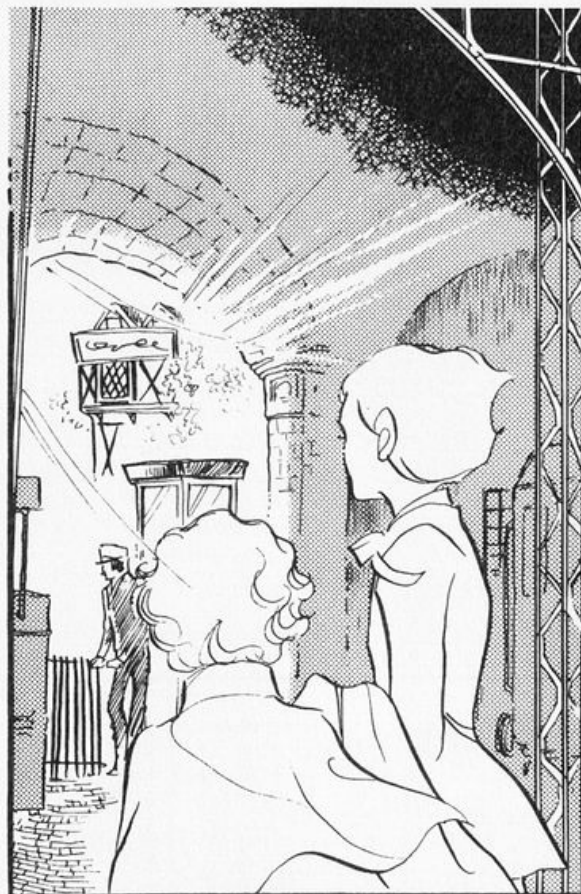
きみ……
やさしいね

……

あれ
赤くなった
ユーリが
赤くなる
なんて

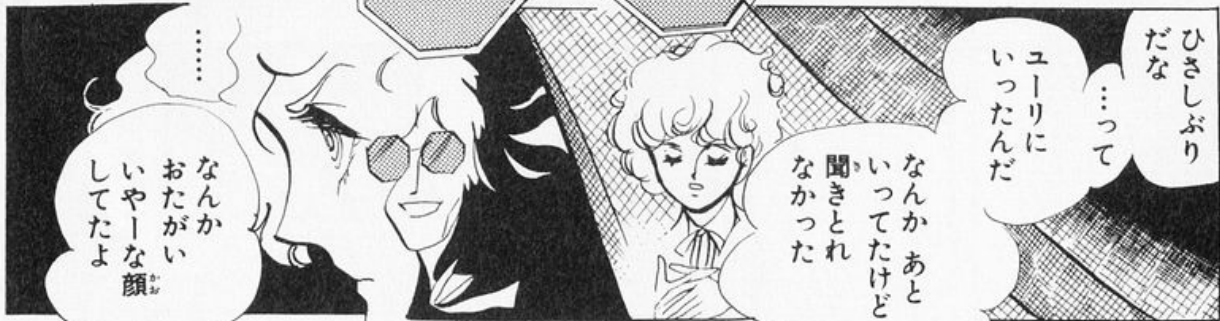
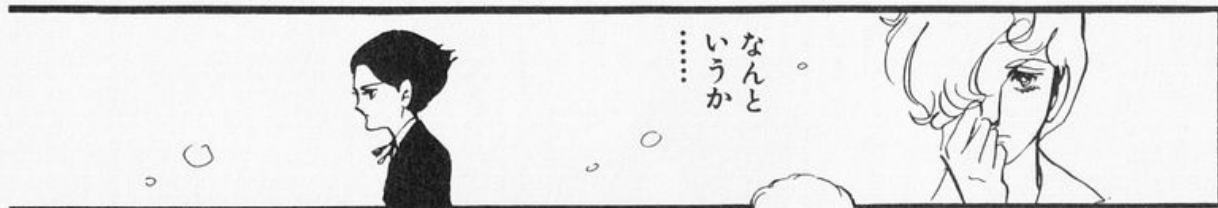
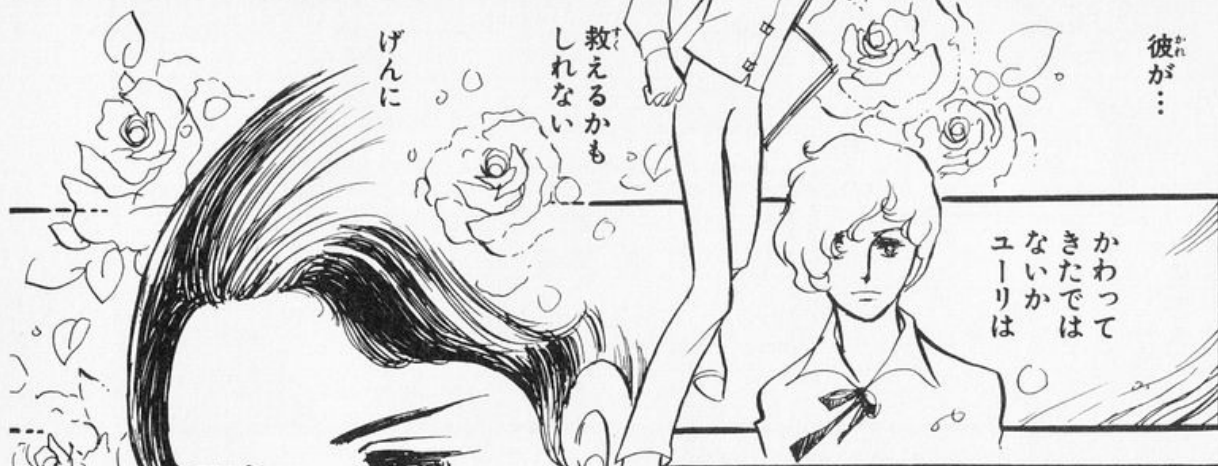
つぎの駅だよ

まぶしい
あの朝
家へ帰ろうという
ひとつことだけを
考えて
この駅へ立ったのは
おとといなのに
もう
ずいぶん
たった
みたい
オスカー!
いよう
ウィース
バーデンから
一番でくると
思ってたん
でね
いいカンだろ
——お帰り
きみらしい
ユーリ…?
笑ってる…!

シバッ

ガヤガヤ
ガヤ
ワァ
ガヤ
やあ
エーリク！
やあ
お帰り！
ユーリは？
エーリク
校長室
帰れなくて
ユーリりんち
とまったの
ん
ひどいや！
ぼくのいないときに
三つもテストが
あったなんて
みんな
さんたんたる
成績だよ
いっしょに
追試
うけようぜ

あれ！指輪？エーリク
あとれたんだ
思ってたよりさ――
やさしいとこあるんだね？ユリスモールって……
そーだろ！さいしょからいってるだろ！
彼はとってもいいやつだって！
反対しないのヘルベルト
しないよ こんなとき彼が委員長としての責任をいかに完璧に遂行するかはじゅーぶん知ってるもの
でも……ほんとにやさしかったんだよヘルベルト
そりゃ少しばっかおたかいけどさユーリは…
なにさ じゃきみは なんでみんながユーリを好いてると思ってたんだい！
ル・ベベもっとワアワア泣くかと思ったけど
うんわりと元気だねよかったたよ

どこで
ル・ベベが泣いたかさっしがつく
まあわかってたんだ
――さいしょから
かんたんだよ xが3で yが33だ
ほんと?
エーリク 方程式ってのは式が必要なんだよ
トーマを忘れられないかぎり
彼の目がエーリクを追うことは――
うん……ユリスモールってそんなー そうだね うん オスカー きみのいってた通り――
旅行中に見解がかわった?
うん ずっとやさしかった どなられたのは一回きり ギーゼンの駅で

ギーゼン？カッセルのほうじゃないか
のりちがえたんだ
なんだかねへんな男にあったんだ
よっぱらい？
じゃないよ
キザなの……
…八角形の青いメガネかけてて金髪であごの長い
ユーリとその男の人知りあいだったみたい
ひさしぶりだな
…ってユーリにいったんだ
なんか あといってたけど聞きとれなかった
……
なんかおたがいいやーな顔してたよ
サイフリート
サイフリートに…あったのか
オスカーでね
あ
でね
聞いてんの？ぼくに父親ってふたりいるんだ
ーふたり！
ぼく いっきに二十六歳になって保護者なんて必要ない身になりたいよ

まあねーアッソ
天涯孤独より
いいんじゃない
ぼくなんぞ——
きみにも
いるじゃ
ないか
南米へ
いったきりだ
校長先生の
ことだよ
いっ
ぼくが!
…お父さん
だろ
ちがう?
きみが
自分で
いったん
だよ
南米へいったのは
ほんとのおやじ以上の
おやじだった それから
べつのおやじがそばにいる
…って
それから
それから
それから?
無期限
無利子の
借金を
校長に
してるって
それに
似てるよ
やっぱり
………
ちがう?
アーメン
オスカー
秘密なの?
なら
だれにも
いわないよ
ああ
そうして
ほしいいね
カンの
いいこと!
なんと
いうか

なんと
いうか
……
……
彼が…
救えるかも
しれない
げんに
かわって
きたではないか
ユーリは
ユーリ
ユリスモール
学校できみと
初めてあったとき
なんだか
おやじを思い出したよ
おやじは南へ
いったのでよけい
かさなったのかも
しれない
旅行などして
年齢以上にませた
ガキだったぼくは
あのころ
一学年年下の
ヒヨッ子どもの中で
うんざりしてた
もんだけど

あのころは
六人部屋
みんなで
さわいだ
きみも
さわいだ

でも
きみは
けっして
ハメを
はずす
ことは
なかった

そうかも
しれない…

こんなことを
思い出す…

階段で
ふざけて
ひとりが
足をすべらせ
そうに
なった

ユーリは
彼を助けた
かわりに
自分が
ころげおち
たのだ

彼にとっては
そのほうが
らくだったのだろう
彼はつねに
委員長だったから
外に
出ないの
足を
引きずってる
かっこうなんて
見せられ
ないよ
同情をひくようで
いやだ…助けられたほうも
気がめいるだろう
それより
ここで
勉強する
つぎの週の物理は
きみをぬくよ
その通り
だった
ユーリ
すごいや
トップ
だよ
ユーリ
もう
走れるの

きみが かわった 時を ぼくは 知ってる……
あの日から
ぼくは きみの番人に なったのだけど

昔 あのころ 世界はもっと 明るかった
きみは 人を愛し ことがらを愛し 理想とする ところに 向かっていた

トーマ・ヴェルナー あの天使は 死んでしまった そして きみは ぼくの目を 見ようとは しない
では ぼくがきみに 望んだ ことを
きみが 明るい 世界に 帰る ことを
エーリク は……
やれるの だろう か
すくなくとも きみの目は 彼のほうに 向いている
よく よめるな 神さまなんて 信じてない って いったくせ に……
……

ユーリ！図書室から借りた本すっかり忘れてたんだけど…！
ユーリ？
委員長は図書室だよ
ブリッジやる？
やるやる場所とっててすぐくるから
ユリスモ…

あ

ああ これ
きみが借りてたのか
修正の必要があるな

新しいの借りてく？
うん でも
今日は貸し出し日じゃないだろ
いいよ
日付けかえておくから

あれ！
きみらしくない
委員長

まさか
ビニールテープ持ってくる
待ってて

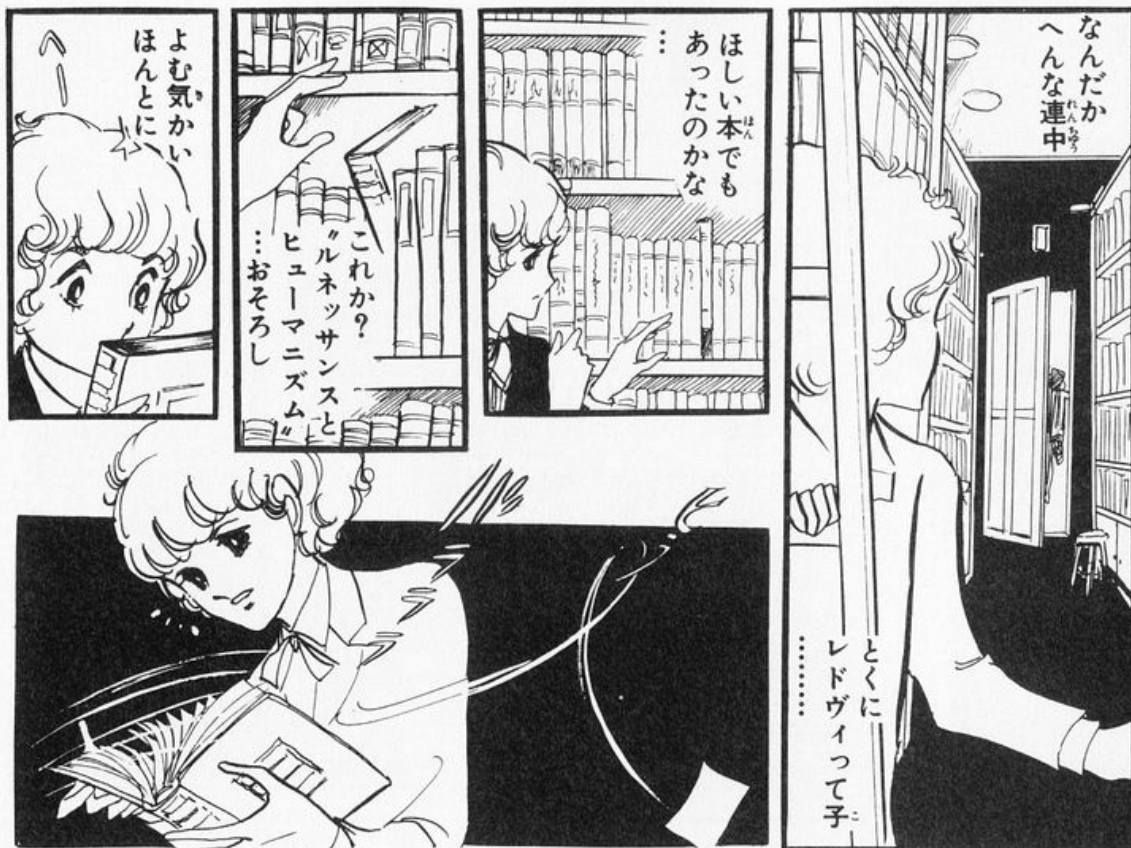
ぼくが考えてたよりも──
ずっと
たぶん
いいやつなんだ──
ユーリは

マリエ
聖堂のマリアは
あなたに似てます
でも それだから
ぼくが学校で なぜか
心がやすらかなのとは
すこし違うようです
カサ
ユー…
リ…じゃない
ドレヴィ!

ホセが
さがしてるってさ
なんだい きみさ
貸し出しないんだよ 今日
なにしてんのさ!
なにも……
あ あと
つけたの?
そこに
いるのだれ
エーリク?
なにしてんだ?
……
出てったら!
外見てんだよ
ユーリは
こううるさいぜ
ここ 彼の
管轄だから
な!
へ……!

なんだか
へんな連中
とくに
レドヴィって子
……
ほしい本でも
あったのかな
…
これか？
〝ルネッサンスと
ヒューマニズム〟
…おそろし
よむ気かい
ほんとに
へ−−

ぼくはこの半年のあいだ
ずっと考えていた

ぼくの生と死と
それからひとり
の友人について

ぼくは成熟しただけの子どもだということはじゅうぶんわかってるし
だからこそこの"少年の時"としての愛が
なにか透明なものへ向かって(性もなく正体もわからない)
…投げ出されるのだということも知っている
エーリク

詩片……いや
恋文……！
ユリスモール
あての
…ユーリ
…だって…!?
細い横すべりの字
だれ…？
名まえがない
気にいった
本はあった？
エーリク
これは単純な
カケなぞじゃ
ない
それから
ぼくがユーリを
愛したことが
問題なのじゃ
ない
彼がぼくを
愛さねば
ならない
のだ
どうしても
名まえも……
日付けもない
やさしい
文字
あ…う…
…うん
彼を
生かすためなら
ぼくは
ぼくのからだが
打ちくだかれるの
なんか
なんとも
思わない
いったい
だれがこんな
――ユーリに
…レドヴィ…!?
……
そうして
ぼくはずっと
生きている
彼の目の上に

"ルネッサンスとヒューマニズム"…？これは…だめだ
な

なんで！
借りちゃいけないわけでもあぁあるの？

…いや…ただ これは小説じゃないよ論文だから……きみには少し……
むずかしくないよ論文ぐらいこれよみたいんだ いいだろ？

…そう…そうだねじゃ……

ごういんに借りてきてしまった
難解なる本の中にひっそりとこんな恋文があるなんて
しかも……ユーリあての……ユーリ……！
レドヴィ

だれがかいたんだろうレドヴィだろうか?
それともほかのだれか
だれか…がユーリを
だまってどこかでユーリを見てる
死んでもいいほどユーリのことを…
ギク
やエーリク
…あ! や… オ… オスカー
なんだ…? 今の
なんでもないよ!
どれ?

なんでもないったらただの本！
ただなら見せろよもったいぶって！
だめっ
エーリク！
つかまえろつかまえてくれ！
わっど…！
こんちゃす
ダンケバッカス！
いようおひさしゅう
かくごを決めなもうちょっとおさえといてくれよ
ワー

〃ルネッサンスとヒューマニズム〃？
サイフリートが…この本を？
バチン！
ユーリが貸してくれたんだよっ
へ――ル・べべ論文でもかく気かいこりゃ去年サイフリート・ガストがよんですげえレポートをかいた本だ
でもル・べべきみはケストナーあたりがいいんじゃないの？
まいったね
…彼の名にはこのごろえんがあるな
サイフリートねたしか……
悪魔的に頭の切れるやつで……まきみは知らんだろ
オレと同じクラスだった素行が悪くて
レポートをかいた直後放校になったがどうしてるか今ごろ
ああギーゼンにいたよ
？
おまえは時どきわけのわからんことをいう…

だれか が……
ユーリに 恋してる
いった い……
どういう わけで ル・ベベは あんな本 よみ出し たんだい？
…さあ
エーリク だれか さがして んの？
死ぬほど ユーリに 恋してる
だれかが ユーリに 詩を かいた
……ぼくは きみが…… 好きだ けど

持ってきちゃいけなかったんだ……
これは秘密の恋文なんだろうから
……明日……返そう…
カタン
点呼だよ消灯だから
ユーリ！どこへいくの？
ガタ
ぼくも！じゃ……ぼくもいくよ
ガタ！
いちおうぼくも舎監だから
そう仕事を知るのはいいことだ
四年と一年ぜんぶで八部屋
あ 正面のいり口のドアは？
あれは開放だ火事でも起こった時すぐ逃げられるようにね

コンコン
異状は?
ありませーん ユリスモール
よろしい では おやすみ
あれ エーリクだよ…!
コン コン
全員いる?
います ユーリ
けっこう
異状なし
よろしい おやすみ
おやすみ
おやすみ
かんたんだね?
平穏なときにはね
それにみんな おとなしいね きみに なついてて—
点呼のまえに まくら合戦 やってたんだよ あれでも
……
…だ…
なに? 質問?
……だれかから 好きだって いわれた ことある?

あとはもとのスイッチ切っておわり
点呼とは関係ない質問だね
ユーリ…もし…もしきみをすごく好きなやつがいたらどうする？
べつに
すごくだよ！死んでもいいくらい！
かまわないよ…自由だろ
じゃきみは？
愛されたら愛し返さねばならない？
そんなことは…ないけど
そうだろ？

たとえば
そいつが
ぼくの気にくわないやつだったら
そんな義務はないさ…そうだろ？

…ぼくは？
気にくわない？

…べつに

じゃ…
少しでも

…好き…？

……!
コトン
このまま
ここを
おりて
いったら――
もう一度
ぼくは
天使の羽を
もらえるの
だろうか？

ユリス
モール
ユリス
モール
少しでも
ぼくを
好き…？
好き
ひとつのうた
ひとつの明るい
風景が好きなように
やさしい思い出
小さなものを
むつむように
愛すること
愛されること
信じること
信じられること
ずっとぼくは
おそれてきたの
だけれど――

もう
一度……
ガターン
ユーリ！
なんだ!?
…レドヴィ…!?

立ってレドヴィ……！
なにをさわいでるんだ!?

………
………

アンテ
あ　そうか彼も四学年だから……

ーぼくの腕時計がーないんですユリスモール！

どっかでなくしたんだよ！
ぼ…く
…ぼく

ものが
なくなったのは
これが
初めてじゃ
ないいんだ……
レドヴィは
レドヴィが
とったって
証拠でも
あんのかよ!
あやしーぞ
アンテ
共犯じゃ
ないのか!?

なんだと!
……

レドヴィ
出て
少し
話そう

ユリスモール!
班長
みんなをベッドへ
消灯時は
すぎてる
しめしがつかない

ユーリ
ユーリ!
どこへ?

なんで
レドヴィを
かばうんだよ
アンテ
そうだ
そうだ
あーあ
かばって
悪かったな
ぼくはあんな
アウトサイダーが
好きなんだ
ほっとけよ!

カタン
おすわり
レドヴィ
…時計を
とったの？
いいえ
ユリスモール

しょうじきに お話し レドヴィ ここは 神さまの みまえだ
なくなった 時計のために つるしあげ くらって
―すべて 告白すれば 神さまは 許して くださるよ
でも…ぼく 知りません！
盗へきの ある子
そりゃ本人が 悪いんだけど
聖堂でこう 向かいあって いったいなにを どういったら
神さまは いつもきみを 見ている そしてきみを 愛している
…神さまが 愛してるのは よい人間 だけです
罪人は 救われない
レドヴィ 人間は みな 罪人だよ
だから よい人間に なるために 努力しな ければ いけない
ウソを ついたり ものを 盗んだり 人を 殺したり
そんな 悪いことは やっては いけないし
もし してしまっ たら その罪を 悔いねば ならない
…… そうだ ろう？

人間なんて…もともと罪深くできてるんです
だから罪を犯したってしようがないでしょ――それだって
レドヴィ!
なにもしらないふりをして聖人のように壇上で福音書をよんでいるウソつきよりずっとましです…
時計を出したまえレドヴィ!
……どういう意味だ…!?
たとえばトーマ・ヴェルナー

カタ!
ホーマン先生に
届けておく
…部屋へ
もどって
ギ
レドヴィ!
レドヴィ!
…今度
こそ

…放校かな……
レドヴィ
なんでユーリにあんなこといったのトーマなんて？彼がトーマになにをしたんだ？
あなたあの本持っていったでしょ
あの本返してもとの場所に…
あそこはぼくの聖堂なんです
返しておくぼく考えなしだったんだ――だ…だれにも見せてないよあ…あの本もきみの詩も…きみ
ぼくは時どきあそこへいってあの詩をよんでたんだから
ぼくの詩？はさんであった詩のこと？
…きみ
ユリスモールが好き…好きなんじゃないの？
―死んでもいいくらい――

あれをかいたのはトーマだよ

トーマ・ヴェルナー!…?

だってあれ恋文……

茶番劇の話聞いてたんじゃないの

…うん…?

じゃなんで彼が自殺したのかもわかっただろ?
ぼくはきみなんか知らない
きみなんか知らない
知らない
トーマはひとつこともいい返せなかったそうだひとつこととも
陸橋から足をすべらせたんだよぼくもそう信じてたけど
いつだったかこれを図書館で見つけて……

ずっと考えてた
ぼくの生と死と
それからひとりの
友人…ユリスモール…と
ぼくが彼を
愛したことが
問題なのじゃない
彼がぼくをどうしても
愛さねば
ならない
そのためには
そのため
には

トーマ・ヴェルナーが自殺だってこと知ってたんだね?
そうだきみはさいしょからぼくにそういっていたそしてそして——彼が
彼が——きみのために死んだってことも知ってたのきみは!?
彼はそういったよ
でももうおやすみ
いついった?それきみトーマいつ聞いたの?
月曜日
イースターの休み明けだ手紙がとどいた彼の死の知らせといっしょに
…遺書だったトーマの
くもった風のあるあの日ねきみがここにきた日ぼくは……それをやぶった

ぼくがきた日…
どんな遺書
やぶいたの？
なぜ？
なぜ！
ユーリ！
どんな遺書？
愛してるって？
なぜ
って
それこそ
なぜ彼は
ぼくを
愛してる
からといって
自殺
しなければ
ならなかっ
たんだ？
きれいな
いい生徒…
アイドル
だった
ほかにいくら
でも
崇拝者は
いたんだ
ーなぜ

ぼくでなければならないんだ？
だって彼はきみを…
死んでもいいくらい愛して……たから……
ぼくならたとえ愛してるからってあんなふうな自己のおしつけかたはしない！
彼は いささかロマンチストだったのかもしれないよ
後悔して ぼくがあとを追いでもすれば彼は大満足なんだろう茶番劇さ
結局 彼は自分がかわいかっただけだ
ぼくの関心をひきたかっただけだ
ユリスモール
ユリスモール
ユリスモール
愛してたなんて——
信じない！
愛してる

トーマ・ヴェルナー
おはよ!
おっはよ
おっす
エーリクは?
アンのヤロ
またミサに
こなかった
たいまん
たいまん
おはよう
お
よう
エーリク
どうした?
不眠症のツラして
時間ないぜ!
食事しなよ!

ガチャ
ガチャ
エーリ……！
オスカー！
きみだって 知って 知ってたんだ…トーマのこと
エーリク
だから ユーリに 近づくなって いったんだ だから
エーリク！
なぜユーリは 信じなかったの！ なぜトーマが 好きだって いった時 信じなかったの！ なぜトーマを 死なせたの！
な…ぜ

予鈴だ
予鈴
時間ないぞ
どんなふうに彼は—死んだの？
オスカーとエーリクは？
出てったきりだよ
さて
この春さいごの雪の日に陸橋から飛びおりて——
あの日で冬はおわった
水仙もクロッカスもとけぬ雪のあいだからいっせいに咲き出した
ユーリはそれを聞いて？
かわらなかったよ
というより努力してかわらないよう見せてたよ
歩きかた話しかたいつもと同じよう
…でもほんとうのところは？

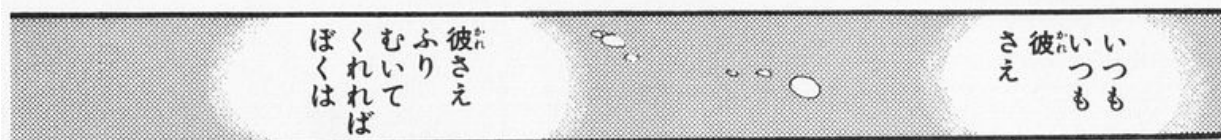
ほんとうの
ところ?
ほんとうの
ところなんて
だれに
わかるかい
わかったところで
どうなる?
……
ユーリは…
ほんとに
トーマがきらい
だったの?
あんなふうに
トーマが
自殺しても
……
それでも…
なんとも…
さあ…
たとえ　あの
茶番劇が
トーマを——
ザ
ザ
アンテ!
あ
アンテ!

アンテ!待てよ
アンテ・ローエ!
ドン
なに?
彼聞いちまった!
アンテ
あ…あ
違うんだ!
聞けよ ちがう…!
あっちへいけ
関係ない!
おまえのせいじゃないんだ!
あっちへいって!
—きみのせいじゃないよ

トーマはここにいたんだよこの木の下に
いつも図書室から借りた本をよんでた
——いつのころからか——
そら……
ちょうどここから自習室が見えるだろユーリの
……
…ぼく彼の図書券持ってるんだ…あとで見せたげるよ
彼が自習室に忘れていったの
トーマの図書券ね…ユーリがよんだ本のあとを追ってるんだ
きみがカケのことなんて持ち出すずっとまえからだよ……
——いつのころからか——

さあ教室にもどろう予鈴がとっくになってる
ごめん…
なぜぼくに？それともトーマに？
借りた本のあいだにはさみ忘れられたままま
レドヴィがそうしてトーマをたどり見つけ出すまであれはひっそりとあのひとすみにあったのだ――
手紙トーマの筆跡トーマの心……ここにいていつもユーリを見てた
ユーリ……ユリスモールはそんなことも知っていたのだろうか？

いつも
いつも
彼
さえ

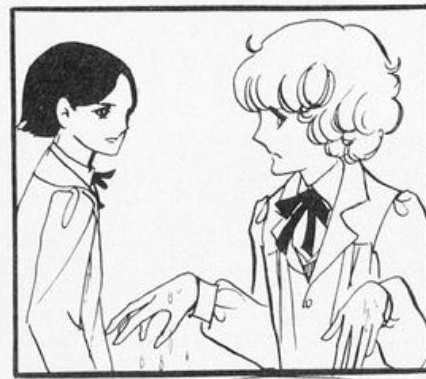
彼さえ
ふり
むいて
くれれば
ぼくは

なにが
茶番劇なものか!

トーマは
ほんとうに
ほんとうに
ユーリが好き
だったのに

かわいそうな
トーマ・ヴェルナー
かわいそうな
アムール

信じなかった
ユリスモール

かわいそうな
かわいそうな
ぼく――

おっと！
ガタ！
気をつけて ヘルベルト 事故が起こってから 不注意では すまされ ないよ……
む
カチャ カチャ
たった今 ユーリが 気をつけろって いったばかり だろ エーリク！
かたづけて
かたづけるよ！
なんだい なんだい きみまた ケンカしたの？ ユーリと
頭っから ぼくのほうが 悪いって 思ってる ようだな てめえらは
ユーリなんて 冷血漢で── コノヤロで── もうめちゃくちゃ なんだから！

それでいい
──ずっとぼくには
似あってる
──一瞬でもあの時
もどれるかと──
神さまがお好きなのは
よい人間だけです
その通りだよ
レドヴィ
その通り
──きみは天使
なのだから
トーマ
ぼくを愛してる
なんていわずに
昇天して
おしまい──
パン
ガヤ ガヤ
よーし
あと十分で
終了して！
かんたんな
実験なんだから
溶解時の
温度のほうが
センセ
低くなるん
ですが
まさか
こりゃきみ
めちゃ
くちゃだ
レポートは
二枚！
グラフつき
今日中だ！
おお
ユリスモール
よいね
これは完璧だ
パリッ
エーリク・
フリューリンク！
温度計をぜんぶ
ぶちこわす
つもりかね！
きみ もう
いいよ！

なに……
……
なにか話でもあるの？オスカー
べつに…ねこれといって……
バラバラ
じゃじゃましないでくれないか
ピシャー
!?
バターン
コト
まだ話があるのかいオスカー？
バン
ぼくだよ

あの…ユーリ
…あの…ね
ぼく…
知らなかったんだ
ずいぶんといろんなこと……
ぼくトーマのことそう好きじゃなかったんだ
死んだ時泣いたけど
ぼくきみがトーマを好きになってきみといるオスカーがぼくのほうを見てくれないかと思ったの
そこをどいてくれないかアンテ
さいごまで聞いて
…ぼくは茶番劇のことできみにあやまったことなかったけど
…ごめんなさい
気にしてないよ
許してくれる？そういってて？
…ゆる……

ぼくはどんなふうに
見える?
きみが考えてるより
ぼくはずっと…!

ユーリ!?
ぼくには なにも
いわなくて
いいんだよ
なにも
そんなふうに
……
ぼくのほう
こそ……
…ユーリ

いったいだれに
いえるだろう
だれがぼくを
許すだろう

キュ！
ザー
〝すき〟(リーベ)
ギュッ
ズン
ズズン
ズン

っ!
なにをしてるんだエーリク!

エーリク?
ガタ

切った? ちょっと見せてごらん
いいよ! 医務室にいく

そのままじゃ血こんで床がよごれる

シャワー室はながしたよ!

あとで掃除する!

ユリスモール
ユリスモール
おまえ
また
指のあいだから
すりぬけてゆく
失うものが
今度こそ
はっきりと
見えるだろう
今度こそ
あまり
きかんだろう
いたむか？
いや
らくだよ
へんなやつだな
ユーリ・シド
そのケガを
おして
息子でもない
ガキにあいに
いくたあ
……
……
遺言だ
マリエのね

聞くけどさ
きみ 今週まっとうに宿題やってるの
エーリク

ひとつもやってない

どうすんだよ
週末の外出許可もらえないぜ！
や
ユーリ

午後の化学実験の用具そろえるのにだれかきてくれないか

ヘルベルト？

ああ
オホン
わたくしめは用がー
彼氏このごろなにやってるか知ってる？
バイオリン習い始めたのバイオリン！
ぼくは七日でやめるとふんだ
ぼくは三日

手伝いがきみだってのはあまりありがたくないな
なんでさ
せんだっては薬用アルコールが半リットルもへってたけどどう使ったんだ？まさか飲んだんじゃないだろ？
さあね
エーリクきみやけにこのごろユーリとなるとそっぽむいてんじゃん
ユーリのどこが気にくわないのさ
ユーリがきらいなんじゃない
だんじてきらいなわけじゃないんだ——ただ
ワァ
ギョー
化学室——
—ユーリのいる化学室——
わっエーーリク

ガ
わうっ!
ガチャ
ユーリ!
目つぶれ!
どこの
どいつだっ
ボール
けとばし
たやつ!
もういいよ
ありがと
医務室に
いっとけよ
もういい
オスカーが
有無をいわさず
水につっこん
だって?
処置が
よかったな

ぼくじゃなく
みんなのほうがおどろいて
たいしたことはないっていったんですが
ああ
たいしたこたぁない
だがクスリをぬっておいたほうがよかろう
上着をとりなさい
ホッ
よかった
ほんとうにたいしたことなかったみた……
いろんな意味で忘れることが必要だし……ユリスモール
いろんな意味でまた自分をおしひろげることも必要だよ
—つめぁと——?

友人をつくること信頼を得ること
そら友人のひとりが心配して迎えにきてくれたよユリスモール
…………！
お世話かけました先生…！
なんの
友人をつくること信頼を得ること
ぼく悪気なかったんだ…よユーリ

…罪の意識のないものはいいね！
そうとも
いつもきみに悪気はないんだ
なんでそんなものの いいかたすんのさ！なにが気にくわないの！
ぼくはねいちおうあやまろうと――
…きみは知らないんだ―きみはなにも――
きみの世界はいつもあけっぴろげで光の中にあるから
きみが今――
…今見つけたあれはね―ぼくの翼のあとだよ―引きちぎられた翼のあとだよ
……ぼくにいったいなにをあやまる気だい…！いってしまってくれないか

お——
エーリク！
お——

よし！ その弓くれよ
エーリク
ボールを化学室に
けりいれたのは
きみだったな
そうだよ
しかも
方向ちがいに
では
右手
から

これ
どういう
意味？
泣くこた
ないだろうが
ただの
罰則だよ
ヘタすりゃ
化学室で
一大事が
起こってた
かも
しれない
んだぜ！
ほら
左手
ヒー
あいたた
いたた
あばれ
出した
とり
おさ
えろ！

お話はよくわかりましたマクス・ドッドー氏
あなたがおさがしの生徒はドアのまえに立ってます
教室でケンカしたので罰に一列に立たせてあります
エーリク・フリューリンク！
エーリクよんでるよ
エーリク
エ……
さわんなクソガキ！
エーリク？
だれ あなたなれなれしく
わたしはユーリ・シド・シュヴァルツ氏の友人で医師だ
彼をパリから車でつれてきた…彼は裏門にいる…彼はきみにあいたがってる……

外に出るのを
許可したおぼえは
ないぞ
わたしが
外へ出たいといったら
出るのさ ヘボ医者
車の中で話ができるか
……
あえて
うれしいよ…
マリエと
パリへ向かう
道中…ね
まだ
事故のおこる
まえ……
彼女はきみの
ことばかり
話してた
パリへ着いたら
手紙を
書こう
電話を
かけよう
みんなで
ボーデンの
湖畔へ
住もう
みんなで
住もう

すこし歩こう……
ガソリンのにおいは
好きじゃない
あの斜面がいい
…歩けるの
……?

歩けるよ
あの…足ないの?
かくしてるの?

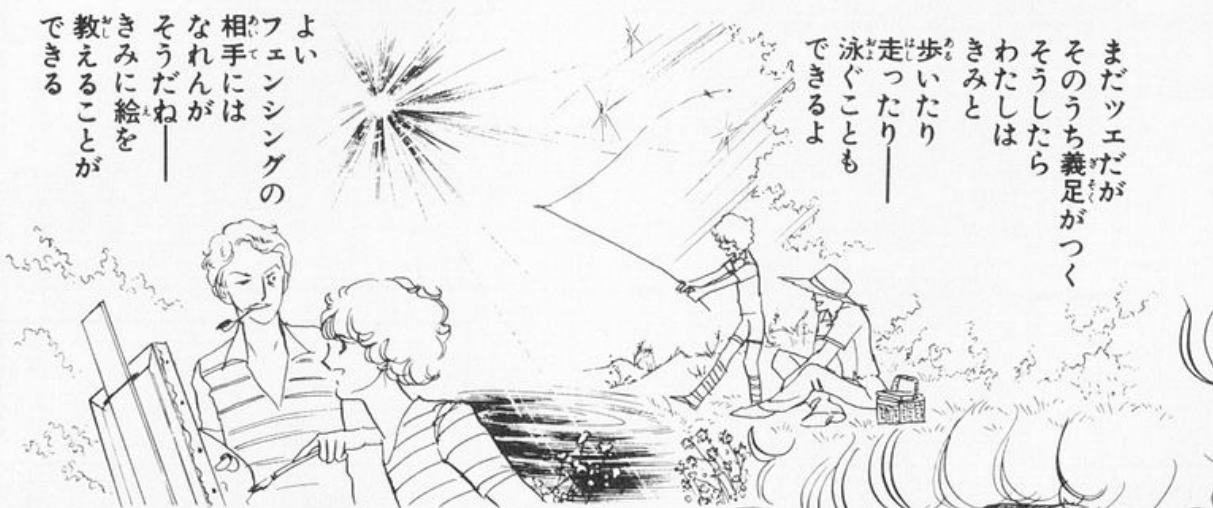
ないんだよ

パリで動けなくて
病院にいたらね
キンブルグ氏から
手紙がきた
弁護士ね
わたしは
それで
パリの
ドカチ頭の
医者どもは
退院を許さんかった
ので…ボーデンから
友人をよんで——
まあきたわけだ

弁護士がいうには
きみの父うえのブラ
ウン氏がきみを引き
取ると こころよく
承諾したと
—おまけに彼は

…ぼくを
引き取る?
あなたが?
そうだよ
いけないかね?

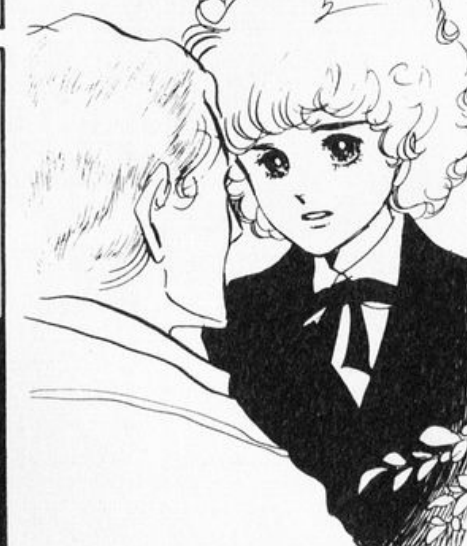
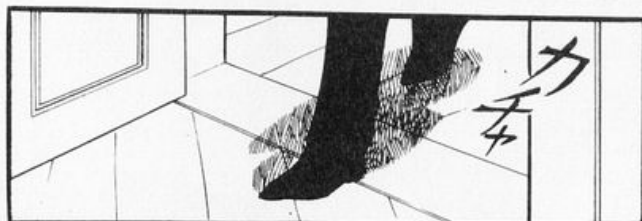
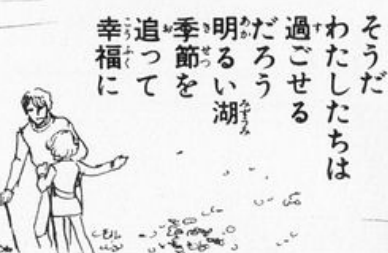
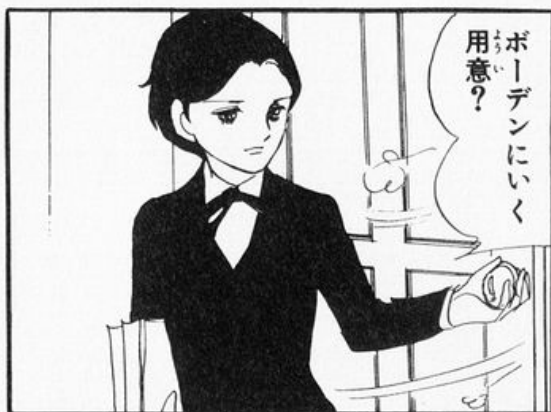
わたしが いくら
法律上 今 きみの
父親だろうと
裁判に持ちこんだ
ところでほとんど
勝ちめはないだろ
うというんだ
なんの勝ち
め?
なんの?
もちろんきみを
引き取ることに
ついてだよ

なぜ?
あなたが
愛してたのは
マリエで…
ぼくじゃ
ないでしょ
おお
わたしはたいそう
マリエを
愛していた
それから
きみも
たいそう
マリエを愛していた
だから
わたしたちは
いっしょに
暮らせないかね?
わたしたちは
生前の
マリエのことや
彼女が
すばらしかった
ことや ほかに
いろんなことを
語れないかね
まだツエだが
そのうち義足がつく
そうしたら
わたしは
きみと
歩いたり
走ったり――
泳ぐことも
できるよ
よい
フェンシングの
相手には
なれんが
そうだね――
きみに絵を
教えることが
できる
ぼくがいると
じゃまだよ
なんの?
じゃま?
マリエを
忘れるのに
あなた また
きっと
だれかを
好きになる
でしょ
あなた
人間だし
その時は
その時
浮気したら
きみに頭をさげて
許してもらうさ
ブラウン氏が
きみを引き取るという
わたしはいやだ
きみまで失うのは

わたしと
いっしょに
こないか？
わたしが
きらいかね？
……
ぼく学校に
…いてはいけない？
ぼく信頼を得たい
人間がひとりいるの
…ぼく
休暇までにわたしは
もっと歩く練習を
しておくよ……

よい子だろう
まったく！教育のしがいのありそうな悪ガキだ
…わたしにキスした！
キスぐらいするだろ
これまでは指一本ふれさせもしてくれなかったんだよ
たいした進歩だ！
そうだ わたしたちは過ごせるだろう 明るい湖 季節を追って 幸福に
だけど きみ——
そら エーリク お父さん ふたりいるって話 聞いてたろ？ 新しいほうが 迎えにきたんだって！
へーッ
彼いくの？
いくんじゃない？ さっき大ゲンカやったとこだしさ——
ありゃ集団生活に向いてないよ ル・ベベ
しっかしさあ
カチャ

ボーデンにいく
用意？

だれが？
少しまじめに
勉強する
ことに
したんだな

父親に
不満？
彼は
好きだよ
休みには
帰る
きみが
いるから
ここにいる
……
信じないって
いっても　もう
こわくない
ぼくはきみが
好きなんだ
だから
ここにいる

〝きみが好きだから
ここにいる〟

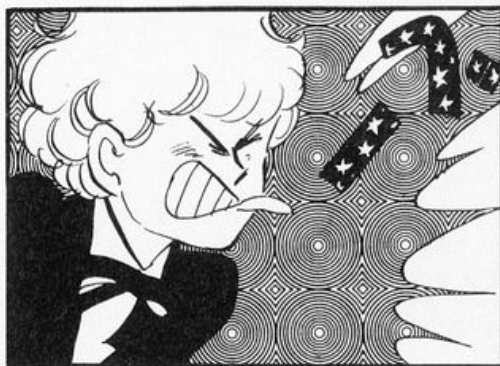
ユーリはなにも
いわなかった
表情も
かえなかった

だまって
懐中電灯をとると
点呼に出ていった
オスカーは――
ユーリが扉を開くまで
待つといった
ぼくも
待つべき
なんだろうか?

〝好き〟という感情に対して
ぼくは幼いころからなんの抵抗も
持たずにきた
ぼくはマリエが好きだったし
ほかにもいろいろなことがらを愛していた
愛するものは それがなんであっても同じだった
本でも 家でも 小鳥でも 歌でも
それらのすべては 根本でつながっていて
さびしさゆえに人は愛さずにいられないと
いう気持ちは
ごく自然なものだったのだ…が—
そんな簡単なことが
なぜユーリにはできない

知ってる? あのかわいい エーリクが 義父のもうしいれに 応ぜず 学校に 残んのは
ユーリが 好きだ から だとさ
へえ 委員長の ほうは?
いやまだ エーリクの 片思いらしい ぜ
落ちるかな どうかな
や エーリク きみの 委員長さんは どこだい?
まえ 似たような ケースが あったな
そ トーマ・ヴェルナー
しかし彼は アカンベなぞ しなかったぞ!
おお! 姫!
姫ぎみ!
姫ぎみの お出まし

エーリク
こっち
こっち！
きみの席は
ここだよ！
王子さまの
となり！
てめーっ
このーっ
わーっ
エーリク
エーリク
ぼくたちは
心から末永くの
幸福を
祈ってる
よ
ところで
もう キスぐらい
した？
静かに！
ユーリ！
ユーリ
よう委員長
エーリクがさ
あはっ
はははあ
席について
ヘルベルト
……
レポート紙を
くばる
十五分の
筆記テスト

待てよ エーリク 恋する乙女
ドタドタ
うるせえな バーロオ
忠告ぐらい きけよ！
よっぽど綿密に せまんないと 落ちないぞ
そうそ 相手が 相手だから
で きみ 心がわり したの いつ？
いやよ いやよも 好きのうち
ケンカばかり してたのにさ
ドドドド
──話が あるんだけど エーリク
！
あなた どういう つもり？
どう…

ぼくはただ ミサの時 リーベに ユーリが好きだから 学校に残るって ひとことといった だけだよ
あっというまに広がって こんなめにあうなんて 思わなかったもの!
だめだよ あなた いくら ユーリを 好きだって……!
…でもぼくは 本気だし べつに悪いこと
これじゃ まえと同じだよ トーマの時と
トーマは 死んじゃったのに
しかも なぜかってことを ユーリは 知ってるのに
そっくりなあなたを 好きになると思う?
あなた 同じ さわぎ 起こしてるんだよ

ぼく似てる？
…彼に…？

うん

でもぼくはトーマのことまるっきり知らないんだぜ！顔だって知らないんだぜ！

写真持ってる…見る？小さいけど

前列の二番めだよわかるだろ

これじゃわかんない！小さすぎる

エーリク！
ぼくはトーマ・ヴェルナーじゃないもの
ぼくはトーマのことなんか知らない

ル・ベベが
ユリスモールに
クビったけだって
？
頭にくるな
トーマの時も
そうだったが
なぜあの
黒い髪ばかり
もてるんだ
まあま上級生は
愛をもって下級生を
指導しなきゃならん

聞くと
エーリクの
片思い
らしい
じゃないか
そこで
こんなのは
どうだろう
ふたりを
お茶会によんで
はちあわせる
ほほ！
おもしろいね
しかし ユーリは
こんだろう
彼は お茶会
なんざ
かわいい子の
観賞会だと
思ってるから
その通り
だろ
おだまり
シャール

お茶会に
こいって
いうから
こないんだ
べつの用事で
よびつける
どんな？

かけるか？
のった
百ペニヒ
百五十
オレは
二百！
ヒマダネー

エヘン

失礼
このリストを
予約しといたんだけど
昨日つごうで
これなくてね

風俗史 服飾史
建築史 音楽史
地理民族大系全巻
…劇でも
やるんですか?
全部そろえては
ありますけど

ドサッ

いや 悪いね!
ぼくらの組の
課題でね
すぐそこだから
悪いね!
どういたしまして

いっとく
けどね!
ぼく
からかわれる
ため
きたんじゃ
ないから!
トーマの
写真
見せて
くれるっていうから
……
悪かったなあ
見つかんなくて
写真 今度
さがしとくよ
そんな
おこんなよ!
いい顔が
くずれる
エーリク・
フリューリンク

まあ
おすわり
お茶
どうぞ
本日は
巻き毛も
いちだんと
うるわしく
ぼくは
聞きたい
ユーリより
ぼくのほうが
ハンサムなのに
なぜ きみは
どこ見て
ハンサム
だって!?

ワッ
彼は
けっこう
デリケート
なんだぜ
アソ

お
ヘニング！
ここだよ！

おや！みんな
ヤコブ館の
二階はしの
部屋にいる
ようだ
悪いけど
あの部屋
まで——

悪いけど
ぼくは
図書室に
もどります
ユ…

きみ！ 待てよ
そりゃないだろ
せっかく
ここまで
こぎつけ
たのに！
待てよ！
なに
もたつい
てるんだ
ぼくの
かわりに
彼が
はこんで
くれますよ

おお ユーリ
ユリスモール委員長
こちらの計画では
ぜひきみにきて
もらわないと
困るんだ
ちょっとで
いいんだよ
ちょいと
顔出して
くれれば

なに？
下でなにか
さわいでる
おっと きみは
すわってりゃ
いいの

百ペニヒかかってる実力行使！
ぼくになんの用があるんです！
ユーリの声だ！
エーリク！二百ペニヒ！お茶もういっぱい
ユリスモ…

いいとこぼくら連中にひっかけられたんだかけしてたらしいの
茶番劇だね!
きみとぼくをめぐってみんながさわいで
おんなじだ
ユーリがきみを好きになるはずない
トーマと同じことやってんだよ
違う……
違わない
違う!知ってるくせに
知ってるくせに!知って——
ぼくトーマより分があるよ!

キスして……！
でないと バラすよ
ひきちぎられた
羽のあと……！
…ごめん
ぼく―は

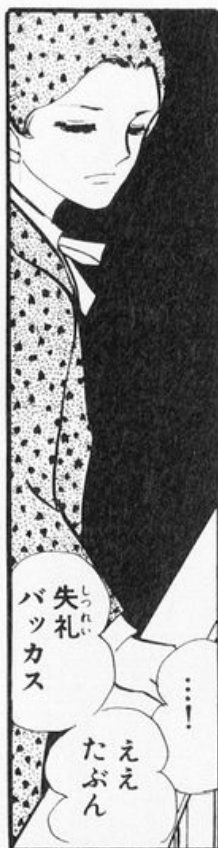
ガッ
ユ……
—マリエ—
—キスがにがいなんて
バン
!
四月×日
放校
ガスト 以上四名
サイフリート・
……
フム

じたい――
悪くなるいっぽう
なにを考えて
いるのだろう
あの勤勉な委員長は

ライオネル・マリア・リルケの手紙によるこの章のテーマは?
コッ
あんエーリク?
ギクッ!
チロ
さ…ぼくわかりません
ドダダダ
テーマは?委員長!
"自我にめざめよ"
しかり!簡潔だわかったかねしょくん?
この章のテーマは…わかったかねエーリク!?
チロ
ドキン
あ…聞いてませんでした
どうしたんだ?
ふられたんだよ
ほー
ふむ

エーリク・フリューリンク待ちんさい きみは悪いもんでも食べたかね?
え? ブッシュ先生 いえ べつに
そうか わしはね しょっちゅう どなっとるがね きみを めのかたきに しとるわけじゃ ないよ…むしろ ユニークな生徒だと 感心しとるぐらいだ!
たまに 静かすぎると キモチ悪い
ちぇっ まとはずれだよ ブッシュ先生
気ィ落とすなよ なあ エーリク
そうそ ユーリに ふられたぐらいで
ふられた? ぼくが?
ウン まあ おかたいからなあ ユーリは ……
なんせ 優等生だかんな
トーマの時だって
そうだ トーマの時だって 落ちなかったんだ
ふっちゃって おしい ことして
ぼくは トーマ・ヴェルナーじゃないよ!
ぼくは トーマじゃ ない!
ぼくは ぼく自身として ユーリが 好きなんだ ──それに

それに ぼくはまだ ふられちゃ いないよ!
ぼくはまだ ユーリが 好きなんだ からね!
それまで ル・ベベ
どなるん じゃないよ 聞いてる ほうが はずかしい だろ
ぼくはまだ ユーリが 好きなんだ からね!
まだユーリが 好きなんだ からね!
ふ
しあわせな彼――
しあわせな彼!

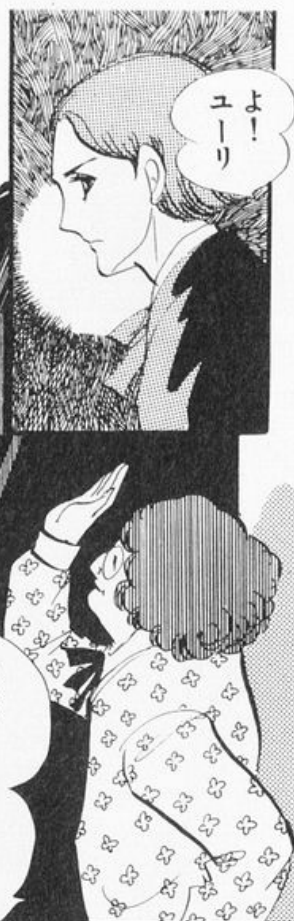
よ！ユーリ
ああ きみに いいたいことが あったんだ ――せんだっては ついついね！ 悪かったよ

お茶会…？ 二度とああいうことは ごめんですね あなたに あやまって もらおうとは 思わないけど バッカス

きみには 冗談が 通じないいんだな

…！
ええ たぶん
失礼 バッカス

……

失礼 バッカス …か！
おかたいよ たしかにな
フム

お茶会…

…サイフリート…

こんな日びにトーマ・ヴェルナーはどうしていた
ユーリとすれちがうこんな日びに
ちがう──
ぼくはトーマじゃない
顔が似てたって
同じようにユーリに恋したって──
ぼくは
やはり似てるのか？ぼくたちは
トーマじゃない…ユーリ
ユーリ
ぼくはトーマより分がある
──ひどいことをいった
キスしてでないとバラすよ
ひきちぎられた翼のあと……！
あれなぜついたんだろうなにかの事故だろうか
トーマはユーリのキズあとのこと知ってたんだろうか？
なぜそうもユーリはあれをかくしたがる？

わっ!!

バタン!

ねむるのはかまわないがそれはぼくのベッドだ
自分のでねてくれないか
……

……
あ…ごめん…考えごとしてるうちいつのまにかうたたね…
しちゃって…

夢を見たよ
ユリスモール
——きみのキズ——もう
ずっと昔の？
トーマはそのこと知ってた？
だからきみは彼を——
殺したの？

意味がわかんないね
いってることの
ねぼけてるんじゃないか？

じゃ なぜ 彼
自殺なんてしたの!?

自殺…？
かってに死んだんだ——
きみがそうさせたんだ
信じなかったから！

ぼくが——

トーマ・ヴェルナーを
殺したっていうわけ
？

なぜこう話がなるのかなまた ぼくユーリを追いつめてる
そうだよ
きみはトーマが好きだったんだ……そうじゃない?
バカバカしい…違うね!
違うなら忘れられるはずだよなぜ忘れないの
思い出させるのはきみだ
好きだったんだよ!
—違う!
だからなぜトーマを殺したのかって
トーマを好きだったのになぜ!?
しりめつれつだきみは!
エーリク!
うそつきなぜさ!そのキズのせい?そらかくす
見せろよ!それなぜついたのなんのキズ
だれが翼もいだの
ユーリ!
きみ!
…!

キスしてほしいんなら
そういったら?
そうだよ
きみの
持ってるのは
ジョーカーだよ
きみの
持ってるのは
ジョーカーだ
いくらでも
見せるが
いい
いくら
でも!
出て
け……!
きみが
出てったら!

もしぼくが死んだら
ユーリに殺されたんだよ

なんで？
トーマは
だまって
いっちゃっ
たけど――

ぼくは
わめいて
いっさい
ぶちまけて
死んでやる
からね！
その時は！

きみらしい
死にかただね
エーリク

…ユーリと
うまくいかな
いんだ…どうして
こうなってしまう
のかな…
そもそもは
…ぼくが
…彼に
ひどいこと
いったの
彼の翼の
ことで……

そいつは
初耳だ！
彼は
宇宙人
だったの？
なにか
見た？

彼なにか
いった？
ううん…
…よせよ

オスカー……！
きみ…知ってるの…？
でもユーリは知らないよ
ぼくが知っているってことは
キズのこと？
同じ部屋にいたからね
わからない
わからない……
ユーリの考えてること
彼なぜケガしたんだろう
………
知りたい？
オスカー
いっしょの部屋にいたからね
知りたい？
…知り
知りたい？
知りたくない！
知りたくない！
知りたい
エーリク？
だめだ
だめだ
いわないで！

…ぼくまた
ユーリを
苦しめる
ぼく だめだ
考えなし
だから
勝ち札
ぜんぶ
見せて
しまう！
ユーリを
追いつめて
しまうよ
いわないで！
そう…ハハ
そう！
ごめんよ
ル・ベベ！
からかったんだ！
ごめんよ！
…や
きみは
すてきだ
すてき
ル・ベベ！
だれ？
…生徒の
父兄だよ

エーリク・フリューリンク!
ブッシュ先生がよんでるよ!
ん

さっきのヒゲヅラ
おきたね彼です

なんだろここんとこまじめにレポートは書いてるけど……
あ!?

初めましてエーリク・フリューリンク
かねがねあなたのことはブッシュ先生からうかがっていて一度あいたいと思っていた
もうしおくれたがわたしはベルンハルト・ヴェルナー
トーマ・ヴェルナーの父です
よければ
つぎの土曜日にあなたをわが家へご招待したい

どうして?
招待されたなんていってきじゃないかいっておいでよ!
あんまり気がすすまない……
なんで急に?
ぼくになんの用がある?
さあね
でもおもしろいかもしれないよ
きみが この学校にきた時トーマはもういなかったし
きみは知らない子と自分とを重ねられて奇妙な感じはしなかった?
——うんほんとに!
だからいってみたらトーマは実在したんだその片鱗でも見れるかもしれないよ
ジュー

ぼく
土曜にトーマんちにいくんだ
そうだってね
彼んちいったことある?
いや
父親にあったことある?ヒゲヅラの
いや
母親…には?
いや
兄さんたちがいるんだって?
――という話だ
ぼくトーマ・ヴェルナーんちにいくんだよ
トーマ・ヴェルナーのかわりに
ブッシュ先生がもらした話ではヴェルナー家はきみの親せきだそうだよ
だからきっと養子の話だろう
ぼくそんなこと知らない!
きみはひとりだし
むこうは息子を失ってる
…しかもきみにそっくりな
……
ザワ
ザワ
ザワ

帽子をかぶりたまえ
帽子を！今日はちと風がつめたいぞ！
ブルルル
ブルルル
ガ ガ ガ
よしかかった！
バババ
ダダダダダ
ヴェルナー氏について少しは知っとるかね？
彼は昔シュロッターベッツで数学を教えとった……かつ牧師の免状も持っとるはずだ！
ダダダ
十年ほどまえ肺を悪くして職を退いたが
わしは時どきあの家へお茶を飲みにいく
いいやつだ！奥さんは美人だ！
ブッシュ先生の奥さんは？
天国にいる…ふむ
息子と孫どもがドイツ中散っとる……ガキどもめ
きみなどわしの孫の年だよ孫の年！
キュキュキュ
そら！そこだ！あの家だ！
ギギギ
ギギュ

パ
ガタ
さて わしゃ学校にもどって山ほどのレポートに目を通さにゃならんおりて!
……お…お
青い目のお母さん――
青い目の兄さん
トーマもこんなきれいな青い目をしていたのかしら
よくきてくれたたいそううれしいよエーリク
わたしの妻と長男だ
さあこちらへ
ギク!

あれ？トーマ…
そっくりだよ
ちょっとしたセンセーションまきおこすぜ
お茶会にいつもよばれてた
トーマ・ヴェルナー……
ぼくは彼のことを思い出したくない
きみは彼そのものさ！
あなたはいつシュロッターベッツへいらしたの？
四月…です！四月の…おわり
あなたが――ロジェ・ブラウンの息子だってことに――彼は――もう長いことあってないけどわたしのいとこにあたる人なのよ……
あなたは…だから……
…あなたはトーマにそっくり…その目が青ければいっそう…
おかしなものねわたしたちは少しも知らなかったわ
いえあなたのことを聞いてはいたけど
だからわたしたちの血はつながってるわけです――まったくおどろいてしまったが

キンブルグ氏がそう知らせてくださったのです あなたの引き取りてをさがすさいに
ブラウン氏がだめだった場合を考えて八方に手をまわしたわけです
それでもちろんあなたさえよければ―だが―わたしたちと――
……
どうして…?
つまり……
まあ 話が急だわ…そうせかせては気が転倒してしまうわね エーリク……
きみはいくつ?
…高等の一年……
トーマよりひとつ上か…十四にしてはすこし背が小さいね
あのエーリク
二階にあの子のトーマの部屋があるのよ
小さな部屋だけど…
…なにもかもそのままにしてあるのなにも手をつけてないのよ
―見てみない?
なぜ?

あの……
——ぼくが
ぼくがその部屋にはいったって
ぼくがトーマになるわけじゃないでしょ
ぼく——シドんちいくんですシドは——ぼくがトーマに似てるからじゃなくて
ふたりともマリエを愛してたから……いっしょに住もうって
いってくれたんです
……
シド・シュヴァルツ氏だね——いくのかね?
ええもう決めたんです——
お母さん!
…トーマはどこにもいないわ
ええあなたはトーマじゃないわ…!トーマじゃないわ!

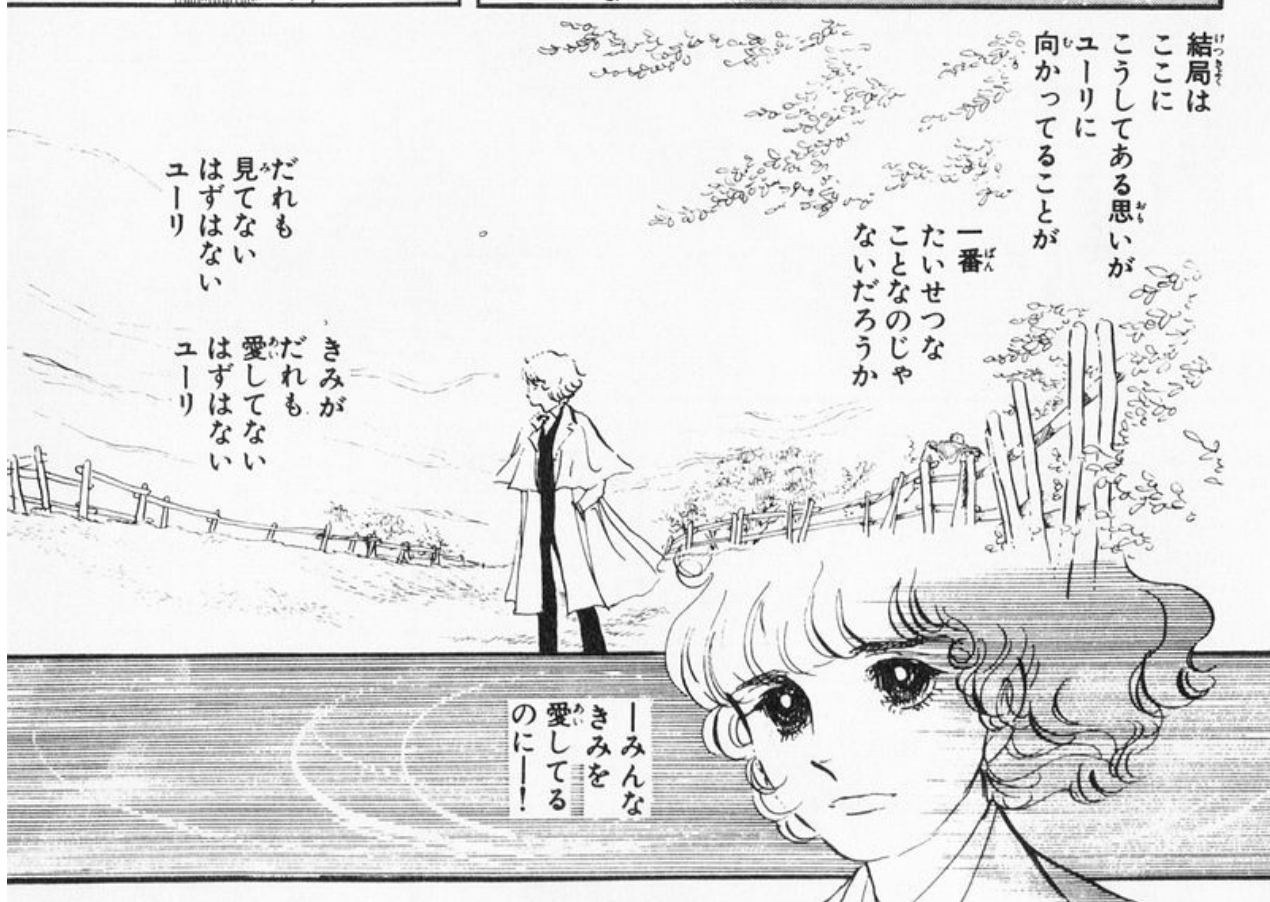
…ぼく帰ります
送ろう
…ま
待って
待って…ごめんなさい…ごめんなさいね…泣いたりして…気を…悪くしないで
よければどうぞまたいつでもいらしてね
もうきません
…ええ…ええそうね
…元気で
元気で
トーマ・ヴェルナーの家
でもぼくの家じゃない
トーマ・ヴェルナーの家族
でもぼくの家族じゃない
…すまなかったね
…わたしは

親のわしからいうのもなんだが 彼はすなおな子だった 兄たちともだれともケンカひとつせずに育ったよ

……ぼくはマリエとよくケンカしてた

――彼がほんとうはなにを考えて日びをすごしていたのか残されたわたしたちに知るすべはないがそれでもこんな会話を思い出す
それはずっとずっと昔で
彼の背がわたしの肩より低かったころだ
どうしてお父さん神さまは
そんなさびしいものに人間をおつくりになったの? ひとりでは生きていけないように
彼は日曜学校からなにかを聞いてきていたのだろう
それは人間が永遠であるしるしだよ
―宇宙はめぐる
この花も実を落とす
ごらん! 永遠なるものをそこに神がみは住まいたもう
わたしたちもいつかは同化し一体となり
いつかはあの高みへと飛ぶだろう

…さようなら しばしでも なつかしかったよ
祝福を…… きみの未来に
人はさびしさゆえに
愛を知らねば生きていけない
そしていつまでもいつまでも
ひとりぼっちで思いをかみしめる
トーマ・ヴェルナー ぼくときみはやはり似てたんだよ
きみが考えていたことがわかる
―きみの部屋見ればよかった
きみはぼくと同じようにいつまでもさびしかったのだろう
だからいつもなにかをさがしていた
…ユリスモール

ほんとうに
どうしてきみでなければ
ならないのか
ぼくには
わからないんだ
ぼくのさがしているものの
なにが きみと重なるのか
わからないんだ
でもきみとなら
ずっと遠くまで
手をとって
歩いていけそうな
気がする——
源へ——
ぼくが
トーマでも
エーリクでも
ぼくの
顔かたちが
どんなでも
なんの
かわりも
ないんじゃ
ないだろうか
結局は
ここに
こうしてある思いが
ユーリに
向かってることが
一番
たいせつな
ことなのじゃ
ないだろうか
だれも
見てない
はずはない
ユーリ
きみが
だれも
愛してない
はずはない
ユーリ
—みんな
きみを
愛してる
のに——!

キ
やあ
バッカス
夕食まではね！
天気がいいので
みな町へ出たよ
ル・ベベは
ヴェルナーさんち
知ってる
……
ユーリは？
委員長は
図書室ね
本のムシ
よう！
ここかいオスカー
ちっとばかし
聞きたいことが
あんだけどな
ここは　だれも
こないかい？
なんだい
それは
こいつか
サイフリート・
ガストの
去年の
レポートだよ
〝ルネッサンスと
ヒューマニズム〟
のね！
オレは本は
読んでないが
レポートは
おもしろい
彼が
いうには
宗教が世界を
支配するまえに
そいつを
たたきつぶす
べきだった
とさ！
真の
人間性や
人間らしさと
いうものは
元来　悪魔的なもので
だれものがれることは
できないというのさ
宗教のいう
もろもろの悪は
むしろ善である
とまどわず
行動せよ…！
ぼくはやつァ
好きじゃないね！
やつの講釈なぞ
聞きたかァないね
…サイフリート含めて
四人のワルが
放校になったのと
異例にも
おまえとユーリが
舎監になったのは
同じころだったな？

バッカス！
去年の三月
イースターの休日あけてすぐ
いっちまうがオレはあん時……オスカー…おまえがサイフリートたちと組んでなにかやらかしたと思ったんだよ
だが校長めとコネがあったもんで放校はまぬがれ
かわりにユーリがああやっておまえの見張りにたったんだろうとね
あんたなにがいいたい？
……
しゃ…
ユーリの首の下ヤケドのあとがあるってな
彼はお茶会にこないが
ヤコブの二階はしのあの部屋は以前は
サイフリートたちのたまり場だったんだよな
去年のイースターの休日に……
学校に残ってたのはユーリと…
バッカス！

…見張られていたのはユーリのほうか？
あんたがそんなことをいうとは思わなかったよバッカス！
——あんたらしくもない！
オレらしいさ
この上なくオレらしいよ
オレが心配してんのはね
おまえのことだよオスカーまったく
ユーリのこととなるとおまえバカみたいにムキになるんだな

ユリスモールへ
先日
エリザベートの
お医者さまがいらして
また精密検査を
うけるようにとのこと
でも心配はないよう
以前ほど熱も出さないし
あの子はいつも
おまえからの手紙を
喜んでます
少し
やさしい文で
かいてくださいな
あの子は
読みたがってます
この
白いハトは
あたしよ
こちらの
天使は
ユーリよ
ふっ
エーリクは
ヴェルナー氏の
家へいった
いつまで
こんなことが
つづくの
だろう——
もう
だれでも
いい

もうだれでもいい
シュヴァルツでも
ヴェルナーでも
だれか早く彼を
つれていって
くれれば
いい
ぼくの目のまえから
去らして
くれればいい
きみが
好きだから
好きだから
そんなことばを
聞いていたくない
好き
だから
つらい……
……
ユーリは
へんだよ
…下級生の
一部が
トーマは
自殺
したんだって
うわさして
たよ
オレは
そんなこと
信じちゃ
いないがな
すう？
いらん
でも
ユーリは
へんだよ
やつァねえ……

そらエーリクはユーリに好きだって公言したろ?
部屋もいっしょだし
ちっとは仲よくなってよさそうなもんだ
エーリクはねえありゃいい子だよ……はなからオレがいってる通りいい子だよ!
ふっちまうなんざげせんね!
そりゃオレはなにもできんかもしれんよ
だがまあ なんか役に立つァなあ
——バッカス
……
あんたも ぼくもユーリのためにはたいして役には立たないよ
首のキズはサイフリートかい?
——ん
たいしたことは知らないぼくもね
なにもじっさい見たわけでもない……

去年の春
二週間のイースターの休日あけ早朝
生徒たちは一番列車で学校に帰ってきた
そのころ四学年だったぼくらは
おっはよう!
いまちょうどアンテたちがいる舎監室のま上の六人部屋にいたんだ
おはよ!
お おはよ オスカー
よー
どうだった休日
おーさいこうさ! ヒッチハイクしたんだぜ! おはよ ユーリ!
おはよう
でも女の車なんて止めるもんじゃないね!

どうしたんだ？
ヤケに静かじゃん
…え？
…ああ
ユーリは頭がいたいんだってさ
カゼだよ

バッカーッ！
休日にひとりで学校に残ってっからカゼなぞひくんだよ
ミサの鐘だ！

ぼくはユーリが学校に残ったわけを知っていた
彼の妹が熱を出して入院したので家にはだれもいないのだそうだった
こんどユーリ
ヒッチハイク
いっしょにいこうぜ！
いいぜえ！
そうだね
なんだよ！
気のない返事！

ユー……

わ
ユーリ
ユーリ

なんだ?きみ? ユーリ?きみ?
…足をすべらせたんです
オスカーがつきとばしたんだ

なんだと! 軽くかたをたたいただけ
こいつはだめだ ひとまずわたしの部屋に

散った! 散った! ミサだろ
じゃまだよ てめえら

ああきみ! ユーリを見ててくれるかね わたしもミサでね
軽い脳震とうだと思うが…すぐ先生をよこすから

…!

ユーリ!
……
…う…

——どうしよう!
熱はあるのかな?
カゼひいたって
いってたし
服をぬがせたほうが
いいのかな?

ボタンをはずせば
いいんだ
呼吸が
らくになる……

…

……
ゆうに
たばこの温度は
六百度はある
灰の癒着した
なまなましい……

ぼくの腕にも
一か所ある……
うっかりして
火の上に
手をおいて
しまったのだ
軽いやつ
でもこれは
これはまるで……
血？
うっ…
ジャーーッ
カチャ
病人は
ここかね？
そうです
じゃ
ぼくは

ドカ

リンチだ

しかも
昨晩か今朝

ユーリが?
そんな なぜ

——だれに?

はい
その三日後
まったく急に
サイフリート以下四名が
素行不良という名目で
退学になった
あ〜あ
悪いこと
ばっか
してっから
酒
タバコ
バクチ
そう
連中に
違いない
イースターに
学校に
残ってた
へんな
レポートは
だすし
化学室の
ぼやも
連中だ
彼らは
ユーリを
つかまえて……
つかま
えて…
病人は
入院なんぞ
しなかっ
たが……
ユーリの
はこびこまれた
ホーマン先生の部屋は
そのまま彼の
部屋になった
し…しかた
ありませんね
病人だし
でも
わたしの
舎監の
しごとは
いっそ
ユーリに
やらせ
たら？
先生がユーリに
個室が必要だと
主張したので
ユーリは
心臓が
悪いん
だって？
違うよ
低血圧だ
ひとりで
あの部屋に？
ぼくもさ
ぼくも
舎監を
やるんでね
まあ彼は
校長の知りあいだし
ひとつ年上だしね……
ブックサ……
四日後には
ユーリは
教壇に立った
そしてみんな
彼が病気
だったことなぞ
忘れた

なにごとも
なかったのだよ
やがて
草木は芽ぶいて
春が 夏がきて
なにごとも
なかったのだ
ただユーリ
だけは
ユーリだけは……
キズあとを
残したんだ
心にも
からだにも
できみは?
ぼく?
ぼくになにが
できる?
ユーリ
ユーリは どこに
いるかな?
図書室?
自習室?
エーリク
どうした
だろうか
ヴェルナー氏の
家へいって
ユーリに
あったら
いわなきゃ

ぼくはもう
きみになにも
きかない
トーマに
やきもちも
やかない
信じて
くれるまで
好きだって
くり返す

ぼくに…なにが
できる？
日びに
ユーリを見ながらもう
肩をつかまえて
いいたかったよ
ひとこと
だけ！
ユーリ！
サイフリートの
ことなんか
忘れろ！
サイフリートの
ことなんか
忘れて
しまえって！
でも
いったい
？
わっ
エーリク！

?
?
ガタン！
話…
聞いてた!?

話？
なんの？
ユーリに
サイフリート
のことなんか
忘れて
しまえって……
…？
サイフリート
って
だれ？

ユーリ！
……ユーリ！……！
きみは知っていたんだ
——さわるな！

知ってた!

知ってた
サイフリートのことなんか忘れろ
オスカー
知ってた…!

ユー…!
…ユーリになにいったの!
う

なにいったんだ？
サイフリートって
なに　だれ？
…！
なんで彼逃げたんだ？

エーリク！

ああ…！

あ…！
ユーリ
こんなはずじゃ
——
こんなふうに
きみを
追いつめる
つもりじゃ
カー
カー

カー

ユーリ
いない

——ユーリ
どこへ——

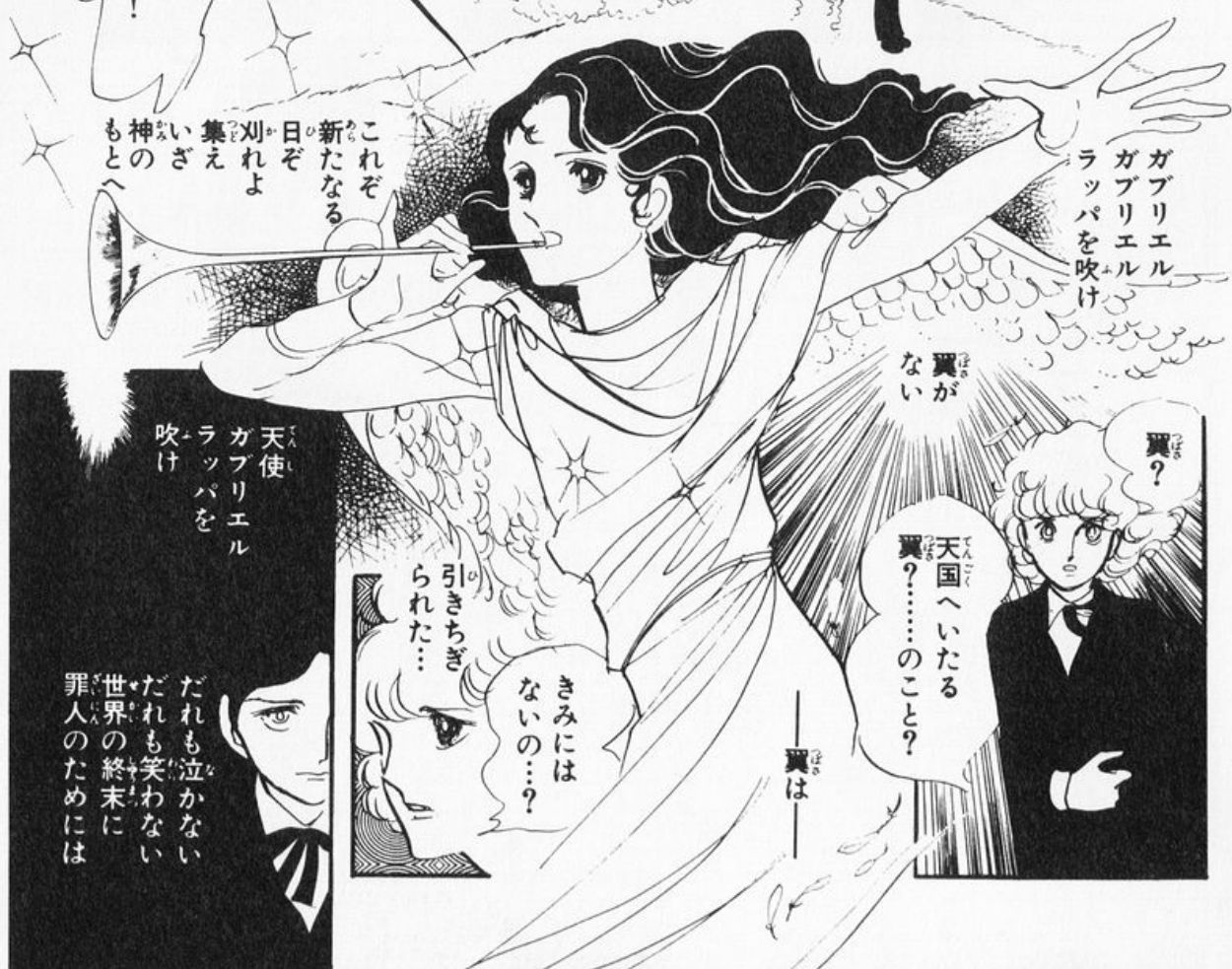
ユリスモール……
……ル…
…どう…したの

…………
…前に自分で首をしめて死のうとしたことがある…
その時は…失敗したけど…こ…んどは…
……
あ
あ
……あ……!
……あ

……ぼく…今日トーマの家へいってきた
写真を見たよ 雪の中で笑ってるトーマ ぼくに似てた
それでぼくわかったんだけど
トーマ…ほんとに…きみを愛してた……
いって…！
ユーリ！
ユーリ
…オスカーが知ってる
彼に聞けばいい…！彼が知ってる…！
彼になにを聞くことがあるの？
きみが好きだよ どうして
それだけじゃだめなんだ？

ぼくが…好き？
好きだよ それはもう ずっときみが 知ってる ことだ なぜ 信じないの？
なにが あっても…？
なにが あっても
ぼくが…悪魔でも？
ユーリ
ぼくが 人殺しでも？ うらぎり ものでも？
……うん
ぼくが このキズの… このキズの ついた わけを いっ…て…も …？
きみが それを 知っても…？

…ん
どうしたらいい？
ぶんなぐるんだな！
ポキリ
五　六発ぶんなぐるんだよ！
ああいうてあいはな
…顔がかわっちまう……
よいよい少しぐらいそれでユーリの根性がなおりゃ
顔がかわんのはこっちだよ……やつァけっこう強いんだ……
知ったらだれもぼくを許しやしない
ユーリ
トーマだって…ぼくがどんな人間か知ってたら…好きだなんていわなかったろう
そんなことはない！彼はきみが好きだったよ
彼はきみがなんであってもほんとうに好きだったよ
それぐらい知ってる…！
彼が…ぼくを愛してたこと茶番劇が茶番劇でなかったこと
なぜわからないの彼は——
彼がいつも木立の下にいたことも知ってる！

ああ トーマは ぼくを 愛してた でも ぼくになにが できる?
なぜ
知ってて
なぜ 信じないなんて いった――なぜユーリ トーマに きみなんか知らないって いった――
ぼくに どうしろって ……!
ぼくには 翼がない!
ガブリエル ガブリエル ラッパを吹け
これぞ 新たなる 日ぞ 刈れよ 集え いざ 神の もとへ
翼が ない
翼?
天国へ いたる 翼?……のこと?
――翼は――
きみには ないの…?
引きちぎ られた…
天使 ガブリエル ラッパを 吹け
だれも泣かない だれも笑わない 世界の終末に 罪人のためには

…………
ぼくの翼じゃ
だめ？
もしぼくに
翼があるんなら
ぼくの翼じゃ
だめ？
ぼく
片羽
きみに
あげる
………
両羽だっていい
きみにあげる
ぼくはいらない
そうして
翼さえ
あったら
きみは……

きみはトーマと…
トーマのところへ…
エーリク！

〝ユリスモール
ユリスモール〟
〝ユリスモール
これがぼくの愛〟
春
最後の雪の日に
飛び降りた
トーマ
たったそれだけの
ことばをぼくに
残して──それ
それの意味……
今……
わかった
エーリク!
〝これがぼくの心臓の音〟
〝きみには
わかってる──
わかってる
わかってるはず〟
きみは──
きみは──
トーマ・ヴェルナー　きみは──

ユリスモール
ユリスモール
少しでもぼくを好き？
ユリスモール
それではきみは──
だれも愛していないの
違う……
でもそれで生きていけるの？
違う！
違う！
これからもずっと…？
ユリスモール
ユリスモール
…ずっと愛していたんだ
ずっと愛していたトーマ……

翼…あげる
ぼくはいらない

ユーリは
ぼくのうしろに
ずっと
トーマを
見ていた
転入してきた
最初の
時から——
日びの夢
風の楽音
わずかな
気配にも
彼は
見つけていた
金色の髪の
水色の目の
アムール……
火は
あついだろうか?
あついだろうか?
どれくらい?

目つぶす気かい……
キュー!
わっ
オスカー
校長先生が…

ガチャ!
校長は奥の部屋だ はいっちゃいかん 今意識がない

意識? いったいなんです? どうしたんです?

ここだよ さきほど いきなり たおれた
たおれた…… なんで?

……心筋梗塞…… 初めての発作にしちゃおおきい
たぶん
かくしてたんだろう さきほどまでずっと きみの名を口ばしっていた
……!

…今朝は…ミサの時は…ちゃんと元気で…
さきほどまでわたしと話していたきみのことで
ぼく?
相談をうけていたミュラー校長がきみを養子にするかいなかって問題でね

もっともわたしは不賛成だといったんだ
たくさんの生徒のなかでどうしてミュラー校長がきみだけをとくべつに
た…
助かるんでしょ?
校長がたおれたって!?

わたしのよんだ人間以外の立ちいりを禁じます!絶対安静の必要がある!
どうします?
どうって夕食の時生徒に今夜はいたって静かにするよう指示せねば

さっき赤十字にたのんだ医師と看護婦がくるそうだ
今夜わたしは病人のそばについてるきみがそこにいたいならいてもいい
ただし静かに

オスカー…
先生はなんていった？
え？
ここだ…っていったね？この意味きみ知ってる？
知ってるんだね？
まえきみが神経症で病院に通ってたころ
いろいろほかの心臓病できかなかった？
…知ら…
こういった場合
彼は助かるの？
知らない！
…知らない！
きみが泣くこたない

いつも いつも
生徒たちの
背にぼくは
虹色に淡い
天使の羽を
見ていた
ユリス
モール！
……
病気？
ユーリ聞いた!?
校長先生
病気だってさ！
赤十字の車
見たかい!?

よっ
エーリク
赤十字の車
見た？
見た
ユーリ
は？
スープ
くばってるよ
当番だから
きみ今日
さわいじゃ
いけないぜ
オスカーが
校長室で
つきっきり
なんだってさ
ユーリ
——だから
きみいって
オスカーのそばに
いってやって……！
ぼくがやる

ぼくが？
きみが！
天国の狭き門よりくぐりいることのできる翼を
ぼくだけが持たなかった
ぼくだけが彼らのなかのユダだった
それでもぼくを愛していた トーマ？
死をもってひきかえとするほどにトーマ？

それでも　ぼくを愛していたトーマ？
ーぼくじゃだめなんだ
ぼくの手じゃ小さすぎて…
それでも――トーマ――？
オスカーはきみに今一番そばにいてほしいんだ
だからきみオスカーのそばにいなけりゃいけない
オスカーはほんとにきみが好きなんだから……
エーリク本気!?
へーっ！きみ恋人を恋がたきに売んの？
オスカーにゆずんの？
いいんかいいね！
いつ気がかわった？
は……
もてんなぁ委員長！
はったおすぞ！校長先生は…！
オスカーのお父さんみたいなものなんだから！
そのお父さんが病気で…

赤十字の
車がきて
カンフル
うって
死ぬかも
しれない
って時
エーリク
エーリク
しゃくし！
心ぼそいの
あたりまえ
だろ！
いくら
オスカー
だって！

わかったよ
わかった
から
学校の
財産
こわすな
ヨチ
ヨチ
たのむ
から

彼……
校長室…？

それこそ
いかんかったら
はったお
そうと
思ってたが

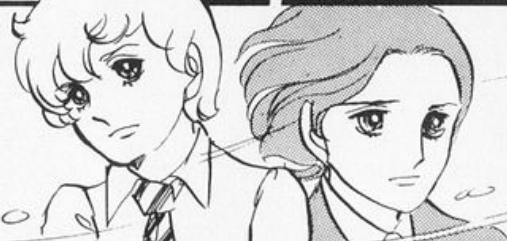
おい 涙と
ハナ水
落とすなよ
るせー！
さっさと飲め
残すんじゃ
ないぞ！
グシ
ぐ

なぜ
あの時

きみも——また
知っていて

ぼくがみずからを
あわれんでいたあいだ——

……校長先生は……?
なんの用だい
もしきみが……
……
ぼくが……ここにいていいのならもしきみがだれか必要でぼくを好きなら
もしきみが……
彼ね──校長ね──
……ぼくのおやじ……
ぼくのおやじさ

最初ここへ つれて こられた時から わかってたんだ あ こいつかって
南米へいった グスターフおやじが ほんとうの おやじじゃ ないことは なんとなく 小さいころから カンづいてたしね
ぼくは ぼくの母も父も だい好きだったよ 母はぼくを 溺愛したし
父は一風 かわったように ぼくに接した 母のまえでは ほとんどぼくを 無視し 愛情を しめさなかった
ぼくの父が ぼくの母を殺して 逃亡した 一年間は
グスターフおやじが もっともぼくに やさしかった時間だった
ぼくは いささか くっちゃべり たい気分
オスカー?
しゃべらせ といて くれないか
いあわせたのが 不運だと 思ってさ

ふん…と
ぼくは思ったよ
校長を見てね
ふん…こいつか
こいつが
グスターフおやじに
ぼくの母を
殺させ
グスターフから
ぼくを
引きはなす
はめになった
ぼくの
おやじか
……
彼が
いなけりゃ
じっさい
ぼくという
人間は
いなかった
からね
半ズボン
長い
マフラーを
まいて
学校に
やってきた
彼
おとなっぽい
目をして
おとなっぽい
口をきいて
金髪を
かきあげてた
彼
…このやろうと
思ってる…と思ってたん
だがな
でも
ぼくの心のなかを
ひっくり返して
さがせば
さがすほど
憎しみの
根元なんて
出てこない
日ごと
情がつのる
ばかり
──お・や・じ・さ・ま
ひねてる
ぼくでさえ
こうだからな
…彼…校長
どんな気持ち
だろう

もう一度血圧を
もし彼が死んでしまうんなら
意識のなくなるまえにぼくはどうしてもいってやりたいことがあるんだ
──愛してるって！
大声で耳のそばでわめいてやる
……愛していた……校長先生を……？
…でもきみはそんなそぶりなぞすこしも……
じっさいぼくはいい生徒でもいい息子でもなかったからね…！
きみの手のうちはそれ？…ずっとまえぼくにいった…

そうだよ
ぼくのカード
ぼくの
ジョーカー
でも
ぼくの望んだ
ことは――
気づいて
くれること
だったんだ
きみでも
彼でも
ぼくが
愛してるって
ことに
…許して
いた…？
すべて
くだけ
うん
ユーリ
すべて
のみこみ
時の輪は
ゆき去る
ゆっくりと
ぼくは
待っていた
それだけ
過去へ

ガチャリ
カーン…
もう大丈夫だよ
先生…ほんとうに…？
一か月ほどは起きられんだろうし入院も考える必要があるが
—今はな
顔を見てきてもよろしいよ
………

ユーリ！
校長先生ぶじだよ
ほんと!?オスカーは？
校長室だよ
ぼくいってくる
だれもいない部屋に帰んのいやだったんだろうなわれわれんとこきてひと晩起きてたよ
よるかい？お茶をしんぜるよ
……ええ

ヤコブ館の二階はし…お茶会の部屋
どうぞ！ついにきみを招待できたわけだ！
おやんユーリ
おおお茶！オレにもいっぱい
まいったな…むふーねむう
気にせんでくれ連中は
エーリクにつきあってS・Fの話しながらカンテツしたんだ
明るい部屋
すでに散らばった羽もない
校長は助かったわけだよかったたな
ええ
どうしたんだい？きみは笑ってるね
いとも幸福そうに
ええバッカス
……神さまは
人がなんであろうといつも愛してくださってるということが
わかったんです
ああ？ああ！
ま人間は神さまの作品なんだからいつでもかわゆいもんさ
多少の欠点はあれど
もうずっと――
ずっと――

ぼくは幸福ではなかったか――?
翼を失い心を閉ざしてなにくわぬ顔をし日びを送っていた時も
トーマがぼくを愛してると知って苦しんだ時も
その遺書をうけとった時も
閉ざしたとびらをたたくトーマの手の音にいつもおびえていた時
影はエーリクと重なり殺意すらもち
ぼくは幸福ではなかったか?
…それでもぼくは幸福ではなかったか?
ユリスモール
ユリスモール
あらゆる日びあらゆる時ぼくは――
ユリスモール愛している
ぼくは…
シュロッターベッツを出ます

一時は
どうなることかと
思いました
がね
その野花は
意外や
オスカーですよ
心身のやすらぎが
この病気には
一番なんだと
いうと
とんでって
つんできた
んです
思ってたより
情のある……
養子の件…反対
しませんよ
あなたも
たおれる
ほど
彼に心を
かけてる
ようですから
…いい子だよ
グスターフの
息子だ……
それから
ユリスモール
・バイハンが
転学すると
いって
きました
ボンの
神学校に
……
神父になるんだ
そうです
…ほう
聞いた—?
ユーリが
学校
やめんの!
なんだ
ってえ!
いつさ!
…うそ!
彼
なに
しでかし
たんだ!?
エーリク!

うそだよ！こいつはヘルベルトのたくらみだ！
ホーマン先生から聞いてきたんだよ！
ぼくを動揺させみんなでからかうつもりだろう！
悪いのはおまえだ！
おまえだ！
おまえだ！
ユーリに聞きゃいいだろ！
その通り聞いてきたら？
オスカー！
ユーリは聖堂
じゃほんとオスカー
そボンの神学校にね
ボンの神学校！
彼神父になんの
ユーリらしいや

追ってもむだだろうエーリク
トーマは彼をつかまえた

だからもう待つこともないのだ
すでにユリスモールは歩をふみ出した

そうしてそれがぼくらのわかれ
わかれであり始まりであり

エーリク！
ぼくも神学校にいきます手続きとってください

…ボン
そのなんて町だ？
ボン！ボン！ボン！

悪いことはいわん！人間には天性ってもんがあるきみは神父に向いてないよエーリク

見捨てないでボーサン
エーリク！

ひどいじゃないか！ぜんたいどういうわけさ話もなにもなくいきなり！
…これただの冗談だろうそだろ？ほんとは……
ぼくは明日立つ
じゃあいってしまえばいいいってしまえばいい
エーリク
ぼくやオスカーや親衛隊を見捨てて…かってにいってしまえばいい！
きみぼくにきみの翼をくれるっていったね
そういったね？

消灯
消灯
消灯だよ 異状ないね!
あれ? オスカー ユーリは?
ぼく かわり ユーリは部屋のかたづけで いそがしい
じゃ ほんと? いっちゃうって
ああ
彼に元気でって いっといてくれる?
うん
伝えとくよ
前言撤回 きみがいって しまうんなら 翼どころか 髪の毛 一本だって やんない やんない
いやだ…!
ぜったいに いや!
…ぼくはきみに 話したいことが たくさんある……

きみを見てると
過去に起こったあらゆるやさしいことを思い出す
初めて好きになった少女
見知らぬ人の親切
涙
妹の生まれた朝
クリスマスの粉雪
きっときみは本心から人をうらんだり憎んだりしたことなどないのだろうね
だからみな心をよせてきみを見る
——恋神——
きみがいったらぼくはきみをとことんうらんでやるから!
ぼくはトーマが好きだった
好きだった
口の端よりことばのいずるまえに
すでに目はものごとを語るけど
トーマ・ヴェルナーはそんな子だった

静かな子だったよ
ほかのもろもろの信奉者と同じように
ぼくもまた彼を崇拝し彼を見ると幸福だった――
そしてぼくは彼を――
というより自分を――
―うらぎったんだ
ユーリ!
…サイフリート・ガストをおぼえている?ギーゼンの駅で出あった……
……!
ギーゼン…!?ああ あの…八角メガネの…
彼がサイフリート?彼 なに?

おもて向きは素行不良と放火未遂で
去年のちょうど春放校になった四人のうちのひとりが彼なんだよ
……
去年の春？
サイフリートは高等部の四年生で
たいそうな読書家だった
しょっちゅう図書室に出いりしていた
悪い！図書委員もう少し…
あ！この本もう期限きてるの レポート書いてんだよ “ルネッサンスとヒューマニズム”について！
かまいませんよ ただ新書だからぼくも読みたいと思って
レポートおわったら……
あててみようか きみの父上ギリシア系だね？
……ええ
すてきな黒髪だ

やがて
イースターの
一週間の休日がきた
ぼくは
学校へ
残っていた
妹が入院した家で
あらかたの時間を
留守居してる祖母と
すごすと思うと
帰る気に
なれなかったのだ
よ…！
ユーリ…！
彼らもまた
学校にいた
罰則をくらって
学校に残された
組だった
長いこと
ありがと！
〝ルネッサンスと
ヒューマニズム〟
レポート
完成したよ！
あ
きみがそれを
読みおえたら
感想を
聞きたいな
論じようぜ！
ヤコブ館の
二階のはしが
オレたちの
部屋だよ！
こいよな！
待って
るぜ！
お茶会の……
いったの？
……
なんで…！

…………
ひかれてたから……
ユーリ！
だって じゃトーマは!?
ぼくは
彼がどんな上級生か知ってたそれでも……
彼に近づかないほうがいいとべつの自分がささやいた…でも
心の中によい種と悪い種があって
よいほうはトーマにひかれ
悪いほうは彼にひかれたんだ
ぼくは翼を引きちぎられたといったけど
サイフリートの招待に応じた時から
…自分で捨てていたんだ

彼からは
残酷なにおいがした
ぼくはその時
彼の部屋へ向かった
自分がどんなに
ひきょうだったか
知ってる
……きみのキズ……
その
背中の
ひっかいた
キズ……あの
八角メガネが
やったの…？
ひっかいた
―キズ
じゃないよ
教卓用の
ムチの
あとだよ

サイフリートはきみをよんでどうしたの？なにがあったの？
彼らはぼくを思い通りにさせたかったんだよ

思い通り？

そしてぼくはそうしたんだよ

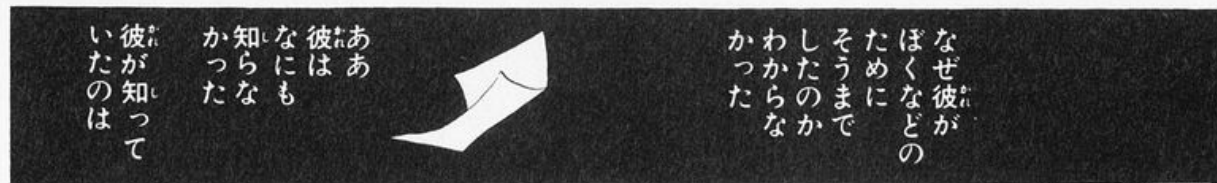
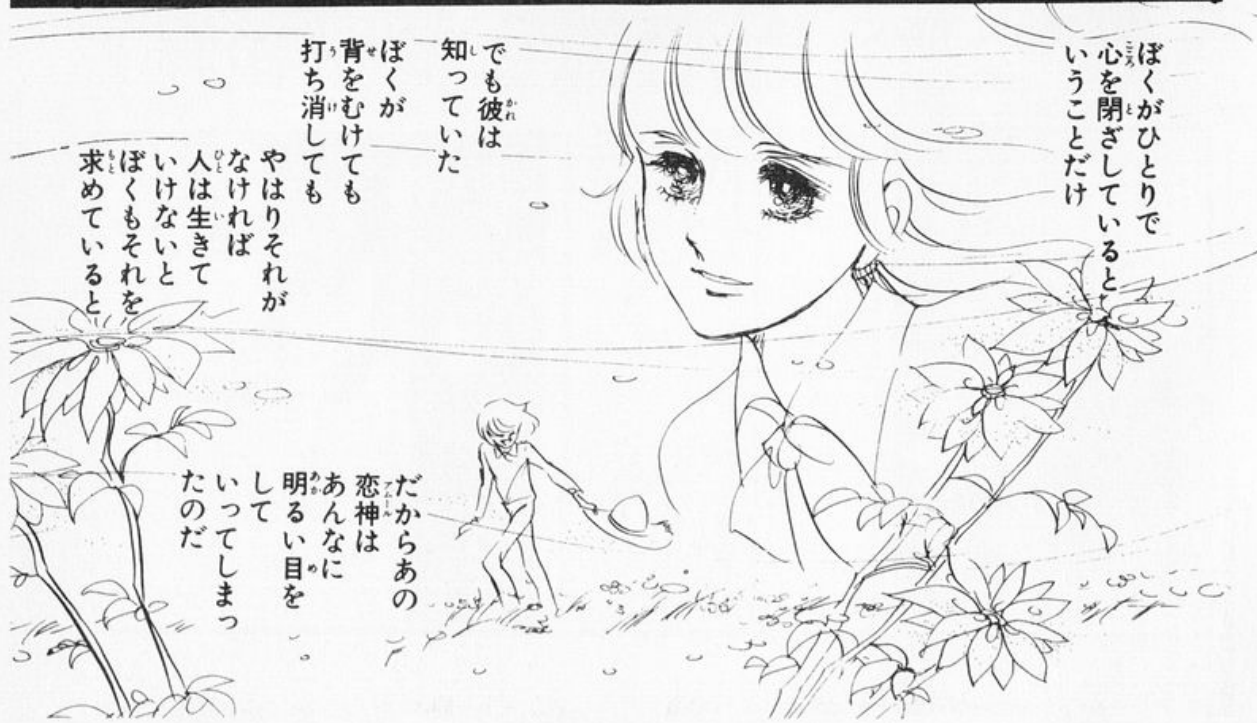
やあきたね…！

その夜のそれは彼の主義である悪魔学などのはいったお遊び——だった
彼は笑っていた
笑っ——ていた
すべて人間は堕天使さ
神？神がなにをした？
なんの信仰など事態が急変すればくだけて消える！
ご都合主義で安易なものさ！
—彼はそれをぼくで実証した——

水をいっぱいくんでくれないか
そら目をさまして…！すてきだよ信心深いユリスモールまだ考えをかえないね
だがしょせん暴力には勝てない
これで最後だよ…さあいってごらん…どうしてもいわせてやる
君のいう神さまよりぼくが上だと！ぼくを信じてると！ぼくを愛してると！
Ja！ひとことと！
ひとことでいいんだ
きみはぼくが好きなのだろう？

……ユーリ……
そしてぼくは そうしたんだ
彼のいう通り ひざまずいて
主のかわりに 彼の足先に くちづけ して
くり返したんだ 許してください 許して なんでも しますって……
もうやめて
もうやめて! もうやめ… もういい ……!

ぼくは
答えられ
なかった
ぼくには
なんの価値も
なかった
ぼくは
——ぼくが
トーマに
…火を
おしつける
夢さえ
見たんだ

ぼくは
あまりに
つらかったので
ムリに自分は
だれも
愛しては
いないのだと
いいきかせた
あの雪の朝
トーマの死の知らせを
聞いて
部屋までの
雪の残った
石だたみを
歩きながら
たいそう
ふくざつな
思いが満ち
て……
すると
オスカーが
彼からの
遺書を
わたした
事故ーなど
ではなく
なぜ彼が
ぼくなどの
ために
そうまで
したのか
わからな
かった
ああ
彼は
なにも
知らな
かった
彼が知って
いたのは
ぼくがひとりで
心を閉ざしていると
いうことだけ
でも彼は
知っていた
ぼくが
背をむけても
打ち消しても
やはりそれが
なければ
人は生きて
いけないと
ぼくもそれを
求めていると
だからあの
恋神は
あんなに
明るい目を
して
いってしまっ
たのだ

さようなら
ぼくはゆくよ——ゆくよ
それできみには
すべてが
残されたことになる
そしてなにも
失うものはない
愛していると
いった
その時から
彼はいっさいを
許していたのだと
彼がぼくの罪を
知っていたかいなかが
問題ではなく
——ただ
いっさいを
なにがあろうと
許していたの
だと
それが
わかった時
ぼくは……
……トーマ……
もう一度
主のみまえで心から
語りたいと
思い……

こんなに急に立つんじゃおわかれパーティーもできないね
元気でな
手紙くれよ
いやんなったら帰ってこいよ
バカ
うんじゃあね
そら始業の鐘だよ
やれやれ最後まで委員長だね
エーリク
これを……
なに?
ユーリに…列車の中で見てって
ユリスモールがいきますよ
つぎの舎監はだれが?
わたしですよ一年ぶりに!
駅まで送るよユーリ!
うん
いってしまう
ほんとうにいってしまう

なんだいそりゃ

きみにだってレドヴィが

どれ

だめっ 列車のなかで見てって……

こりゃ図書室の本だよ あのコソドロ!

ガタ!
あの列車だよ
トランクは?
時間ないね
それじゃ
うん
元気で
きみも
卒業したら
あおうぜ
…うん
ガタ!
だまってないで
なにかいうこと
ないのエーリク?
ないよ
ぎゅ!

……
……
ユーリ……

学校なんか もう
やめるんだ

やめて どう
するね
ボーデンにいく
シドがいる

バカいえ
夏休みは
まだ早いよ
それに
ほかの
友人どもは
どうすんの

バッカスや
ヘルベルトや
リーベや
ぼくや……
きみは
もっと勉強
しなけりゃ
だめだよ……

ねえ…
ル・ベベ

パラパラ

ヒラッ

1974年週刊少女コミック第19号（5月5日号）〜第52号（12月15日号）

トーマの心臓 ―完―

●エッセイ

愛について

大原まり子

二十年も前のこと……高校の教室で、クラスメイトから借りた『トーマの心臓』を読みふけった。

夕陽の射し込む放課後の教室……その時間は、いまも心のどこかから取り出すことができる。それは想いに彩られた記憶の彼方で、まるで萩尾望都の描線によって現れ出た世界のように、美しく儚(はかな)く、至福の時となって結晶している。

『トーマの心臓』の解説を引き受けるなどという大役がやがて巡ってこようとは、夢の中にいるような不思議な気持ちだ。

愛とは時に暗愚なものではあるけれど、愛がなくては、作品に触れることもできない。

人は人に似せて芸術を生み出す。

芸術のような人の心に触れ合おうとして、トーマはユーリを愛した……。

人類という種の際立った特徴だと思われるが、生まれ落ちたばかりの赤ん坊は無力な生き物だ。赤ん坊が無事に育つには、〝愛〟という、まことにとらえどころのないものに頼るしかない。

わたしたちは他者の愛によって育まれ、ひとたび成長すれば乳幼児期に貪(むさぼ)ったような過

剰な愛は必要がなくなる。いやむしろ、過剰な愛は毒のように蝕んで成長のさまたげになってしまう。
愛は人と関わり合いたいという本能の欲求であり、すべての欲望がそうであるように諸刃の剣である。
はじめは絶対的に必要なのに、のちに猛毒に変わってしまうとは、まるで「かごめかごめ」の歌のように怖ろしいではないか。
出産を含む母性、そして、愛について——萩尾望都はずっと格闘しつづけてきたのだと思う。
たとえば本書においても、エーリクとその美しく奔放な母マリエは盲目的な愛によって結ばれているが、マリエの死、さらにエーリクのさまざまな体験そして成長によって、やっと別の形の愛へと——破壊的に作用しない愛情へと変容を遂げてゆく。
愛は死をはらむ。
冒頭、雪の降りしきる美しい朝、十三歳のトーマ・ヴェルナーは線路に身を投げる。トーマの放った愛の剣が心臓を貫いて、ページを繰るわたしたち読者までも、主人公ユーリもろとも一つの物語の中へ、投げ込まれてしまう。
ヨオロッパのギムナジウムの生活がどのようなものか当時も今もわたしは知らないのだけれど、のちに大学で寮生活をおくるようになった時、萩尾望都の描いた風景がそここに現れ、ヴェールのようにあたりを覆うのを感じたものだ。

朝に夕に聖堂に響く若い歌声、樹々の風に戯れるざわめき、丹精された小さなバラ園、学生たちの深夜におよぶおしゃべりや、薫り立つお茶の時間、舎監の先輩へのほのかなあこがれ、そしてキャンパスのどこかにあると伝えられる秘密の小部屋……。

萩尾作品によってエロティックな回路ともいうべきものが開かれ、目の前に広がるあらゆる光景が瑞々しさをたたえながら、立ち現れてきたのだ。

トーマは、ユーリに、無償の贈り物をした。

その贈り物はエロティックな回路を開いた。

トーマの無償の贈り物――この世の肉体をまとうがゆえに、〝死〟という胸の張り裂けるような悲しみのつまった贈り物――は、精神の死に至る病いに深々と突き刺さる。

愛はエロスをはらみ、エロスは死をはらむ。

エロスは死をはらみ、エロスは再生させる。

トーマの死は、恨みでも怒りでもない、それはただ、無償の、愛する者へのプレゼントであった。

トーマには、救済を求める魂の叫び声が、長い長いあいだ聴こえていたにちがいない。耳を聾するようなうめきが、絶望にみちた苦しみが。暗黒の地下に葬られそうになっている生命の息吹き、いのちそのものが踏みにじられる耐えがたい苦痛……。

誰もがいう、トーマは天使のような子だったと。

トーマとは、大地の精霊にじかに触れ合うような人間であったにちがいない。

生命力を打ち砕くすべての力に刃向かい、大地から受け取る無償の贈り物を、大地と同じように、あたりに分け与えずにはおられぬ人間であったにちがいない。その心性は、どれほど貪られようとも黙って慈しむ母性のひとつの相貌（かお）である。

ユーリがその中にトーマを見た、トーマにそっくりの少年エーリクもまた、生命の躍動に満ちているというまさにその点において、ユーリの憎悪の対象となる。

なぜ憎むかといえば、溶鉱炉のような生命のエネルギーが、いつか、なにかを、変えてしまうからだ。

変化をもたらす何物かは、とても怖ろしい。

それは時に破壊的であり、古いものを打ち砕き、殺してしまう。

それは、じわじわと侵入して建物を傾（かし）がせてしまう植物の根のようなものだ。あるいは、どこまでもどこまでも、うねりながら、津波のように伝わってゆく音楽のようなものだ。

そして音楽といえば——萩尾作品には、これもたくさん現れる光景であり、音がしないはずの紙の中にどれほどきらびやかな音楽が迸（ほとばし）り、それら美しい音楽が幾度となく世界を滅ぼし、また再生させたかを、わたしたちは知っている。

ひとたび『銀の三角』をめくれば、蛇に似た黒髪をターバンの奥に隠した少女の奏でる音楽が、夢となって現実を浸食してゆくのを見ることができるだろう。その夢はある世界を消滅させ、同時に世界を構築し直す力あるものだった。

あるいは『スター・レッド』の主人公レッド・星（セイ）。こともあろうに物語の途中で死んで

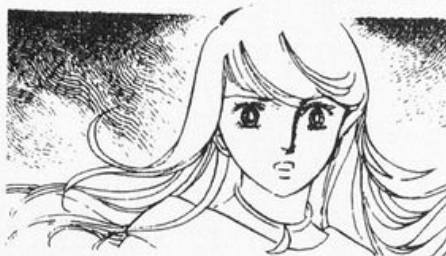
しまう真紅の目の美少女は、死をもって世界をつなぎとめるが、彼女の念動力が引き起こす破壊もまた、どこか音楽の波動に似ていなかったか。
ともあれ、トーマの放った波動に触れた人たちが、そのまま何も変わらずに生きつづけることは不可能だっただろう。
なぜなら、それは飢えた虎に生身を与えたという仏典の伝説の激しい輝きであり、人々が〝神〟とよぶものの、奇跡のような顕現（けんげん）だったのだから。
そして最後につけ加えておこう。
トーマがユーリに与えた無償の贈り物とは、萩尾望都がわたしたちにプレゼントしてくれた『トーマの心臓』という作品そのものでもある、と——。

大原まり子

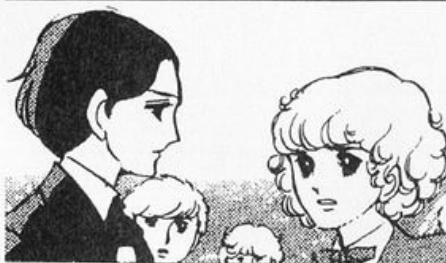
作家。一九五九年大阪生まれ。聖心女子大学在学中の八〇年、第六回SFマガジン・コンテストで『一人で歩いていった猫』が佳作入選、デビュー。『ハイブリッド・チャイルド』『吸血鬼エフェメラ』（早川書房）など著作多数。『戦争を演じた神々たち』（アスペクト）で第十五回日本SF大賞受賞。

11人いる！

宇宙大学最終試験。１組10人の宇宙船に11人いた

●収録作品　11人いる！／続・11人いる！　東の地平西の永遠／スペースストリート★エッセイ：中島らも

スター・レッド

第５世代の火星人、真紅の瞳のレッド・星。だが、彼女が火星に帰った時、大いなる厄災が始まった

★エッセイ：小谷真理

トーマの心臓

冬の終わりのその朝、１人の少年が死んだ。ギムナジウムの少年たちに投げかけられた愛と恩寵！

★エッセイ：大原まり子

訪　問　者

『トーマの心臓』番外編の表題作など珠玉の４編

●収録作品　訪問者／城／エッグ・スタンド／天使の擬態
★エッセイ：折原みと

11月のギムナジウム

『トーマの心臓』の原点を含む初期傑作集

●収録作品　11月のギムナジウム／秋の旅／塔のある家／もうひとつの恋／かわいそうなママ／白き森白き少年の笛／セーラ・ヒルの聖夜　★エッセイ：羽仁未央

●全巻絶賛発売中!!●

小学館文庫

トーマの心臓

1995年9月1日初版第1刷発行（検印廃止）
1999年1月1日　　第13刷発行

著　者 ―――――― 萩尾望都

発行者 ―――――― 武居俊樹

印刷所 ―――――― 図書印刷株式会社

発行所 ―――――― 株式会社　小学館

101-8001　東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
振替（00180-1-200）
TEL　販売 03-3230-5749
　　　編集 03-3230-5456

ISBN 4-09-191013-0